

令和5年度 事業報告

目 次

1	廣望会・役員会開催状況	P 1
2	財産取得	P 3
3	借入金と償還金の状況	P 4
4	クリーニング工房 CoCo の状況	P 5
5	アトリエ CoCo の状況	P 13
6	キッチン CoCo の状況	P 31
7	CoCo JAVJAV・Bakery Cafe CoCo の状況	P 47
8	スタジオ CoCo ・CoCo レスト の状況	P 58
9	アートカフェ CoCo の状況	P 82
10	CoCo 金沢の状況	P 91
11	地域生活支援センターCoCo の状況	P 100

令和6年6月5日

社会福祉法人 廣望会

多機能型障がい福祉サービス事業所
多機能型障がい福祉サービス事業所
多機能型障がい福祉サービス事業所
多機能型障がい福祉サービス事業所

多機能型障がい福祉サービス事業所
生活介護 フリースペース
多機能型障がい福祉サービス事業所
共同生活援助・短期入所・相談支援・居宅介護
共同生活援助・短期入所・相談支援

クリーニング工房 CoCo
ア ト リ エ CoCo
キ ッ チ ン CoCo
CoCo JAVJAV
Bakery Cafe CoCo

スタジオ CoCo CoCo レスト
アートカフェ CoCo
CoCo 金沢
地域生活支援センターCoCo ながの
地域生活支援センターCoCo ちくま

社会福祉法人 廣望会

お陰様で本年度法人設立 26 年にして、昨年度金沢市に開所させて頂きました「CoCo 金沢」を加え 11 事業所（+ 8 グループホーム、長野市南部障がい者相談支援センター及び千曲・坂城基幹相談支援センター事業受託）、職員 222 名にてご利用者様 542 名 + 相談 919 件（就労継続 A 型 52 名、就労継続 B 型 100 名、生活介護 61 名、就労移行 1 名、グループホーム 48 名、地域生活支援事業 93 名、相談支援事業 919 件、地域活動支援センター 187 名）の支援サービスを運営させて頂きました。

コロナ感染症が 5 類となり活動の制限も少しずつ緩め、日帰り旅行の実施・長野中央ライオンズクラブの皆様とのフードドライブの実施・家族会の活動も総会及びつどいの実施等を行いましたが、まだまだ対面でのオープンイベント等は自粛をせざるを得ませんでした。そんな中で所員の皆さんに出来得る限りの仕事の確保とお楽しみの場を創りメリハリのある日課の支援の工夫努力を進めて参りました。

また、就労支援事業のホテル・旅館等のリネンサプライ・クリーニング業、BakeryCafé、弁当業、農作業、施設外就労とすべての仕事がコロナ感染症が 5 類となり仕事が大分戻ってはきたものの、原材料諸費・燃料等の高騰及び最賃の大幅アップにより、厳しい状況は継続となりました。

そして、社会情勢・生活環境の変化激しい時代において、福祉ニーズの多様化、障がいの多様化に伴ってのサービス提供の在り方の難しさを改めて実感するところですが、こんな時だからこそ共生社会を目指してその人らしいその人が望む地域生活の一助となるようすべての事業所が努めて参りました。また、地域の中で支えて頂いていることへの感謝の気持ちを込めて、地域の中で障がいのある方たちと一緒に当法人が出来ることを真摯に考え進めて参りました。そして、障がいのある人もない人も・・・誰もが地域の中で笑顔で「働く」「暮らす」を当たり前に実現できる地域づくりの一端を担うべく、今後においても進めて参りたいと思います。

社会福祉法人 廣望会の役員会等の開催状況

【監事監査】

令和 5 年 6 月 8 日 令和 4 年度事業に関する監事監査

【理事会・評議員会】

令和 5 年 6 月 15 日 第 98 回理事会

- (1) 令和 4 年度事業報告、決算報告、監事監査報告について
- (2) 運営規程の改定について
(地域生活支援センター CoCo ながの・地域生活支援センター CoCo ちくま)
- (3) 役員(理事・監事)改選について
- (4) 定時評議員会を決議省略の方法により行うことについて

令和 5 年 6 月 29 日 第 58 回評議員会

- (1) 令和 4 年度事業報告、決算報告、監事監査報告について

(2)役員(理事・監事)改選について

令和5年6月29日 第99回理事会

(1)理事長の選定について

(2)常務理事の選定について

令和6年2月29日 第100回理事会

(1)令和5年度補正予算について

令和6年3月30日 第101回理事会

(1)クリーニング工房 CoCo 乾燥機入換え工事について

(2)令和6年度事業計画および予算について

クリーニング工房 CoCo タオル作業室の改築計画について

スタジオ CoCo 連続洗濯機入換え・乾燥機購入の計画について

CoCo ホーム白塚 102 移転建設計画について

千曲市地域活動支援センター運営事業の業務受託について(CoCo レスト)

長野市障害者地域移行相談支援事業の受託について

各事業所の事業計画・予算について

(3)運営規程の変更について

(4)福祉・介護職員処遇改善規程の改定について

【評議員選任・解任委員会】

開催なし

【諸会議・その他】

* 毎月1回経営会議(月次報告含む) 出席者:理事長 参与 事務局長 各事業所長

法人の経営状況、各事業・福祉サービスの運営状況について協議を行った。

* 毎月1回会計月次報告検討会

出席者:会計事務所 参与 事務局長 各事業所長 事務担当

会計事務所より月次の報告を受け、各事業の経営状況について確認、協議を行った。

* 各事業所にての定期的な職員会議の開催

経営会議及び管理職会議の内容の周知、作業・生活支援上の課題検討、ケース検討・就労事業検討等を行った。

ほか、毎日職員打合せを行い様々な気付き・情報をタイムリーに共有し検討をし、チーム支援を行った。

* 各種団体の諸会議及び研修等への参加

・知的障がい福祉協会・セルフセンター協議会・県社協・県・長野市自立支援協議会・千曲坂城自立支援協議会等の研修及び部会活動等に各事業所より積極的に参加をした。(zoom等)

【社会貢献事業】

* 地域の小学校との交流会「み～んなともだちプロジェクト」(福祉教育の実践・長野市)

* 引きこもりの子供たちや大人たちの活動の場の提供(フリースペース・須坂市・千曲市)

* 荒廃農地の活用(長野市)

* 長野中央ライオンズクラブとの協力による生活困窮の子供たち・者への支援(フードドライブ・長野市(コロナ禍のため中止))

- * 長野市生活困窮者自立支援事業への支援協力(プチバイト事業/認定就労訓練事業所登録・長野市)
- * 緊急ショートステイの提供 (長野市・千曲市・坂城町)
- * 長野県知的障がい福祉協会の活動への積極的参加協力
- * 長野市及び須坂市、千曲市・坂城町の自立支援協議会への積極的参加協力
- * 長野市住民自治協議会積極的参加協力
- * 長野市場がの市教育センター運営委員会出席
- * ながのアビリンピック運営委員会出席
- * 長野市社会福祉審議会の地域福祉専門分科会出席
- * 長野市ひきこもり支援ネットワーク会議出席
- * 長野県障がい者雇用フォーラム会議出席
- * ほか、地域の行事活動への積極的参加協力

廣望会並びに施設に関わる財産取得

令和 5 年 4 月	クリーニング工房C o C o	駆動モーター乗せ換え
	総事業費	6 6 0 , 0 0 0 円
令和 5 年 7 月	クリーニング工房C o C o	連動洗濯機パッキン交換
	総事業費	5 , 2 8 0 , 0 0 0 円
令和 5 年 7 月	クリーニング工房C o C o	エアドライヤー交換
	総事業費	4 5 0 , 1 2 0 円
令和 5 年 8 月	アトリエC o C o	作業室エアコン
	総事業費	1 , 4 1 1 , 3 0 0 円
令和 5 年 8 月	グループホーム山王	エアコン
	総事業費	3 5 4 , 2 0 0 円
令和 5 年 1 0 月	グループホーム表参道	エアコン
	総事業費	4 4 1 , 6 5 0 円
令和 5 年 1 1 月	ベーカリーカフェ	レジスター
	総事業費	2 1 8 , 3 5 0 円
令和 5 年 1 1 月	CoCoJAVJAV	乾燥機
	総事業費	2 , 3 8 7 , 0 0 0 円
令和 5 年 1 1 月	クリーニング工房C o C o	昇降補助ローカーフト
	総事業費	3 8 5 , 0 0 0 円
令和 5 年 1 2 月	クリーニング工房C o C o	乾燥機導入工事
	総事業費	5 , 8 9 2 , 0 9 5 円
令和 5 年 1 2 月	クリーニング工房C o C o	リフトパニア交換
	総事業費	7 1 5 , 0 0 0 円
令和 5 年 1 2 月	クリーニング工房C o C o	洗濯機改良工事
	総事業費	3 , 7 3 2 , 9 6 0 円

令和 5 年 1 2 月

クリーニング工房 CoCo ボイラー
総事業費

2,137,905 円

借入金と償還金の状況

令和 5 年 7 月

福祉医療機構へ償還 840,000 円
" 利息 17,640 円
(アトリエ CoCo 建設時借入金)

毎 月 福祉医療機構へ返済(年額) 2,292,000 円
福祉医療機構借入金利息(年額) 67,856 円
(地域センター CoCo ちくま 三本木建設時借入金)

毎 月 八十二銀行借入へ返済{年額} 1,152,000 円
八十二銀行借入金利息(年額) 136,154 円
(地域センター CoCo ちくま 三本木建設時借入金)

毎 月 福祉医療機構へ返済(年額) 1,548,000 円
福祉医療機構借入金利息(年額) 81,555 円
(アートカフェ 建設時借入金)

毎 月 八十二銀行借入へ返済{年額} 604,000 円
八十二銀行借入金利息(年額) 2,183 円
(スタジオ CoCo 送迎バス購入時借入金)

毎 月 八十二銀行借入へ返済(年額) 1,375,000 円
八十二銀行借入金利息(年額) 91,129 円
(スタジオ CoCo 脱水機設置時借入金)

毎 月 八十二銀行借入へ返済{3 年据置返済} 920,000 円
八十二銀行借入金利息(年額) 309,407 円
(CoCo レスト建設資金)

毎 月 福祉医療機構{5 年据置返済} 0 円
福祉医療機構借入金利息(年額) 30,000 円
(運転資金)

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型障がい福祉サービス事業所

ク リ ー ニ ン グ 工 房 Co Co

感染症が五類に移行すると同時に仕事量が大きく変動した一年でした。仕事量の増減が感染症拡大以前のような流れに変わり、その影響は少しずつなくなっているように感じています。

経費面では、ガス代、電気代の政府の補助金介入もあり、少し抑えられた経営ができたように感じます。

仕事量は順調に戻ってきているものの、利用者の方々にはコロナ感染症による期間が、とても大きく影響が出ている現状があります。

一日を通して気力や体力が継続できない。外出を控えていた生活による二次的な障がいなど、感染症以前の頑張りが維持できない利用者が増加しています。

また、最近の傾向として、支援学校の卒業者が一般企業の障がい者雇用枠に就職する方が多く、学卒者の入所がなく平均年齢も下がらないことも要因の一つと考えています。

若返りを図りながら新しい風を入れ、経費を節減し、利用者のやる気を引き出す魅力ある施設づくりが大きな課題となりました。

支援員の担当部署を変えることも継続して、普段と違った利用者の方々との関わりを持ち、支援力の向上にも努めてきました。

一年を通して、利用者の方々が、休まずに通所して頂いたことには本当に感謝しています。

安定した仕事を確保して頂き、様々な面でご尽力いただいた関係する多くの方々に感謝するとともに、利用者の方々と支援員の力を十分に発揮できるようにしていきたいと思っています。

就労継続支援A型

1 事業の開始

平成10年8月1日 知的障がい者福祉工場操業開始

平成19年4月1日 障害者自立支援法のもと、多機能型事業所となる。

平成30年5月1日 定員を20名から24名に変更する。

令和2年4月1日 定員を24名から25名に変更する。

2 利用者の推移

令和5年3月31日 24名

令和5年11月30日 1名退所 23名

令和6年3月31日 現在 23名

3 利用者の内訳

○出身市町分布

長野市6名 千曲市10名 上田市3 坂城町3名 築北村1名

○性別 男性 17名 女性 6名

○年齢

20歳～53歳 平均年齢38歳

20代・・・7名 30代・・・4名 40代・・・10名 50代・・・2名

○障がい種別

全員知的障がい者療育手帳・・・ B1 10名 B2 12名 A1 1名

○その他

男性17名中利用者5名、女性6名中利用者3名がCoCoホーム千曲（当法人運営ケアホーム）より通勤

4 勤務体制

始業時刻...8：40 終業時刻...17：10

休憩...昼休み（50分）3時休み（20分） 実労働時間...7時間20分

・年間休日90日...繁忙期及び納期の変更等のため、1年単位の変形労働時間制で運営をしている。原則として木曜日・日曜日は休みとした。（希望者は残業も担っている）

5 利用者の通勤方法

（1）通勤支援 しなの鉄道戸倉駅と事業所間の送迎を行う 12名

（2）徒歩、自転車、自家用車 10名

（3）公共の路線バスおよび家族の送迎 1名

6 通所状況

勤務実態（出勤率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
92.9%	94.4%	92.5%	93.0%	94.2%	98.3%	97.3%	92.3%	92.6%

1月	2月	3月	年平均
92.9%	92.1%	95.3%	94.0%

全体の通所率は前年度平均とほぼ同様。

7 利用者の給与

給与は最低賃金を確保するよう努力しているが、労働実態に合わせて労働基準監督署の承認を得て最低賃金の適応除外を受けている方が9名いる。通勤費は実質全額支給、有給休暇付与、社会保険・労働保険全員加入。雇用調整助成金の制度を使用。

○年収の状況

600,000円～1,000,000円	1名	（年度中途退所者含む）
1,000,001円～1,300,000円	3名	
1,300,001円～1,400,000円	3名	
1,400,001円～1,500,000円	8名	
1,500,001円～1,600,000円	8名	

平均年収 1,363,000円

月額平均 112,000円

(23名 障害者基礎年金受給...2級 23名 年間 822,250円)

8 個別支援計画

プロフィール・アセスメントシート等をひとりひとり作成。ご本人・ご家族・担当職員・所長との個別面談にて「就労継続A型支援計画」を立て、計画に沿って日々の支援を行った。6カ月ごとのモニタリングを実施して見直しをした。

9 利用者の作業内容

洗い場 3名 シーツローラー 4名 浴衣ローラー 2名
多種ローラー 9名 タオルたたみ 5名

- A型利用者は洗い場、ローラーでの作業が主である。中には体力等に応じ軽作業のタオルたたみを担う方もいる。
- 利用者は出勤率にもあるように、真面目に日々勤務をして自分の役割を果たしている。ただし、中には能力後退が顕著であり、限られた作業種にしか従事できない方が複数人見受けられる。

10 職員の指導態勢 総員 7名 (令和6年3月31日)

所長 サービス管理責任者

生活支援員 2名 職業支援員 2名 (パート 1名) 賃金向上達成指導員 1名

職業支援員は、個別担当を兼務する支援員とともに各作業部署に配置し、利用者の作業指導を始め利用者に無理な作業 (出荷に直接関わる作業など) や残業と次の日の段取り、機械メンテナンス等の作業をしている。

11 職員の処遇

服務規程及び賃金規定により処遇している。

障がい者の人権擁護については、平成24年10月の障がい者虐待防止法施行にあたり、特に職員としてあるべき利用者対応・指導方法について、個別指導及び相談に心がけた。

職員研修については、本年度の実績は下記のように実施した。

[研修実績]

所内研修 工場内における危機管理・安全管理と工場運営について
障がい者虐待防止・権利擁護養成研修

職員研修 長野県サービス管理責任者更新研修
クリーニング師研修 その他

主催・実施主体	内容	出席者
長野県知的障がい福祉協会	長野県知的障がい福祉研究大会	3名
長野県障がい者虐待防止・権利擁護研修運営委員会	障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修	1名

その他	危険物取扱者保安講習	1 名
その他	安全運転講習会	1 名

12 生産活動

取り扱い業務 ホテル・旅館寝具等のクリーニング

シーツ 掛けカバー 枕カバー クロス類 ナプキン類 浴衣 ガウン
タオル類 一般クリーニングの受付

協力顧客 (株)戸上リネンサプライ 長野リネンサプライ(株) 信州リネンサプライ(株)
上田市 坂城町 千曲市 労協ながの(つるの湯・福祉健康プラザ) 千曲
市高齢福祉課 千曲市福祉課 千曲市子育て支援課(千曲市内保育園4施設)
ともいきライフ月影 山崎建設(株)
(白鳥園) 坂城町保育園・児童館

生産状況 ○時間当たりの生産トン数は1.3トンとなっている。

13 健康管理

利用者の特性から健康管理には日々のきめ細やかな対応が必要なため
配慮をしている。(職員も同じ)

○日々の配慮

出勤前の家庭での検温・健康観察

施設入場時の消毒ルームの設置・検温・指消毒・健康観察

作業時の巡回指導と職員の直接指導

特定指導、相談

感染症予防のための「手洗い・うがい・消毒」励行のための声かけを常時実施

熱中症、脱水症状の注意喚起と水分補給の呼びかけを常時実施

○特定管理

・毎月2回の非常勤安里みどり看護師による健康相談

事業合計 延べ100人実施

健康相談時に体重測定、及び血圧測定、必要に応じて体温測定を実施し、経過的に記録
をして健康管理に努めている。

生活習慣の相談が主である。また、持病のある方や、体調を崩した方に対しては、健康
の維持についてのアドバイス等いただいた。

健康相談では、いつもと違う雰囲気の中で色々なことを相談することができている。普
段ご自分のことを伝えることが苦手で、訴えが少ない方も看護師にいろいろと相談がで
きていた。

・健康診断

日本労働福祉協会長野県支部による健康診断 令和5年6月21日(水)

・安里嘱託医師による健康診断 令和6年3月 6日(水)

○家庭連絡 必要に応じて随時行う。病院へのつなぎも行う。

○保健講話

安里嘱託医師による健康診断 令和6年2月14日(水)

講話についてはプリント配布

感染症対策防方法。

- インフルエンザの予防接種実施

令和5年10月11日(水)

14 安全・衛生管理

- 安全管理

日常、機械操作および安全確認を行っている。工場内の機械設備 安全・危機管理に努める、機械設備の保守点検、管理業務の見直し、危険個所に事故防止のためのガード等設置、作業標準手順書の整備、危険区域、部位に注意喚起表示の設置、機械修理時の標記、動作確認等を行っている。

日常的には、管理者の指示のもとに安全・衛生思想の普及や労災事故防止のための点検等を随時行うとともに、事故防止についての声掛けを継続的に行っている。

この他、衛生管理、危険防止として日々施設内外の整備に努めるため、朝礼終了後から作業開始までの時間を利用して、各部署毎に清掃に取り組んだ。

- 防災訓練

防災計画により、防災訓練を年度内2回実施した。

令和5年 12月20日(水) 消火・通報・避難誘導訓練

令和6年 3月 22日(金) 消火・通報・避難誘導訓練

避難誘導訓練においては消防署員より「非常によく訓練されている」と評価がある。

15 委託給食

常時利用者 20名

昼食数 年間266日 合計5,320食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見の吸収(随時)

誕生日メニューの実施

給食検討会の実施(キッチンCoCo:栄養士・調理員・所長・給食担当)

16 QOL活動の実施状況 - 就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様 -

工場稼働日におけるカルチャー教室の実施

・塗り絵・卓球・貼り絵・楽器練習

・季節に応じたミニ行事 「鏡開き」「節分豆まき」

諸行事の実施および参加

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

生活相談支援 随時或は特定して実施 健康上の問題 仲間関係

経済生活面等 ケースによっては圏域のコーディネーター、
関係機関とケア会議を行った。

家族会の運営 家族会総会 令和5年6月24日(土)クリーニング工房 CoCo

家族のつどい令和6年2月25日(日)ホテル犀北館

17 地域への開放状況

千曲市及び周辺市町

・若宮区及び芝原区には区費を納入し区民としての交際をしている。

・千曲・坂城自立支援協議会

運営委員会 就労・事業所連絡会 さんさんネット部会 地域支援部会

ケアマネジメント部会 全体会 に ZOOM 参加

同業者関係

環境衛生同業組合に加入、情報を得ている。

現場実習の受入れ

・稲荷山養護学校、千曲坂城相談機関センターから体験実習や就職をめざしての実習の受け入れ

・施設研修のための見学受入れ（学校、PTA、県内外の施設、企業等）
県及び北信の知的障がい福祉協会の一員として、各会合に ZOOM 参加した

就労継続支援 B 型

1 事業の開始

平成 14 年 4 月 1 日 障害者等共同作業訓練事業を開始する

平成 15 年 4 月 1 日 補助金認可され、新たにスタート

平成 19 年 4 月 1 日 障害者自立支援法のもと、多機能型事業所となる
（就労継続支援 A 型事業・就労移行支援事業）

平成 21 年 4 月 1 日 就労継続支援 B 型事業開始 定員 10 名

平成 25 年 12 月 1 日 定員を 10 名から 8 名に変更する。

平成 30 年 5 月 1 日 定員を 8 名から 10 名に変更する。

令和 2 年 4 月 1 日 定員を 10 名から 15 名に変更する。

2（利用者の状況）

令和 5 年 4 月 1 日 12 名

令和 5 年 12 月 1 日 1 名入所

令和 6 年 3 月 31 日 1 名退所

令和 5 年度における総在籍者数 12 名

3 利用者の内訳

○出身市町分布 千曲市 10 名 上田市 1 名 坂城町 1 名

○性別 男性 10 名 女性 2 名

○障害種別 知的障がい者 11 名（A 1...1 名 B 1...5 名 B 2...5 名）
身体障がい者 1 名

○年齢 25 歳～61 歳 平均年齢 44.5 歳

10 代...0 名 20 代...1 名 30 代...5 名 40 代...1 名 50 代...3 名
60 代...2 名

4 作業訓練内容

事業運営日数 266 日（基本的には木・日の週休 2 日制 他開所日は希望通所）

日 課 8:40～17:10 昼休み 50 分 3 時休み 20 分

（基本的には本人希望と体調・体力、家庭環境等状況を見ながら、ご本人に

とって無理のない状況で行っている。家族の介護、家事を担っている利用者等もいる)

作業訓練内容 タオル・ガウン・パジャマ・作務衣・ジャージ等のたたみ作業
公共温泉施設のマットのクリーニング(回収と配達も)
シーツ等投入補助 洗い場仕分け補助

状 況 ・ひとりひとり状況が異なるなかで通所状況も様々である。
・安定的な作業をする方が多数いる一方で、中には、作業の力の停滞が顕著に見られる方もいる。障がい特性や、心理的な部分で支援方法に苦慮をする場面もあり、必要に応じて家庭や相談機関との連携を図っている。
・12名のうち発達障害・自閉的傾向の方が4割の人数である。障がい特性や個性に合わせ専門的な知識や支援方法が必要であり、職員の支援技術の研さん習得が引き続き課題である。

5 利用者の通所方法

(1) 通所支援 しなの鉄道戸倉駅と事業所間の送迎を行う 2名

(2) 徒歩及び自転車 10名

事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている

6 利用者の通所状況

(通所率)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
79.7%	78.3%	72.6%	68.5%	75.6%	74.5%	80.0%	79.4%	81.4%
1月	2月	3月	年平均					
90.4%	82.3%	82.1%	78.7%					

7 利用者の工賃支給

月	平均工賃額	月	平均工賃額
4月	19,600円	10月	22,000円
5月	21,000円	11月	20,000円
6月	19,000円	12月	20,000円
7月	20,000円	1月	20,000円
8月	24,000円	2月	17,000円
9月	20,000円	3月	20,000円
平均月額 20,200円			

8 個別支援計画

プロフィール・アセスメントシート等をひとりひとり作成。ご本人・ご家族・担当職員・施設長との個別面談にて「就労継続支援B型計画」を立て、計画に沿って日々の支援を行った。
6カ月ごとのモニタリングを行い見直した。

9 職員の指導体制

所長 サービス管理責任者1名

支援員 4名 (うち1名目標工賃達成指導員)

10 健康管理

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業と同様

11 給食の提供

希望者には給食を提供した（ 1 食 3 0 0 円） 1 0 名 2 , 6 6 0 食

利用者の希望・意見の吸収（随時）

誕生日メニューの実施（利用者の誕生日近くに本人の希望メニューによる）

選択メニューの実施（今年度は特に希望を反映）

給食検討会の実施（キッチン C o C o : 栄養士・調理員・所長・給食担当）

12 Q O L 活動の実施状況

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業と同様

13 地域への開放状況

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業と同様

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型（ 就労継続B型 生活介護）

アトリエ CoCo

お陰様で本年度開所より18年目を迎えました。5月にコロナ感染症が5類となりましたが、時々陽性者が出ました（事業所内においての感染は一度もありませんでしたが）。

そんな中、オープンイベントは全て所内イベントとし様々な工夫をして楽しんだり、日帰りの家族旅行（山方面 池の平高原 と海方面 上越水族館 に分かれて）・家族会総会・家族のつどいを実施し、感染対策は行いつつ少しずつ通常の運営に努めて参りました。就労支援については、仕事は戻っては来ましたが燃料費・材料費等の物価高騰と苦しい運営の中、受託・施設外就労先に交渉をさせて頂き値上げをして頂いたり、農作物等にあつては市場価格に添った価格設定をさせて頂き所員の皆さんの工賃確保に努めて参りました。その施設外就労で訓練を重ねた就労継続B型の所員が晴れて企業への就職が内定し、めでたくアトリエCoCoを卒業となります。

また、しばらく対面での実施を控えていました地域の中で「地域共生社会づくり」の一環として保科小学校との交流会を再開しました。久しぶりの対面での交流会に少々緊張感もありましたが、所員も小学生も直ぐに溶け込み楽しく優しいひとときを過ごすことが出来ました。所員の一生懸命働く姿が、互いを思いやるやさしさが、笑顔が、人のこころを変える...誰にも負けないオンラインワンの人間力です。私たちは、地域の中で所員の人間力がいっばいに活かされる支援を築き上げるため、努力を惜しみません。

社会貢献として、「まいさば長野」とも協力体制を取り、生活困窮者への支援も含め、より良い地域社会を築き上げていくために、私たちは障害福祉サービスを提供する事業者として地域の中で何を成すべきかを考え、今後も地域の皆様と様々なチャレンジをしていこうと考えています。

就労継続支援 B型事業

利用者の推移

令和5年12月1日	1名退所	...在籍者数 40名
		総在籍者数 40名

生活介護事業

利用者の推移

令和5年4月1日	2名入所	...在籍者数 25名
		総在籍数 25名

就労継続支援B型事業

1 所員の内訳

出身市町村別

長野市 29名	信濃町 2名	須坂市 3名	飯山市 1名	小川村 1名	筑北村 1名
千曲市 3名	高山村 1名				

性 別	男 31名	女 10名
-----	-------	-------

平均年齢 40 歳（令和 5 年 4 月 1 日現在）
 障がい種別 知的障がい 37 名 精神障がい 4 名

2 通所方法

送迎バス利用 長野駅より 14 名 大豆島東団地より 5 名 信濃川田駅より 4 名
 川中島駅より 2 名

家族の送迎 5 名
 自転車または車（本人運転による） 5 名
 徒歩 5 名
 路線バス 1 名

3 日課について

8 : 5 0	通所 着替え
9 : 0 0 ~ 9 : 1 0	朝会 ラジオ体操
9 : 1 5 ~ 1 0 : 3 0	作業
1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 0 0	作業
1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0	昼食 休憩
1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	作業
1 4 : 3 0 ~ 1 4 : 5 0	休憩
1 4 : 5 0 ~ 1 5 : 3 5	作業
1 5 : 3 5 ~ 1 5 : 4 5	掃除
1 5 : 4 5 ~ 1 6 : 0 0	着替え 帰りの会

土曜日は、活動内容によってさまざまに設定する。自由通所日（作業）の場合は 1 0 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0 まで。QOL 活動の場合は、活動内容によってその都度設定。

毎週木曜日の午後はカルチャー活動

4 通所状況

通所実態（通所率）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
74.0%	71.5%	78.0%	69.8%	68.7%	73.0%	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年平均
75.1%	69.9%	70.5%	67.2%	72.4%	72.7%	71.4%

毎週土曜日及び祝日は自由通所日（QOL 活動日以外）としているが、通所する所員が固定されている。

月 2 回ほど土曜日に実施している QOL 活動は、今年度もコロナ感染症の影響で、フードドライブ以外は取り組みなかった。

5 個別支援計画について

所員に対して、日々支援を行うにあたって、最も大切となってくるのが個別支援計画である。計画を立てるにあたり、事前にご本人やご家族、関係機関等とのケア会議を開き、アセスメントを行い、ご本人のこれまでの歩みや、得意なことや苦手に行っていること、日々の行動や日常生活などで配慮することなどを確認し、個別支援計画を立てる。個人個人のニーズは様々であり、出

来上がってくる個別支援計画もそれぞれ違う。この個別支援計画が重要な要素、手段となって支援が展開されていく。

6 就労活動について

《 平均工賃 》 30,666 円（月額）

【 クリーニングチーム 】

令和 5 年度 事業総括

【売上目標】¥ 28,000,000

【売上実績】¥ 35,924,147（対目標額：128%）

「タオルも人も結束力！ コロナに負けず、伸ばそう売上！伸ばそう個性！」

【評価及び課題】

< 評価 >

- ・ コロナ 5 類移行後、ホテルの客足は通常に戻りつつあり売上アップに繋がった。
- ・ 昨年度末、洗剤使用について見直しを実施。現状、提案前と比較しても製品の白度を保ちつつ、使用量を抑えられており、経費削減につながっている。今後も適宜見直しを図りながら経費節減の意識を持ち続けていく。
- ・ 染み抜きを溜め込まないよう、当日出た汚れには薬品を塗布し、翌日の品物とまとめて洗うなどして生産性の向上に繋がった。今後も作業場の清潔を意識し、気持ちよく仕事に向かえる環境を整えることで作業効率、生産性の向上に繋がっていききたい。
- ・ 作業場前の清潔にも努め、定期的な染み抜きや掃除を徹底した。

< 課題 >

- ・ 昨年度と比較し、染み抜きの作業量が増加。洗剤の処方変更によるものと考えられる。
染み抜きの処方に変更はなく、染み抜き実施である程度の汚れは落ちている。
- ・ 機械の故障が多い一年。ボイラーポンプ・コンプレッサー等。
→ ボイラーポンプは部品交換を実施。コンプレッサーにおいては法人内事業所のスペア機器を取り付け。
ボイラーについては経年劣化との意見もあり、小さな蒸気漏れ等の不具合が絶えない。関係各所と連絡を取り合い大きな故障に繋がる事の内容事前の点検に努めたい。

< 来年度に向けて >

- ・ 今年度と同様に経費削減の意識を皆で共有するとともに、作業場の整理整頓・生産性の向上について考える。
- ・ 機械類のメンテナンスを徹底。専門的な知識や応急処置法について学ぶ。

【 農作業チーム 】

目標売上額...2,300,000 円

売上げ実績...2,034,008 円（対目標額 88%）

「新たな取り組み！個々の能力向上・再確認！！広げるみんなの可能性！！！」

< 作業内容 >

- ・ 新規に借りる畑での小麦の栽培
- ・ 年間通じて計画している野菜の栽培
- ・ 畑管理(育苗、野菜の周囲や畝の中の草取り、石取り、草刈り)
- ・ 収穫

- ・袋詰め等の出荷準備
- ・きのこキャップ(年間通して軽作業より)
- ・花束の販売(仕入れ)
- ・ベーカリーカフェ CoCo・キッチン CoCo 等への配達
- ・その他

<評価・課題>

- ・昨年よりもイベントに参加し、各所で販売をして売上は伸びたが、目標売上額をクリア出来なかった。
- ・新たな試みを図った。小麦の栽培し保管方法を失敗し、売り上げに繋がらなかった。
冬場の作業では、キノコキャップと豆の選別をうまく行えた。
- ・以前からの継続で、堆肥を重点的に沢山入れる事、雑草対策として野菜に応じてマルチシートを使用した事で出来の良い美味しい野菜を沢山作る事が出来た。
- ・収穫した野菜は売り切るようにし在庫や破棄を減らすこと、市場やゆーぱれあを有効活用し売る事が出来た。
- ・家庭通知を行い宣伝、営業することで、所員の家庭からも沢山注文を頂けた。
- ・小豆に関して、例年の反省を活かし雑草処理の対応をしたが、夏場の高温で種が土の中で茹で上がってしまい前年よりも収穫量が減った。
- ・堆肥取りのチームワークが良くなり、所員それぞれが役割をよく理解し、以前よりも時間を短縮して作業を行うことが出来てきている。
- ・各々が自分のやりやすいやり方を考えながら行うことが少しずつ出来てきた。
- ・新たな作業をするにあたり、各々の能力の把握を再度見直す。
- ・B級品大豆・黒豆をベーカリー、ぱれあで使ってもらえた。

<今後について>

- ・再開する品種(ブルーベリー・トウモロコシ)を栽培する。新たな品種に挑戦する。
- ・農作業班の使える車両を1台増やして欲しい。
現在軽トラックとステップワゴンを使っているが、年々職員及び所員の人数が増えている。(職員5名所員9名 計14人)乗れたとしても10人までの為、行けない人がいることになり他班にも迷惑をかけてしまう。また車両の確保も前もって行わないといけない。
- ・冬場の作業場の確保 農作業の谷間の時期に新たな作業の模索
- ・前年に引き続き、時期によって作業が重なってしまい、また人員不足等で雑草の処理が追いつかず、収穫量が減ってしまう事がある。マルチシートを有効活用し、出来るだけシートを敷いて対応をしていく。
- ・所員それぞれの特性を活かし、バランス良く作業が出来るように個々の特化した面を見つけ、更なるスキルアップを目指していく。
- ・雨の日や冬場に出来る作業として、軽作業からきのこキャップの作業を分けてもらえることになり継続していく。新たな作業の模索
- ・熱中症対策として、休憩を細かく取り、こまめな水分補給や塩分のある飴の支給等行っていく。
- ・キッチン CoCo、ベーカリーカフェ CoCo、ぱれあ食堂との打合せを行い、なるべく希望に応えていけるようにしていく。

・出張販売新規の場所模索

【 移動販売チーム 】

<販売活動報告>

野菜販売全体を見れば売上は上がったが、目標以上には程遠い状況。

火曜日...県庁・損保ジャパン

県庁以外に新たな場所としてセルフセンターより損保ジャパンでの販売が増えた。

少しずつではあるが、固定客がついてきた。

水曜日...市役所・ふれあい福祉センター他

今年度は昨年度から続くコロナウイルスの影響で人通りが少なく集客することが厳しい状況が続いた。昨年度同様、早い段階から販売をスタートする事が出来たが、行けない時期が多く、売上は中々伸びなかった。

金曜日...長野市社会福祉事務所他

合同庁舎から異動された方や新規の方を獲得した。新鮮な野菜を楽しみにしてくれている常連さん達はいるが、タイミングによって外へ出払ってしまっていたり、同じ野菜が続くと飽きてしまったり...そういったことが理由として考えられる。

JAVJAV

市役所等での売れ行き次第だが、不定期で販売させてもらっている。

来るのを待っていてくれる所員さんもいる為、今後も継続して行こうと思う。

アトリエ内販売(家庭通知等)

家庭通知での宣伝や、送迎で来た親御さんへの声掛け等で、売上アップへと繋げる事が出来た。来年度も引き続き、宣伝・声掛けを続けていく。

キッチン CoCo

今年度は、昨年度よりも売り上げが格段に落ちてしまった。連絡等は密にしていたがなかなかニーズに合うことができなかった。だが年度終わり頃から少しずつ注文が入った。

来年度は、ニーズに応えられるようにしていきたい。

ベーカリーカフェ CoCo

昨年度から関係を立て直し、頻繁に声を掛けることで多くの野菜を使用してもらえる事が出来たことで、売上は上向きになった。次年度も継続して声を掛けていく。

【 喫茶サロンチーム 】

売上実績...200,430 円

- ・所員 4 名・職員 3 名で、毎日所員 1 ～ 2 名・職員 1 名体制の当番制で行った。
- ・毎日平均 10 名弱程度のお客さんが来てくれた。最も少ない時は 1 日 4 名、多いときには 15 名ほどの利用があった。
- ・4 月から 9 月までは、冷たい飲み物のみの提供で、定番のメニューの他にお楽しみメニューを毎日出した。お楽しみメニューは大変人気があった。
- ・10 月から 3 月までは、冷たい飲み物のほかに、温かい飲み物も提供した。
- ・お菓子も定期的に種類を変えたりして、メニューに飽きがこないように工夫をした。
- ・100 円でジュースとお菓子が付くので、お得感があると思う。
- ・お客さんとの会話を楽しんで営業ができた。

・時には所員さんの好きな CD をもってきて、曲をかけていつもと雰囲気が変わって良かったと思う。

< 今後の課題 >

- ・良くない態度で当番を行っている所員もいるので、仕事としてやっているという自覚を持たせるように支援を行っていく。
- ・みなさん当番を何年か続けて行っているなので、以前より指示を出さなくても、スムーズに仕事がこなせるようになってきたので、馴れ合いにならないように気を付けていきたい。
- ・お客さんに対してもう少し感謝の気持ちを込めて、声掛けが出来るようにしていきたい。
「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」など
- ・色々なアイデアを出し合って、季節感を出したりするなど喫茶サロンの雰囲気をさらにくつろげる空間となるようにし、毎日安定してたくさんのお客さんが来てくれるように頑張る。
- ・常に喫茶サロンがきれいな状態になるように掃除を徹底する。
- ・常連のお客さんが固定されているので、新しく来てくれるお客さんを増やせるような工夫を考える。
- ・毎年講習会を受けているので、学んだことを生かせるように支援をしていく。
- ・将来は、アビリンピックに出られるように成長してほしい。

昨年同様、イベントがなかったため、売り上げは戻っていないが、次年度の売上目標は、1 か月平均 15,000 万円、年間で 16 万円を目指す。

【 所外就労チーム 】

長野リネンサプライ(株)須坂工場

売上実績 (R5 年度) ...¥3,003,000

作業について

実施内容

所員参加人数 < 3 月第 4 週実績 >

月	火	水	木	金
5	5	5	5	5

- ・アトリエ専用の作業場で、ラバーシーツの検品・仕分け・たたみ作業を行なった。
- ・アトリエ CoCo 職員を常時 1 名配置し、作業に集中し品質の安定を保つこと、スピードアップを指導した。

運営面

- ・ラバーたたみを終了次第、工場 2 階にてタオルたたみを行った。

評価、課題

- ・ラバーシーツのたたみ直しは、相当な時間のロスなので、たたみ直しの少ない方法を繰り返し教えていく。

エア・ウォーター

売上実績 (R5 年度) ...¥1,041,488

実施内容

所員参加人数 < 3 月第 2 週実績 > (月・水・金のみ実施)

月	火	水	木	金
2		2		2

- ・中国からの材料が入らず、途中中断をはさみながら実施した。

運営面において

- ・机に向かい個人で作業する作業であり、集団での共同作業の多いクリーニングに馴染めない障がい特性を持った参加者が実力を発揮でき全体の作業量が増えた。

評価、課題

- ・従業員さんからの励ましや声掛けにより、一層の作業意欲に繋がりました。

今後に向けて

- ・予告なく作業が切れることも今後予想されるため、切れた時の作業の回しを考えていきたい。

ケアブラザ若穂

売上実績（R5 年度）¥435,600-

所員参加人数＜3月第4週実績＞（月・火・金のみ実施）

月	火	水	木	金
4	4			4

- ・浴室清掃、シーツ交換作業。限られた時間内に作業が完了できている。

運営面

- ・訪問時に全員で元気な挨拶ができ施設の方に暖かく受け入れていただいている。
- ・シーツ交換が出来る所員が限られており、風邪等で複数名欠席すると施設職員の方にお手伝いいただくことがあった。

評価、課題

- ・分担場所を集中して責任をもって行うことができた。
- ・挨拶を徹底した。事務所だけではなく、職員や利用者さんにも挨拶ができるようになってきた。今後も続けていきたい。
- ・目標時間を決めて、そこに向かってみんなで協力して終わるようにしている。
- ・私語を控え、作業に集中するよう促している。時々私語が増えてしまう人もいたので、今後も集中できるようにしていきたい。

公民館清掃

売上実績（R5 年度）...¥348,480

実施内容

所員参加人数＜3月第2週実績＞（水・木・金実施）

月	火	水	木	金
		4	3	4

- ・保科（木曜）、綿内（火曜）、川田（金曜）の各公民館の、広間、料理教室、トイレ、廊下、階段、下駄箱の清掃業務。
- ・主に、ほうきの後みんなで水モップまたは、ぞうきんに分かれる。

運営面において

- ・週三回で午前中だけの作業。
- ・3名の所員のチームを組み、職員一人が付き添った。
- ・時間の制約を受けないので休む人が出てもカバーしやすい作業であった。

評価、課題

- ・冬は水モップが出来ないので時間が余る。そのため窓拭き等見付け掃除をして夏にできなかったところを隅々まで掃除することが出来た。
- ・地域の若穂公民館をきれいにしていくと言う気持ちを持ち、チームとして取り組めた。

川田駅・綿内駅トイレ清掃

売上実績（R5 年度）...¥236,500

実施内容

所員参加人数（火・水・金 実施）

月	火	水	木	金
	3	4		4

- ・川田駅・綿内駅トイレ・・・女子トイレ、身障者用トイレの清掃業務
- ・ボランティアで、トイレ・駅の周りのゴミ拾いをしています。

運営面において

- ・週3回で1時間での作業
- ・3～4名の所員のチームを組み、職員1人が付き添った。

評価、課題

- ・それぞれ分担して、便座のブラシ、トイレ内の掃き掃除、洗面台、ゴミ拾いに分かれて責任を持って行うことができた。
- ・駅を使う方に大きな声で挨拶ができた。今後も続けていきたい。

【佐川急便】

売上実績（R5 年度）... ¥560,964

昨年度より、仕事のある日のみ佐川へ出向き、それ以外の日は、軽作業チームの板の作業をチームで取り組んだ。板の入荷は多く、佐川所外の委託代より工賃を稼いだ

今後についても佐川急便の作業量が増えることは見込めないため、佐川チームとして引き続き板作業を行い、新規の作業を探して行きたい。

【ぱれあ CoCo 食堂】

売り上げ実績（R5 年度）...¥4,076,376

実施内容

- ・実習に参加している所員を増やし、今後の展開次第では、時間の拡大や売り上げアップを図りたい

7 イベントについて

新型コロナウイルスの影響で、オープンイベントは実施できなかったが、CoCo 家族旅行を日帰り2コースで実施し、今まで参加できなかった所員さん・家族の参加を得た。12月クリスマス会・1月鏡開き・2月節分と季節の行事を取り入れた企画を実施した。

8 QOL 活動について

フードドライブ企画1回だけ実施したに一回も企画できずに終わった。

9 カルチャー

毎週木曜日の午後に、スポーツカルチャー、音楽カルチャー、アートカルチャーに分かれて実施。

カルチャーの時間に年4回大掃除を、年2回防災訓練を行った。

スポーツカルチャー

主として南長野運動公園体育館を借り、好きなスポーツを行った。

音楽カルチャー

昨年度に引き続き外部講師を招き、アート活動を行った。その作品が11月の展覧会に出品することができ、所員のモチベーションも上がった。

アートカルチャー

それぞれ課題を決め集中して活動ができた。塗り絵の作品が多かった。

10 保健衛生事業

健康相談について

日時	:	毎週(火) 13:00 ~ 16:30 に一人10分程
実施者	:	嘱託看護師 : 斎藤先生
実施内容	:	体重測定、血圧測定、健康相談
相談者数	:	毎回 24 ~ 27 名程受診。 生活介護の方...毎回 就Bの方 月1回.....約10名 3 ~ 6ヶ月に1回.....約30名

まとめ

- ・職員に話している事とは別に自分の思いや出来ごとを、健康相談の時間に相談をするという方が多い。家庭や仕事や趣味や休日の出来ごと等。健康相談で、先生と関わる事を楽しみにしている所員さんも多い。
- ・健康相談の結果は、職員の朝会で周知し、緊急の場合は、担当職員と個別に話をしたり、地域生活支援センターや給食係にも相談し、全員で共有した。
- ・健康状態が思わしくない場合は、担当職員から結果を家庭へ報告してもらった。主に通院依頼や血圧や体重が基準値を大幅に上回っている方へ連絡した。肥満については、アトリエだけでなく家庭でも気を配っていただく必要がある。間食や食事の量、運動についての注意点をプリントし配布させて頂いた。
- ・体重が増え続けている方が、何名かいらっしまった。

AED 講習会

日時	:	5月17日(水) 16:45 ~ 17:30
実施機関	:	セコム上信越株式会社
実施内容	:	心肺蘇生とAED使用の流れについて

健康講話

<1回目>

日時	:	5月30日(火) 15:20 ~ 15:45
実施内容	:	『かむことと健康』及び『熱中症予防』について

<2回目>

日時	:	12月5日(火) 15:20 ~ 15:45
実施内容	:	『冬を元気に乗り切りましょう』について

健康診断について

< 1 回目 >

日時 : 6月15日(木) 13:30 ~ 16:30
6月29日(木) 13:30 ~ 16:30
実施機関 : 一般社団法人 メディカルチェック
実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、聴力検査、
(血液検査、胸部レントゲン、心電図) 医師による問診

< 2 回目 >

日時 : 9月11日(月) 13:30 ~ 15:30
9月15日(金) 13:30 ~ 15:30
実施者 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師
実施内容 : 問診及び聴診

インフルエンザ予防接種

< 一回目 >

日時 : 11月7日(火) 13:30 ~ 14:30
実施機関 : 立岩内科小児科医院 (立岩先生 + 看護師さんの2名)
実施内容 : 予防接種
実施人数 : 84名 (所員 + 職員 + 他事業所)

< 二回目 >

日時 : 11月15日(水) 13:30 ~ 14:00
(実施機関・内容については同上)
実施人数 : 46名 (所員 + 職員 + 他事業所)

まとめ (以上、保健行事について)

- ・今年度コロナ感染症は5類に変更されたので一連の保健行事は例年の日程で推進できた。
- ・健康診断事業者のメディカルチェック様とは事前の打ち合わせも細かくでき、スムーズに実施できた。
- ・インフルエンザ問診票...事前にチェックし、問題はなかった。

その他の活動について

- ・毎日特に給食前の手洗い・うがい・消毒の実施。
- ・医薬品の管理・補充・整理整頓。ノロ処理セットの用意と管理。
- ・月末の金曜日に上履きを、毎週末に歯ブラシとコップを持ち帰るよう呼びかけ。
- ・AEDの管理。

感染症対策について

- ・コロナウイルス対策 (手指消毒、換気、所員や職員の検温、健康観察等)
- ・マスク着用の励行・3密を避ける・換気の徹底等、対策を取りながら重点的に行った。
- ・健康チェック表を配布し、毎朝検温と咳・鼻水等体調の観察をして頂くよう、家庭やホームとも連携を取った。
- ・国の方針を注視しつつ、常に障害者施設として適切な措置を取るようにした。

まとめ (その他活動について)

- ・手洗い、うがい、消毒は、給食前に毎日実施できた。

- ・夏場や冬場の着替えや入浴について、定期的に声がけをし、清潔を保つようにしていく。
- ・コップ・歯ブラシ、上履きをそれぞれ持ち帰るようにした。お家の方にとっては、交換時期や臭いの確認等、使い方を把握できたのではないと思う。

11 給食について

- 保健衛生に関することについて
 - ・コロナ対策として、食べるときに向かい合わないよう、給食当番がイスを片付けてみんなで前を向いて食べた。食べているときは極力話さないよう気を付けた。手すり等の消毒を毎日2回担当者が行っている。
 - ・食事前のうがい・手洗い・消毒を徹底した。
 - ・熱中症・インフルエンザ・ノロウイルス、食中毒等について、保健衛生係と連携して注意・予防を呼びかけた。
- 係の活動について
 - ・喫食記録については、数のミスを防ぐため二重チェックし厨房に伝える。
 - ・毎日の食数を早めに把握するために喫食表を全員に記入してもらう。
 - ・喫食表を見て、1日先の喫食数を毎日キッチンにFAXで報告する。
 - ・給食のことで気づいたことなどがあれば、早急にキッチンへ伝える。
 - ・所外の弁当の数を毎日（木曜以外）FAXで報告する。
- アレルギー対策について
 - ・食品アレルギーによる事故を防ぐために、給食アンケートにて「食物アレルギー」の項目を作り、身体に影響が出る食材や、その症状、度合い、医師からの指示等の確認項目を入れ込む。必ず親御さんに確認してもらい、皆で情報共有を図る。（好き嫌いとアレルギーを混同している所員さんも多い。アレルギーとはしっかり区別を付けていく）
 - ・実習生の受け入れの際にも、必ず先生に「食物アレルギー」の有無や症状、程度について確認をとり、情報共有を図っていく。
- キッチンからの要望
 - ・なるべくアトリエの野菜を多く使うようにした。
 - ・葉物は虫が付くので、もう少し農薬を増やしてほしい。
 - ・冷凍食品をなるべく使わず、手作りのものを提供するようにした。
 - ・血圧の高い人は、みそ汁を薄味にして提供している。

12 防災安全について

- 実施内容・時期
 - ・自衛消防団の編成及び調整（4月に見直し及び変更）
 - ・職員緊急連絡網の作成（4月に見直し及び変更）
 - ・避難訓練の実施（5月25日・10月26日）
 - ・若穂消防署の方と打ち合わせ。消防計画作成（変更）届出書の提出。（5月）
 - ・消防立ち入り検査の対応
 - ・消防点検の実施：（毎月実施）
 - ・総合点検：（年2回実施）丸登電業に依頼。
- 評価・課題

< 避難訓練 >

- ・緊張感のある避難誘導ができた。職員による大きな声での呼びかけもできていた。ほとんどの所員がスムーズに行動できた。

< 消防点検 >

- ・避難口、避難経路、消火設備（消火器含む）の場所は、その都度確認して安全を確認していけるようにしたい。今後も継続していく。また、係だけでなく、各作業担当場所で気付いたことがあれば、対応していただけるように確認等行っていきたい。

13 地域との協働について

今年度は、徐々に活動が戻った年となった。

体験実習等は感染状況を見ながら実施し、今年度は多くの実習生を迎えた

長野養護学校...7名 松本養護学校...1名 稲荷山養護学校...1名

信大附属長野中学校...1名 信大付属特別支援学校...1名

地域諸団体と連携は今年も行うことができなかった。

保科小学校との交流会については、2年生の見学・交流会を行うことが出来た。

14 職員研修について

毎朝の打ち合わせ会、職員会議・ケア会議(週1回)を行い、日常の気づきを共有し、自己の支援の振り返りにつとめた。昨年に引き続き、ワークを多く取り入れ、参加者の声を多く拾えた。作業チームのストレングスや5ピクチャーズを行い、売上目標や振り返りができた。

また、日常業務の知識及び技術の研鑽につとめた。

全員参加の職員会議を月初めに行うことで、今までにない気付きも生まれた。

また、障がい者虐待防止の研修も行った。

外部の研修はほとんどがリモート研修となった。

主催・実施主体	研修名	出席者
社会就労センター関係	長野県セルフブロック会議	1名
	福祉就労強化事業「工賃アップ基礎セミナー」	1名
	通常総会研修会	3名
	福祉就労強化事業工賃ステップアップセミナー	1名
長野県知的障がい者福祉協会関係	知障協代表者会	1名
	会計研修	1名
	県知障協総会	1名
	知障協施設長会研修	1名
	県知障協信州未来塾	1名
	県知障協スクマネジメントセミナー	2名
	県知障協新任研修	1名
	知障協事務部会	1名
	日中活動支援部会	1名

	支援スタッフ部会	1 名
長野市自立支援 協議会関係	長野市障害ふくしネット しごと部会（毎月）	1 名
	長野市ふくしネット運営部会（毎月）	1 名
	長野市障害者虐待防止・権利擁護研修会	2 名
長野県・県社協関係	苦情対応システム研修会	1 名
	虐待防止・権利擁護研修会	2 名
その他	中小企業家同友会	1 名
	感染症予防講習会	1 名
	安全運転管理者講習	1 名

15 CoCo 家族会ながのについて

事務局をアトリエ CoCo 内におき、運営を補佐した。

CoCo 家族旅行を 4 年ぶりに日帰りで 2 コース実施した

9/1 白樺リゾートの旅

9/8 のんびり日本海の旅

6 月に家族会総会、2 月に家族のつどいを時間短縮形式で実施した

16 職員体制について

所長 1 名 サービス管理責任者 1 名 目標工賃達成支援員 1 名

生活支援・職業指導員 6 名 事務員 1 名 看護師 1 名

医師（嘱託） 1 名 看護師（嘱託） 1 名 運転手 3 名

生活介護事業

1 所員の内訳

出身市町村別

長野市 22 名 千曲市 1 名 高山村 1 名

性 別 男 13 名 女 11 名

平均年齢 27.8 歳（令和 5 年 4 月 1 日現在）

障がい種別 知的障がい 22 名 身体障がい 6 名（重複記載）

2 通所方法

送迎バス利用 長野駅より 4 名 信濃川田駅より 2 名 川中島駅より 3 名

家族の送迎 13 名

バイクまたは車（本人運転による） 0 名

徒歩 0 名

路線バス 2 名

3 日課について

8：50 通所 着替え

9：00 ～ 9：15 朝会 ラジオ体操

9：15 ～ 10：30 作業

10:40 ~ 12:00 作業
 12:00 ~ 13:00 昼食 休憩
 13:00 ~ 14:30 作業
 14:30 ~ 14:50 休憩
 14:50 ~ 15:35 作業
 15:35 ~ 15:45 掃除
 15:45 ~ 16:00 着替え・帰りの会

土曜日は、活動内容によってさまざまに設定する。自由通所日（作業）の場合は10:00～16:00まで。月2回ほど土曜日に実施しているQOL活動は、11月にフードドライブ一回だけの実施だった。

毎週木曜日の午後はカルチャー活動

4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
78.8%	71.6%	78.4%	75.2%	67.6%	72.2%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
74.1%	70.5%	74.6%	68.8%	74.8%	77.0%	79.9%

所員は概ね元気に安定的に通所しており、通所率は高い。

5 生活介護について

生産活動の他に、利用者の重度化に伴い、マンツーマン支援・食事介助、トイレ介助・外出支援など、個人個人のニーズに合わせた支援を提供している。利用者増に加え、作業スペースを2ヶ所にし、改革を図った。今後についても、利用者の変化に柔軟に対応できる支援体制を整えていきたい。

6 個別支援計画について

就労継続支援B型事業と同様

7 就労活動について

《 平均工賃 》 15,948 円（月額）

【軽作業チーム】

目標売上額...2,700,000 売り上げ実績...2,961,121

ひとりひとりが持てる力を発揮して、輝く軽作業

<作業内容>

自主生産 ウェス加工・販売 ロンドロール販売
 受託作業 ベーク板のテープはがし（カインシエレクトロニクス（株）様より）
 きのこキャップ（有）ヤナギハラ産業様より）
 脱脂作業（カインシエレクトロニクス（株）様より）

<評価及び課題>

自主生産

ウェス加工

・ウェス地に切り込みを入れる→割く→糸を取る→ウェスを積み重ねるといった行程をそ

れぞれ所員の得意なところで分業し、効率よく作業を進めることができた。

- ・数件の新規取引先があった。今後も継続して注文いただけるよう営業していきたい。
- ・ウエスサンプルを作り、チラシを添付して営業活動をしていく。

ロンドロールながの販売

- ・リピーターから定期的に注文を頂いて、安定した売り上げが得られた。
- ・各家庭や企業にもチラシを配り、注文をたくさんいただく事ができた。

受託作業

カイシン（ベーク板のテープ剥がし）

- ・入出荷の管理を徹底して計画的に進めることができた。
- ・テープ剥がしの作業性が早まったことで、小さいテープの取り残しが多かった。
- ・週2回（火・木曜日）の入出荷であるが、6月頃からパソコン製造販売の減少に伴い、ベーク版の入荷枚数が減っている。今後も動向を注視しながら佐川チームと協力して作業を進めていきたい。

カイシン（脱脂作業）

- ・昨年度より入荷数が減少。作業のない月もあったが、常にできる準備を整えている。
- ・佐川チームと協力しながらスーパーハウスで十分な換気の下で行うことができた。
- ・きれいな仕上げに満足頂いている。

きのこキャップ

- ・キャップ掃除が得意な所員、ウレタン外し作業が好きな所員など、それぞれに合った作業内容が行えている。
- ・キャップ掃除のクオリティが向上。検品もほぼ必要ない所員が増えている。

その他

- ・現在2班に分かれて活動しているが、所員、職員の体制や仕事内容を割り振って、それぞれが活躍出来るように工夫している。
- ・所員と職員の関係が良好でないと何か問題が生じた時に、皆で話し合い解決することができない。お互いを大切にする雰囲気を重んじている。

ウエス 注文先別売上

1kg360 円にて販売していたが、物価高騰により R5 10 月から消費税分値上げ

種類	単位	注文先	数量	金額（円）
シート	kg	カイシンエレクトロニクス(株)	230	84,960
		(株)シンセイ商会	150	55,080
		S&S アドバンステクノロジーズ	30	11,520
		(株)アルカディア	10	3,960
		イーウィングオートリサイクル	5	1,800
		S&S コンポーネンツ	110	41,760
		オート信州(株)	4	1,584
		オリオン機械(株)	60	22,680
		小林サイクルモーター商会	6	2,160

		(有)小林車両	10	3.600
		佐藤製作所	5	1.800
		(株)鈴木	460	171,180
		長野市衛生センター	20	7,200
		長野ジェコー(株)	250	93,600
		ワールド開発工業	20	7,200
		若穂農業機械センター	20	7,200
		その他	2	3,096
B T (カット)	枚	須坂工場	0	0
		アクアテック	200	1,700
		その他	26,300	240,120
B T			0	0
F T		(有)アリスエック		0
		三浦工業株式会社	1,600	30,240
		その他	100	1,908
		合 計 金 額		794,348

ウエス 月別売上

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
76,940	78,840	60,840	75,600	59,040	79,200	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
46,080	84,960	70,092	61,776	37,620	63,360	794,348

ベーク板売上

月	枚 数	金 額
4	8,202	82,020
5	8,684	86,840
6	13,968	139,685
7	10,835	108,355
8	7,657	76,570
9	9,620	96,200
10	11,011	110,110
11	8,528	85,280
12	4,966	49,660
1	11,063	110,630
2	11,596	115,960
3	13,793	137,930
合 計	119,924	1,199,240

ロンドロール、ファイル売上金額

月	ロンドロール	ティッシュペーパー	合 計
4	25,440	6,000	31,440
5	48,960	5,200	54,160
6	36,480	2,000	38,480
7	18,240	4,000	22,240
8	9,120	0	9,120
9	15,840	4,000	19,840
10	18,240	2,000	20,240
11	20,640	2,000	22,640
12	21,600	5,600	27,200
1	12,480	4,400	16,880
2	25,920	8,000	33,920
3	55,200	1,600	56,800
合 計	308,160	44,800	352,960

きのこキャップ売上

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
4,960	0	6,175	9,470	4,600	4,765	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
5,100	5,325	4,750	0	11,885	7,125	64,155

脱脂作業売上

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
35,100	12,870	18,540	12,600	12,960	13,500	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
0	11,700	0	20,700	15,300	9,000	162,270

その他売上 (アート作品売上)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
0	0	0	38,475	0	0	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
0	43,400	88,437	20,400	0	11,750	202,462

*その他：アート作品、カレンダー売上

8 イベント活動

就労継続支援 B 型事業と同様

9 QOL 活動について

就労継続支援 B 型事業と同様

他に軽作業チームの独自のレクレーションを月に 2 回程度実施している。

10 カルチャー

就労継続支援 B 型事業と同様

11 保健衛生について

就労継続支援 B 型事業と同様

12 給食について

就労継続支援 B 型事業と同様

13 防災安全について

就労継続支援 B 型事業と同様

14 地域との協働について

就労継続支援 B 型事業と同様

15 職員研修について

就労継続支援 B 型事業と同様

16 家族会ながのについて

就労継続支援 B 型事業と同様

17 職員体制について

所長 1 名 サービス管理責任者 1 名 就労支援員 1 名

生活支援・職業指導員 6 名 事務員 1 名 看護師 1 名

医師(嘱託) 1 名 看護師(嘱託) 1 名 運転手 3 名

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型事業所(就労継続支援A型・就労継続支援B型)

キッチン CoCo

キッチン CoCo は、障害のある人の働く場を提供し、支えていくという就労系の事業所としての役割は担えていると思います。就労継続支援A型事業を実施していることにより、ハローワーク(公共職業安定所)を主に利用等の問い合わせが継続的にあります。

就労継続支援A型を利用しながら一般企業への就職を志している方、就労継続支援A型の継続的の利用を望んでいる方等、多様なニーズのもとでの利用実態があり、就労継続支援A型という事業を障害のある人が各々において自分らしく働くための手掛かりとして頼りにされていることと思います。今後の利用者の更なる増加の見込みも感じております。就労継続支援A型及びB型の多機能型事業所としての運営体系の下で、障害のある人の個人個人の就労面でのニーズに丁寧に確実に応えることで、個人個人の生活が実り豊かなものとしておくれるように今後も貢献していきたいと思います。

当事業所の利用者たちは、お弁当の製造及び販売業務、配達及び回収業務、法人内の昼食提供業務、そして所外実習等においては、それぞれ自らの就労や作業面等での課題に挑み、各々の目的や目標に向かって歩んでいます。また、他法人が運営する、障害のある子どもたちが利用する事業所の昼食提供業務を受託して業務を行っており、障害のある人の就労の場として価値ある場を作ることができており、そして法人側からの業務の遂行状況等に関する評価も高くあります。そこで働く人たちにとっても嬉しく感じ自信を持って働くことができております。

令和6年度もこれまでと同様に事業所全員が協力し合い、個々が持てる力を存分に発揮して事業所運営にあたっていきたいと思います。

(利用者の推移)

・就労継続支援A型事業(定員10名)	総在籍者数	7名
・就労継続支援B型事業(定員10名)	総在籍者数	7名
令和5年4月	1名入所	・・・ 在籍者 6名
令和6年1月	1名退所	・・・ 在籍者 5名
令和6年3月	2名入所	・・・ 在籍者 7名
令和6年3月31日現在		
登録者数14名(就労継続支援A型7名・就労継続支援B型7名)		

就労継続支援A型事業

1 所員の内訳

- (1) 利用者総数 7名 (令和6年3月31日現在)
- (2) 出身市町村別 長野市 6名・高山村 1名
- (3) 性別 男性1名・女性6名
- (4) 年齢 51.6歳(令和5年度末)
- (5) 障がい種別 知的障がい者 2名

2 通所方法

- | | |
|----------------------|----|
| (1) 徒歩または自転車 | 0名 |
| (2) バイクまたは車(本人運転による) | 5名 |
| (3) 公共交通機関利用 | 2名 |
| (4) 送迎(長野電鉄村山駅発着) | 0名 |
| (5) 家族による送迎 | 0名 |

3 日課について

(基本)

8:15 ~ 12:30まで	着替え 作業 *途中に朝会・休憩あり
12:30 ~ 13:30まで	お昼 休憩
13:30 ~ 15:30まで	作業・掃除・帰りの会等
15:30	帰宅

利用者の体調や事情等によっては、個別に時間の調整をしています。

土または日曜日は、作業状況や活動内容によって様々に設定しました。

4 通所状況

通所実態(通所率)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
99.3%	96.9%	98.1%	98.6%	92.9%	96.6%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
98.7%	98.7%	93.5%	92.5%	87.8%	84.4%	94.8%

5 個別支援計画 —就労継続支援B型事業と同様—

個別支援計画では、本人や家族との面談や、関わってきた関係者等を含めた会議を開くなどして、アセスメントを行い、本人のそれまでの歩みや、得意なことや苦手なこと、行動や日常生活上等で配慮すること等々を確認し、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成しました。特に本人の願いを重視して、面談をする中で願いやニーズ把握するように努めました。さらには、面談日以外にも、適時に相談を受け、困っていることや頑張りたいことを聞き、そこからニーズを拾って作成するようにしました。もし、生活の面などの困り感や希望があった時には、他の機関と連絡をとり繋げるようにし、個別支援計画の目標として取り組めるものは入れるようにしました。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行いました。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的に面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたいと思えます。

6 就労活動について —就労継続支援B型事業と同様—

【お弁当製造、販売、配達作業】

(1) 作業実績及び作業風景等

各所員が意欲的に作業に就いていました。目標を持って作業に取り組み、任されたことは責任

を持って行い、分からないことは職員に聞きながら、働くことの楽しさや厳しさ、やり終えた達成感や喜びを感じられていると思います。また、身支度や食品に携わる際の衛生管理や、盛り付けのときの技術や目配り（おかずが決められた所に確実に適量入れられたなど）確認を取りながら進めています。配達の際は、身支度に気をつけ、お客様に挨拶をすることや走らず慌てないよう落ち着いて作業できるように声掛けしています。

平日の昼食を主に、平均 180 食のお弁当を作り配達しております。法人内の 8 箇所の事業所の昼食の提供も行っており、食数は 180 食位です。

安心・安全な食材を吟味し、野菜が豊富で手作り感のあるおいしい弁当をお届けできるよう日々努めてまいりました。

（２）評価及び課題等

今年度は、新型コロナウイルス感染症が収まりつつあり、イベントも徐々に開催されるようになり、それに伴いお弁当注文もわずかではあるが増えてきました。

今後も新規受注の増加やリピーター増加につながるようなメニュー構成や、味付け、盛り付けの工夫など課題はまだありますが、食中毒などの事故が無いよう細心の注意と心構えで毎日の作業に取り組んで行きたいと思います。

今年度は食材料費や燃料費等の高騰により、食費及び弁当価格の値上げをしました。価格に見合った内容のものを提供していきたいと思います。

今後も、安心・安全・美味しい食を追求し、所員・職員一丸となって着実に成果を上げられるようにひとつずつ丁寧に対応していきたいと思います。

【 所外就労 】

令和 5 年度は、1 か所のみ委託を受けて行いました。

㈱角藤 ワインボトルのラベル貼り

ワインボトルのラベル貼りの作業を委託され、週 1 回程度で半日程度行いました。所員 1 名が、職員 1 名の付き添いにて作業にあたりました。作業内容はワインラベルのカットやワインボトルにそれぞれのラベルを貼るものであり、ミリ単位での精密さを求められるものであり、失敗するとやり直しが難しい作業です。集中力を求められ、かなり緊張するものでしたが、責任感を持って取り組むことができました。また、責任ある作業を任せられ、自身にも繋がっています。

【給与額について】

月	平均給与額	月	平均給与額
4 月	97,420 円	10 月	110,145 円
5 月	107,201 円	11 月	104,818 円
6 月	105,044 円	12 月	102,534 円
7 月	100,923 円	1 月	104,451 円
8 月	105,170 円	2 月	92,387 円
9 月	98,013 円	3 月	87,308 円
平均給与額 101,284 円		支払い総額 8,507,895 円	

7 カルチャー・衛生講習 —就労継続支援 B 型事業と同様—

(1) 実施日、実施内容、参加者数等

日付	実施タイトル	参加者数
実施した内容		
4/28(金)	防災訓練(火災)	11名
調理室からの火災発生の設定で避難経路や避難誘導、消防署への通報までの流れを確認した。		
6/15(木)	新型コロナウイルス感染症・ノロウイルス感染症予防について	7名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策について再度確認する。 ノロウイルス感染症においては、厨房内での食品の取り扱いの注意事項や自身の衛生管理の重要性について話し合った。		
8/10(木)	熱中症予防・対策について	5名
配達担当・厨房担当、それぞれの業務中に気をつけることについて話し合う。暑さで体力・気力とも消耗しているので、仕事に支障が出ないように体調管理に気をつけるよう伝える。		
9/21(木)	厨房作業内容の確認と注意事項	8名
各作業工程における手順の見直しと注意事項の確認を行った。刃物や火気を扱う、常に危険が伴う仕事ということを意識して作業にあたるよう注意喚起した。		
12/29(金)	防災訓練(水害)	14名
洪水時の避難確保計画の説明、および水難時の避難経路の確認を行う。		

(2) カルチャー・衛生指導のねらいについて

順調に働き続けていくために、また日常生活を安心して送っていくために、知っておくべき知識や取り組むべき行動等についての学びの時間として行いました。職員が所員から受ける相談ごとや仕事への取り組み方等から課題を拾い上げ、資料を参考にして伝えるようにしました。

また、今年も新型コロナウイルス感染予防について、再度確認し徹底するよう説明をしました。来年度も所員の日頃の様子から、大事だと思われるものを学びとして取り上げながら行っていきたいと思っています。

(3) 評価及び課題等について

実施頻度について

不定期でしたが、季節や状況に応じて行ないました。所外活動や健康相談といった他の活動もあり、全員の出席は難しい状況です。カルチャーの予定日に作業が忙しかったり、職員の配置がうまくできなかったりと実施できない時もありましたが、実施した内容を個々に伝えるようにしました。

参加者について

所員全員参加をめざして行ないましたが、当日休みの所員や、洗浄の作業などをしていて参加できない所員がいます。皆がそろえるのは難しいですが、そのような場合には必ず後で個別

に行うようにしました。

来年度について

来年度も同様の目的で実施していきたいと思います。内容については、所員の希望を聞いたり、職員側で必要と思われるものを考えたりしながら行っていきたいと思っています。

8 QOL 活動 —就労継続支援 B 型事業と同様—

実施内容

日付	企画名	参加者数
4/22(土)	映画鑑賞「名探偵コナン」・昼食	5名
6/3(土)	中野市一本木公園「バラ祭り」・昼食	8名
11/5(日)	フードドライブ・アート展観覧・昼食	6名
12/16(土)	キッチン CoCo 忘年会	10名
3/9(土)	映画鑑賞「ドラえもん」・昼食	4名

《評価及び課題》

題》

新型コロナウイルス感染症における規制が緩和されたことで、実施回数を増やすことが出来ました。

季節のイベントに合わせた内容で企画、実施し季節感を味わいながらとても楽しむことが出来ました。内容によって参加人数の偏りが大きく、各々しっかりと内容を確認し、自身での参加の選択ができていたと感じました。参加人数が多くなると、食事の際の席の予約や移動が大変になってくるので事前に十分な下準備が必要でした。来年度も皆さんの意見を取り入れて計画していきたいと思っています。スポーツやカラオケ等でリフレッシュできるものや教養を深めるもの、所員同士の親睦を深めるための親睦会等、できるだけ多岐にわたって実施していきたいと思っています。

9 保健衛生について —就労継続支援 B 型事業と同様—

(1) 健康診断について - 2 回実施 -

第 1 回目

日時 : 令和 5 年 6 月 15 日 (木) 13:30 ~ 16:30
令和 5 年 6 月 29 日 (木) 13:30 ~ 16:30
令和 4 年 10 月 7 日 (金) (全日本労働福祉協会)

実施 (依頼) 機関 : (特非) メディカルチェック

実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、胸部レントゲン、聴力検査 (対象者のみ)、血液検査 (対象者のみ)、心電図 (対象者のみ)、医師による触診及び問診

受診者数 : 19 名受診

第 2 回目

日時 : 令和 5 年 9 月 11 日 (月) 及び 9 月 15 日 (金)
実施 (依頼) 機関 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師
実施内容 : 触診及び問診
受診者数 : 13 名受診

その他

第 1 回目の診断結果が出来次第、データを立岩 Dr. と看護師にお渡しして、ご意見・ご指導を頂きました。頂いたご意見・ご指導は面談や健康相談を通じてご本人達に伝えました。

(2) 健康相談について

三木看護師 (嘱託) により、月に 2 回程度 (木曜日) 1 人 15 分程度かけて行いました。

月	回数	延相談者数	月	回数	延相談者数
4 月	2 回	22 名	10 月	0 回	0 名
5 月	2 回	19 名	11 月	2 回	20 名
6 月	2 回	20 名	12 月	1 回	8 名
7 月	2 回	21 名	1 月	2 回	19 名
8 月	2 回	21 名	2 月	2 回	17 名
9 月	2 回	18 名	3 月	2 回	20 名
実施回数 21 回			延相談者数 205 名		

(3) 肥満対策について

6 月の健康診断において肥満状態にある所員が 2 名。肥満に関しては自覚をしているようですが、自宅での食事量や間食の自己管理が難しいと思われます。キッチン CoCo にて提供している昼食はおかずやごはんの量が決まっているので食べ過ぎるということはないのですが、家庭等での食事量が多かったり、間食もとったりするため生活全般的に多めの様です。日常的に適切な量と内容の食事をするように意識を持っていただきたいと思います。職員側からの意識付け等の働きかけはこれからも必要であり、面談や健康相談等を通してこれからも働きかけをしていきたいと思っています。

(4) 血圧について

- ・毎月の健康相談にて、血圧測定を実施しました。数名の所員は測定日によっては血圧が高い時もありますが、常時ではないので様子を見ています。
- ・年間を通して低血圧傾向にある所員が 1 名いますが、三木看護師からは、日常生活に支障はないとの話があり様子をみています。

(5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、痛み止め、消毒液、絆創膏、かゆみ止め、外傷治療薬、並びに体温計を整えています。業務上、包丁で指を切ることが多く、絆創膏の使用が多かったです。

(6) 服薬支援について

個別に服薬支援を行っている所員が 1 名います。精神薬の保管は職員が行っています。事務所内に小箱を設置し、一週間分の薬を入れています。毎昼食後に服薬を促しています。

(7) 「傷病記録」について

服薬、静養等の場合、必要な情報はケース記録に残し、その都度支援を行いました。

(8) 嘱託の医師と看護師との連携について

今年度も 2 回、立岩医師による健康診断を、そして、三木看護師による健康相談を基本的に月 2 回実施しました。

健康診断については、第 1 回目の健康診断の結果のデータを立岩医師と三木看護師にお渡し、診断結果に応じて、必要な場合には各所員個別に指導及び助言等をいただきました。また日常の情報交換や共有を通して、所員個別の健康状態や対応等について指導や助言をいただき、所員の健康管理支援や日常や年度等の健康衛生活動の取り組みにつなげています。

(9) 個別の健康情報について

精神的な疾患を持ち、メンタル面での配慮や支援を必要とする所員が増えてきています。基本的には年間を通して継続して安定している所員が多い中、時期や状況によって、感情的に不安定な状態になり、躁鬱等のそれぞれが抱えている症状が出てきて、困ったり苦しんだりする様子も伺えます。所員の状態を日常的にしっかりと把握をし、また休んでいるときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認と把握を行っています。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっています。

(10) 衛生講習について

作業及び日常生活での衛生意識の向上を目的として、職員による衛生講習を行いました。(インフルエンザ予防・ノロウイルス予防・熱中症予防・新型コロナウイルス感染予防等)

(11) 清掃について

清掃については、所員によってそれぞれに応じた支援を受けながら、作業室や生活区域のスペースを担当場所ごとに行いました。特に作業室は、お弁当を作っている箇所であり、常に衛生面を意識して丁寧にしっかりと行いました。

(12) その他

毎日の朝会において、爪・手指の傷・身だしなみとともに健康状態の確認を行いました。毎日、通所して来た際も含めて外から帰ってきた時には、インフルエンザ・風邪の予防も含めて、日常的に手洗い及びうがい液でのうがいを行いました。今年度インフルエンザに罹った方はいませんでした。

ノロウイルスやインフルエンザが流行る時期には、朝会や衛生講習等で予防及び対処法について触れ、また予防及び対処マニュアルを配布して衛生の徹底に努めました。

【インフルエンザ予防接種】

日時 : 令和 5 年 11 月 7 日(月) 13 : 30 ~ 14 : 30

令和 5 年 11 月 15 日(火) 13 : 30 ~ 14 : 30

場所 : アトリエ CoCo

受診者数 : のみ 9 名

10 給食について —就労継続支援 B 型事業と同様—

・昨今の材料費や燃料費等の高騰化にともない、11 月に給食費の値上げを行ないました。より充実した食事の提供ができるように、努力していきたいと思います。

- ・給食を楽しみに通所する利用者が多いです。内容は、日替わり弁当とほぼ同じメニューで提供をしています。自分たちが、仕込み・盛り付けをした弁当が商品としてお客様に届くというのは、所員たちのやりがいやモチベーションのアップにつながっている様に感じます。
- ・給食検討会にて、給食に関する情報交換及び共課題検討を行いました。嗜好調査やアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をしてきました。メインの食材にアレルギーのある場合は代替のものを用意する等の配慮をしています。

11 旅行について —就労継続支援 B 型事業と同様—

(1) 実施内容等

令和 5 年 9 月 1 日(金)	白樺リゾートの旅	3 名参加(内職員 1 名)
令和 5 年 9 月 8 日(金)	日本海のんびり旅	6 名参加(内職員 1 名)

《評価及び課題》

新型コロナウイルス感染症の影響で 4 年振りの家族旅行の開催となりました。

日帰りではあったものの、美味しい食事や買い物と、参加者全員とても楽しく過ごせた 1 日となりました。

12 防災訓練について —就労継続支援 B 型事業と同様—

(1) 防災訓練

第 1 回目

- ・実施日：令和 5 年 4 月 28 日(金) 13：00～13：15
- ・参加者：所員 7 名 職員 4 名 計 11 名
- ・内 容：避難訓練。厨房ガスコンロから火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：実際に火災が起きたときには、発生時点で誘導することとなります。次回の訓練では、火災が起きた時点で避難を誘導する、というやり方で行うようにしたいと思います。腰を低くし、ハンカチや裾などを口元にあてるということができている所員もいたため、今回は事前にその大切さ等もレクチャーもしてから行うようにします。

第 2 回目

- ・実施日：令和 5 年 12 月 29 日(金) 13：00～13：30
- ・参加者：所員 10 名 職員 4 名 計 14 名
- ・内容：洪水時の避難確保計画の説明、および水難時の避難経路確認
- ・反省点：昨年の台風被害の状況と、洪水時の避難確保計画について説明しました。水難時の避難経路の説明を、ハザードマップを確認しながら説明をしました。

(2) 消防設備点検

毎月実施しました。業者による総合点検として年に 2 回(令和 5 年 4 月及び 10 月)実施しました。

(3) その他

- ・職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置場所等を確認。

13 地域との協働について —就労継続支援 B 型事業と同様—

- ・見学や研修を受け入れました。
（特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、民生委員、社協関係者、他事業所等）
- ・地域の諸団体等との連携を図っていますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、様々なイベントが中止となりました。
（長野市障害ふくしねっと、長野県セルフセンター協議会、若穂住民自治協議会、長野市商工会若穂支部等）

14 職員研修について —就労継続支援B型事業と同様—

- ・ケア会議や職員会議を定期的実施し、日常業務の情報交換や支援や作業における知識及び技術の研鑽に努めました。

15 職員体制について

所長	1名
サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	1名
賃金向上達成指導員	2名
看護師（嘱託）	1名
医師（嘱託）	1名

就労継続支援B型事業

1 所員の内訳

- （1）登録者数 7名（令和6年3月31日現在）
- （2）市町村別 長野市 7名
- （3）男女別 男性3名・女性4名
- （4）年齢 平均 39.4歳（令和5年度末）
- （5）障がい種別 知的障がい者 3名
精神障がい者 4名

2 通所方法

- （1）徒歩または自転車 5名
- （2）バイクまたは車（本人運転による） 0名
- （3）公共交通機関利用 0名
- （4）送迎（アトリエ CoCo・グループホーム） 2名
- （5）家族による送迎 0名

3 日課について

8：15 ～ 12：00まで	朝会 作業
12：00 ～ 13：00まで	お昼 休憩
13：00 ～ 15：00まで	作業 掃除 帰りの会等
15：00	帰宅

利用者の体調や事情等によっては、個別に時間の調整をしています。
土または日曜日は、作業状況や活動内容によって様々に設定しました。

4 通所状況

通所実態（通所率）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
90.8%	73.9%	90.2%	84.9%	75.7%	77.8%	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年平均
86.4%	80.3%	75.8%	63.8%	75.2%	81.6%	68.2%

【 工賃額について 】

月	平均月額工賃額	月	平均月額工賃額
4 月	20,096 円	10 月	20,648 円
5 月	18,098 円	11 月	18,429 円
6 月	20,118 円	12 月	23,987 円
7 月	23,150 円	1 月	16,519 円
8 月	19,387 円	2 月	16,973 円
9 月	16,916 円	3 月	24,318 円
平均月額工賃額 19,988 円（時給換算 265 円） 支払い総額 1,439,113 円			

5 個別支援計画 —就労継続支援 A 型事業と同様—

個別支援計画では、本人や家族との面談や、関わってきた関係者等を含めた会議を開くなどして、アセスメントを行い、本人のそれまでの歩みや、得意なことや苦手なこと、行動や日常生活上等で配慮すること等々を確認し、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成しました。特に本人の願いを重視して、面談をする中で願いやニーズ把握するように努めました。さらには、面談日以外にも、適時に相談を受け、困っていることや頑張りたいことを聞き、そこからニーズを拾って作成するようにしました。もし、生活の面などの困り感や希望があった時には、他の機関と連絡をとり繋げるようにし、個別支援計画の目標として取り組めるものは入れるようにしました。

そして、6 カ月ごとに 1 回の見直しを行いました。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的に面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたいと思えます。

6 就労活動について —就労継続支援 A 型事業と同様—

【 お弁当製造、販売、配達作業 】

(1) 作業実績及び作業風景等

各所員が意欲的に作業に就いていました。目標を持って作業に取り組み、任されたことは責任を持って行い、分からないことは職員に聞きながら、働くことの楽しさや厳しさ、やり終えた達成感や喜びを感じられていると思います。また、身支度や食品に携わる際の衛生管理や、盛

り付けのときの技術や目配り（おかずが決められた所に確実に適量入れられたなど）確認を取りながら進めています。配達の際は、身支度に気をつけ、お客様に挨拶をすることや走らず慌てないよう落ち着いて作業できるように声掛けしています。

平日の昼食を主に、平均 180 食のお弁当を作り配達しております。法人内の 8 箇所の事業所の昼食の提供も行っており、食数は 180 食位です。

安心・安全な食材を吟味し、野菜が豊富で手作り感のあるおいしい弁当をお届けできるよう日々努めてまいりました。

（２）評価及び課題等

今年度は、新型コロナウイルス感染症が収まりつつあり、イベントも徐々に開催されるようになり、それに伴いお弁当注文もわずかではあるが増えてきました。

今後も新規受注の増加やリピーター増加につながるようなメニュー構成や、味付け、盛り付けの工夫など課題はまだありますが、食中毒などの事故が無いよう細心の注意と心構えで毎日の作業に取り組んで行きたいと思います。

今年度は食材料費や燃料費等の高騰により、食費及び弁当価格の値上げをしました。価格に見合った内容のものを提供していきたいと思います。

今後も、安心・安全・美味しい食を追求し、所員・職員一丸となって着実に成果を上げられるようにひとつずつ丁寧に対応していきたいと思います。

7 カルチャー・衛生講習 ―就労継続支援 A 型事業と同様―

(1)実施日、実施内容、参加者数等

日付	実施タイトル	参加者数
実施した内容		
4/28（金）	防災訓練(火災)	11 名
調理室からの火災発生の設定で避難経路や避難誘導、消防署への通報までの流れを確認した。		
6/15（木）	新型コロナウイルス感染症・ノロウイルス感染症予防について	7 名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策について再度確認する。 ノロウイルス感染症においては、厨房内での食品の取り扱いの注意事項や自身の衛生管理の重要性について話した。		
8/10（木）	熱中症予防・対策について	5 名
配達担当・厨房担当、それぞれの業務中に気をつけることについて話し合う。暑さで体力・気力とも消耗しているので、仕事に支障が出ないように体調管理に気をつけるよう伝える。		
9/21（木）	厨房作業内容の確認と注意事項	8 名
各作業工程における手順の見直しと注意事項の確認を行った。刃物や火気を扱う、常に危険が伴う仕事ということを意識して作業にあたるよう注意喚起した。		
12/29(金)	防災訓練(水害)	14 名

洪水時の避難確保計画の説明、および水難時の避難経路の確認を行う。

(2) カルチャー・衛生指導のねらいについて

順調に働き続けていくために、また日常生活を安心して送っていくために、知っておくべき知識や取り組むべき行動等についての学びの時間として行いました。職員が所員から受ける相談ごとや仕事への取り組み方等から課題を拾い上げ、資料を参考にして伝えるようにしました。

また、今年も新型コロナウイルス感染予防について、再度確認し徹底するよう説明をしました。来年度も所員の日頃の様子から、大事だと思われるものを学びとして取り上げながら行っていききたいと思います。

(3) 評価及び課題等について

実施頻度について

不定期でしたが、季節や状況に応じて行ないました。所外活動や健康相談といった他の活動もあり、全員の出席は難しい状況です。カルチャーの予定日に作業が忙しかったり、職員の配置がうまくできなかったりと実施できない時もありましたが、実施した内容を個々に伝えるようにしました。

参加者について

所員全員参加をめざして行ないましたが、当日休みの所員や、洗浄の作業などをしていて参加できない所員がいます。皆がそろえるのは難しいですが、そのような場合には必ず後で個別に行うようにしました。

来年度について

来年度も同様の目的で実施していききたいと思います。内容については、所員の希望を聞いたり、職員側で必要と思われるものを考えたりしながら行っていききたいと思います。

8 QOL 活動 —就労継続支援 A 型事業と同様—

実施内容

日付	企画名	参加者数
4/2(土)	映画鑑賞「名探偵コナン」・昼食	5名
6/3(土)	中野市一本木公園「バラ祭り」・昼食	8名
11/5(日)	フードドライブ・アート展観覧・昼食	6名
12/16(土)	キッチン CoCo 忘年会	10名
3/9(土)	映画鑑賞「ドラえもん」・昼食	4名

《評価及び課題》

新型コロナウイルス感染症においての規制が緩和されたことで、実施回数を増やすことが出来ました。

季節のイベントに合わせた内容で企画、実施し季節感を味わいながらとても楽しむことが出来ました。内容によって参加人数の偏りが大きく、各々しっかりと内容を確認し、自身での参加の選

扱ができていたと感じました。参加人数が多くなると、食事の際の席の予約や移動が大変になってくるので事前に十分な下準備が必要でした。来年度も皆さんの意見を取り入れて計画していきたいと思います。スポーツやカラオケ等でリフレッシュできるものや教養を深めるもの、所員同士の親睦を深めるための親睦会等、できるだけ多岐にわたって実施していきたいと思います。

9 保健衛生について —就労継続支援 A 型事業と同様—

(1) 健康診断について - 2 回実施 -

第 1 回目

日時 : 令和 5 年 6 月 15 日 (木) 13 : 30 ~ 16 : 30
 令和 5 年 6 月 29 日 (木) 13 : 30 ~ 16 : 30
 令和 4 年 10 月 7 日 (金) (全日本労働福祉協会)

実施 (依頼) 機関 : (特非) メディカルチェック

実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、胸部レントゲン、聴力検査 (対象者のみ)、血液検査 (対象者のみ)、心電図 (対象者のみ)、医師による触診及び問診

受診者数 : 19 名受診

第 2 回目

日時 : 令和 5 年 9 月 11 日 (月) 及び 9 月 15 日 (金)

実施 (依頼) 機関 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師

実施内容 : 触診及び問診

受診者数 : 13 名受診

その他

第 1 回目の診断結果が出来次第、データを立岩 Dr. と看護師にお渡しして、ご意見・ご指導を頂きました。頂いたご意見・ご指導は面談や健康相談を通じてご本人達に伝えました。

(2) 健康相談について

三木看護師 (嘱託) により、月に 2 回程度 (木曜日) 1 人 15 分程度かけて行いました。

月	回数	延相談者数	月	回数	延相談者数
4 月	2 回	22 名	1 0 月	0 回	0 名
5 月	2 回	19 名	1 1 月	2 回	20 名
6 月	2 回	20 名	1 2 月	1 回	8 名
7 月	2 回	21 名	1 月	2 回	19 名
8 月	2 回	21 名	2 月	2 回	17 名
9 月	2 回	18 名	3 月	2 回	20 名
実施回数 21 回			延相談者数 205 名		

(3) 肥満対策について

6 月の健康診断において肥満状態にある所員が 2 名。肥満に関しては自覚をしているようですが、自宅での食事量や間食の自己管理が難しいと思われます。キッチン CoCo にて提供して

いる昼食はおかずやごはんの量が決まっているので食べ過ぎるということはないのですが、家庭等での食事量が多かったり、間食もとったりするため生活全般的に多めの様です。日常的に適切な量と内容の食事をするように意識を持っていただきたいと思います。職員側からの意識付け等の働きかけはこれからも必要であり、面談や健康相談等を通してこれからも働きかけをしていきたいと思っています。

(4) 血圧について

- ・毎月の健康相談にて、血圧測定を実施しました。数名の所員は測定日によっては血圧が高い時もありますが、常時ではないので様子を見ています。
- ・年間を通して低血圧傾向にある所員が1名いますが、三木看護師からは、日常生活に支障はないとの話があり様子をみています。

(5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、痛み止め、消毒液、絆創膏、かゆみ止め、外傷治療薬、並びに体温計を整えています。業務上、包丁で指を切ることが多く、絆創膏の使用が多かったです。

(6) 服薬支援について

個別に服薬支援を行っている所員が1名います。精神薬の保管は職員が行っています。事務所に小箱を設置し、一週間分の薬を入れています。毎昼食後に服薬を促しています。

(7) 「傷病記録」について

服薬、静養等の場合、必要な情報はケース記録に残し、その都度支援を行いました。

(8) 嘱託の医師と看護師との連携について

今年度も2回、立岩医師による健康診断を、そして、三木看護師による健康相談を基本的に月2回実施しました。

健康診断については、第1回目の健康診断の結果のデータを立岩医師と三木看護師にお渡し、診断結果に応じて、必要な場合には各所員個別に指導及び助言等をいただきました。また日常の情報交換や共有を通して、所員個別の健康状態や対応等について指導や助言をいただき、所員の健康管理支援や日常や年度等の健康衛生活動の取り組みにつなげています。

(9) 個別の健康情報について

精神的な疾患を持ち、メンタル面での配慮や支援を必要とする所員が増えてきています。基本的には年間を通して継続して安定している所員が多い中、時期や状況によって、感情的に不安定な状態になり、躁鬱等のそれぞれが抱えている症状が出てきて、困ったり苦しんだりする様子も伺えます。所員の状態を日常的にしっかりと把握をし、また休んでいるときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認と把握を行っています。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっています。

(10) 衛生講習について

作業及び日常生活での衛生意識の向上を目的として、職員による衛生講習を行いました。(インフルエンザ予防・ノロウイルス予防・熱中症予防・新型コロナウイルス感染予防等)

(11) 清掃について

清掃については、所員によってそれぞれに応じた支援を受けながら、作業室や生活区域のスペースを担当場所ごとに行いました。特に作業室は、お弁当を作っている箇所であり、常に

衛生面を意識して丁寧にしっかりと行いました。

(1 2) その他

毎日の朝会において、爪・手指の傷・身だしなみとともに健康状態の確認を行いました。
毎日、通所して来た際も含めて外から帰ってきた時には、インフルエンザ・風邪の予防も含めて、日常的に手洗い及びうがい液でのうがいを行いました。今年度インフルエンザに罹った方はいませんでした。

ノロウイルスやインフルエンザが流行る時期には、朝会や衛生講習等で予防及び対処法について触れ、また予防及び対処マニュアルを配布して衛生の徹底に努めました。

【インフルエンザ予防接種】

日時 : 令和 5 年 11 月 7 日(月) 13 : 30 ~ 14 : 30

令和 5 年 11 月 15 日(火) 13 : 30 ~ 14 : 30

場所 : アトリエ CoCo

受診者数 : のみ 9 名

10 給食について —就労継続支援 A 型事業と同様—

- ・昨今の材料費や燃料費等の高騰化にともない、11 月に給食費の値上げを行ないました。より充実した食事の提供ができるように、努力していききたいと思います。
- ・給食を楽しみに通所する利用者が多いです。内容は、日替わり弁当とほぼ同じメニューで提供をしています。自分たちが、仕込み・盛り付けをした弁当が商品としてお客様に届くというのは、所員たちのやりがいやモチベーションのアップにつながっている様に感じます。
- ・給食検討会にて、給食に関する情報交換及び共課題検討を行いました。嗜好調査やアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をしてきました。メインの食材にアレルギーのある場合は代替のものを用意する等の配慮をしています。

11 旅行について —就労継続支援 A 型事業と同様—

実施内容等

令和 5 年 9 月 1 日(金) 白樺リゾートの旅 3 名参加(内職員 1 名)

令和 5 年 9 月 8 日(金) 日本海のんびり旅 6 名参加(内職員 1 名)

《評価及び課題》

新型コロナウイルス感染症の影響で 4 年振りの家族旅行の開催となりました。

日帰りではあったものの、美味しい食事や買い物と、参加者全員とても楽しく過ごせた 1 日となりました。

12 防災訓練について —就労継続支援 A 型事業と同様—

(1) 防災訓練

第 1 回目

- ・実施日 : 令和 5 年 4 月 28 日(金) 13 : 00 ~ 13 : 15
- ・参加者 : 所員 7 名 職員 4 名 計 11 名
- ・内 容 : 避難訓練。厨房ガスコンロから火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点 : 実際に火災が起きたときには、発生時点で誘導することとなります。次回の訓練

では、火災が起きた時点で避難を誘導する、というやり方で行うようにしたいと思います。腰を低くし、ハンカチや裾などを口元にあてるということができていない所員もいたため、次回は事前にその大切さ等もレクチャーもしてから行うようにします。

第2回目

- ・実施日：令和5年12月29日(金) 13:00～13:30
- ・参加者：所員10名 職員4名 計14名
- ・内容：洪水時の避難確保計画の説明、および水難時の避難経路確認
- ・反省点：昨年の台風被害の状況と、洪水時の避難確保計画について説明しました。水難時の避難経路の説明を、ハザードマップを確認しながら説明をしました。

(2) 消防設備点検

毎月実施しました。業者による総合点検として年に2回(令和5年4月及び10月)実施しました。

(3) その他

- ・職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置場所等を確認。

13 地域との協働について —就労継続支援A型事業と同様—

- ・見学や研修を受け入れました。
(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、民生委員、社協関係者、他事業所等)
- ・地域の諸団体等との連携を図っていますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、様々なイベントが中止となりました。
(長野市障害ふくしねっと、長野県セルフセンター協議会、若穂住民自治協議会、長野市商工会若穂支部等)

14 職員研修について —就労継続支援A型事業と同様—

- ・ケア会議や職員会議を定期的 to 実施し、日常業務の情報交換や支援や作業における知識及び技術の研鑽に努めました。

15 職員体制について

所長	1名
サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	1名
賃金向上達成指導員	2名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業・多機能型（ 就労継続B型 就労移行 ）

CoCoJAVJAV（主）・BakeryCoCo（従）

令和5年度は、まだまだ感染症の影響を受けながらも、活発な活動ができるように対応しながら進めて参りました。就労支援では、コロナ禍前と同等の活動ができるようになり、利用者の皆さんから仕事が戻ってきてよかったという声も聞かれました。ただ、感染症予防対策を講じながらの活動は続けており、これについては、集団生活をする上で継続が必要な部分です。

また、JAVJAV開所から13年が過ぎ、利用者の皆さんも年を重ね、健康面で配慮が必要な方が増えてきました。日中活動のなかで健康観察をしながら、気になる部分をご家族または関係者と連絡を取り合いながら支援させていただいておりますが、今後も増えていくことが予想され、健康に配慮した活動を取り入れていく必要があります。そして、安心安全な日常を守っていくことに必要な防災活動も重要です。昨今の全国各地の地震もそうですが、自然の猛威を感じざるを得ない状況に対し、日頃から防災意識を持ち続けていられるように、これまで通りの防災・避難訓練だけではなく、新たな要素を加えた形で取り組んでいくことが必須です。

一人ひとりの日常生活が豊かなものであるように、ということと同時に、JAVJAV・Bakery・CafeCoCoでの活動が重なりあい、そこに健康や防災といった部分をプラスさせ、さらに充実し生き生きとした活動のできる場所でありたいと思います。

利用者の推移

就労移行支援

令和 5 年	4 月	1 名	入所	…在籍者数	1 名
	5 月	1 名	当就労 B 型へ移行	…在籍者数	0 名
総在籍者数					0 名（令和 6 年 3 月末）
別途：就労アセスメントのための就労移行利用者数					… 2 名（1 月、3 月）

就労継続 B 型支援

令和 5 年	5 月	1 名	入所		
		1 名	対処	…在籍者数	3 1 名
	6 月	1 名	当就労移行より		
		1 名	入所		
		1 名	退所	…在籍者数	3 2 名
	7 月	1 名	入所	…在籍者数	3 3 名
	9 月	1 名	退所	…在籍者数	3 2 名
令和 6 年	1 月	1 名	入所		
		1 名	退所	…在籍者数	3 2 名
	2 月	2 名	退所	…在籍者数	3 0 名
総在籍者数					3 0 名（令和 6 年 3 月末）

就労移行支援事業

1 所員の内訳（令和 5 年 3 月末）

- (1) 出身市町村： 0 名
 (2) 性別： 男性 0 名 / 女性 0 名
 (3) 年齢層： 0 名
 (4) 障がい種別： 0 名

2 通所方法

- (1) 徒歩及び自転車等 0 名
 (2) 公共交通機関 (バス・電車) 0 名
 (3) 家族による送迎 0 名

3 日課について

時間			内容
9 : 0 0	～	1 0 : 3 0	朝礼・ラジオ体操・作業
1 0 : 3 0	～	1 0 : 4 0	午前休憩
1 0 : 4 0	～	1 2 : 0 0	作業
1 2 : 0 0	～	1 3 : 0 0	昼食休憩
1 3 : 0 0	～	1 4 : 3 0	作業
1 4 : 3 0	～	1 4 : 5 0	午後休憩
1 4 : 5 0	～	1 5 : 3 0	作業
1 5 : 3 0	～	1 5 : 4 0	着替え・帰りの会

月曜日から金曜日を開所とし、土・日曜日は休みとする。土・日曜日に行事等がある場合は開所とする。

4 通所状況

通所実態 (一日平均利用者数)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	年平均 0.1 人
1	1 人	1 人	-	-	-	
1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	
-	-	-	-	-	-	

5 個別支援計画について

就労訓練においてはどのような作業をしていきたいか、どのような活動をしたいかなど面談を踏まえ、目標設定をしている。目標についてはまとめをして評価し、その後の方向性を決めていくようにする。利用者、ご家族の意向と希望をお聞きし、また、こちらからも提案をするなかで日々の生活が充実していけるように支援を行う。

6 就労活動について

【 クリーニング 】

《 作業内容 》

○ホテル、美容室等のタオル類の水洗いクリーニングを行う

- ・アイテム品：BT・FT・BM・サウナマットなどのタオル品、スリッパ
- ・日帰り温泉施設、ホテル等：客先数 1 5 件
- ・美容室：客先数 2 件

○高齢者施設利用者の私物品ネットクリーニング：客先数 9 件

《 全体として 》

- ・ 11月に、ボイラー式乾燥機を2台入れ替えしたことで、乾燥待ちのロスが減った。
- ・ 美容室の客先数が5件から2件となった（元請けにて取引中止のため）

《 就労訓練 》

- ・ クリーニング作業では、適材適所、またチャレンジの気持ちのもと各部署にて活動した。
- ・ 経験を重ねることで、できることが増え、また継続して活動に取り組んでいる。

【 施設外就労 】

『 長野リネンサプライ（株） 』

《 作業内容 》

- ・ 電車車両の座席カバー一部の仕上げ補助
- ・ 月～金曜日の午前：所員3名、職員1名

《 全体として 》

- ・ 企業での活動は、利用者の皆さんにとって特別な意識をもって取り組んでいた。
- ・ 一般就労へ向けての第一歩、また、一般就労をしていた方にとっては、自信に繋がっている。

【 一般ドライクリーニング 】

《 作業内容 》

一般のお客様のドライクリーニングの受付、または配達

《 全体として 》

- ・ 一般ドライクリーニングは、だいぶ以前より全国的に利用者が減少している。理由としては、家庭で洗濯できるようなスーツや洋服の種類が増えたこと、自宅で簡単に洗濯のできる衣類が主流となっていることがある。

7 QOL 活動、カルチャーについて

活動日・活動内容

月	日	曜日	内 容
4	5	水	お花見
8	9	水	涼む会
9	1	金	家族旅行（白樺リゾート・14名）
	8	金	家族旅行（上越うみものがたり・6名）
10	30	月	ハロウィン
11	5	日	第16回フードドライブ
12	13	水	クリスマスゲーム大会（12/20、22）
	29	金	仕事納めの会
1	4	木	仕事始めの会
	11	木	鏡開き
2	2	金	節分

- ・ 上記のとおり実施
- ・ 飲食を伴わず、ソーシャルディスタンスを保てるよう配慮して進めた。

8 保健衛生について

《 健康相談 》

実施日：毎月第1火曜日、第3水曜日の9時より

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	11	9	13	18	8	12	10	14	12	9	13	12
	26	24	28	26	23	27	25	29	20	31		13

看護師：9月より富田看護師から遠藤看護師へ引き継ぎ

内 容：血圧・体重測定、日頃の健康や生活の相談

相談者数：毎回8名

・健康や生活面での聞き取りの中から、気になる点については今後の対応や確認を行いながら相談を受けている。

・体重や血圧測定については、健康相談での測定値が日々の健康づくりに役立っている。受診時などに参考としてお伝えすることもあるため。

《 健康診断 》

令和 5年 6月 15日(木)メディカルチェックによる健康診断

29日(木) //

《 保健総括 》

令和 6年 3月 12日(火):アトリエ CoCo 食堂

・嘱託医立岩先生、他事業所と共同

《 感染症対策・コロナ・インフルエンザ 》

・コロナやインフルエンザに罹患された場合は、医師の指示により対応をしていただいている。集団感染はないが、時々報告がある。

・引き続き感染症対策(出入口での除菌、手洗い、うがい、食堂の除菌等)を講じ、施設内に持ち込まない、という意識のもと対策をしている。昼食時も向き合って食事をとらないように配置し、各テーブルにはアクリルパネルを置いている。

・朝の通所時に玄関にて、検温のチェックを行い、体調管理も継続している。

・インフルエンザ予防接種については、利用者へ予防接種の希望を伺い、アトリエ CoCo にて予防接種を受けた。

《 家庭との連携 》

・健康相談や健康診断での結果等について、必要なことを家庭へ報告し連携が取れるようにしている。

・服薬されている方は、処方箋の写しを頂いている。

・頓服や頭痛薬などの薬については、必要な方はお預かりし管理している。

《 熱中症予防について 》

・水分補給、休憩をこまめに促し、塩飴等を一定時期に配布しながら、暑さを乗り越えた。水分補給では、各部署にウォータージャーを置いて、すぐに冷水を飲めるようにしている。

・熱中症対策用の飲料水や冷却シートなども常備している。

・着替えを持参し、汗を拭う、顔を洗うなど体温を下げるよう声掛けしながら進めた。

《 常備薬について 》

・常備薬については、急な体調不良への対応(腹痛、胃腸薬、風邪薬) 個人で服薬をしている利用者へは、その薬と常備薬とを確認し、場合によっては常備薬の服薬を避けていただいている。

9 給食の提供

- ・希望者に給食を提供（キッチン CoCo より提供）
- ・四季折々に合わせたメニュー、カルチャーに合わせたメニューの提供。
- ・コロナ対策として、食事開始時間をずらすこと、対面にならないよう席の変更と各テーブルのパーティション設置、次亜塩素酸水の設置、食事以外はマスクを外さない等の対応をしている。

10 防災訓練・安全について

- ・消防計画、土砂災害時の避難確保計画、自衛消防団の編成、職員緊急連絡網の作成（変更作成）
- ・JAV & Bakery 緊急避難場所：長野市立芹田小学校

防災訓練

- ・10月25日（水）PM 火災による避難、消火訓練
- ・12月6日（水）AM 避難確保計画に基づき、事業所から避難所まで徒歩にて避難訓練をする
- ・11月1日、2月1日、長野県知障協による災害伝言ダイヤルと Web を使用した訓練
- ・防災グッズ、救急セット、防災ヘルメットを用意し、訓練の際に使用した。

消防設備点検

- ・毎月実施
- ・総合点検：年2回、4月11日、10月19日実施、三益消防機材(株)へ依頼

AEDの設置

- ・緊急時の対応として設置をしている。
- ・AED取扱いを玄関へも表示し、近隣地域への協力体制も取れるようにしている。

防犯カメラの設置

- ・危機管理の面から、防犯カメラの設置を行い、駐車場入り口やその周辺から建物裏側までを覆う形で設置とした。
- ・所員、職員の安心安全を守ることはもちろんのこと、地域の安心安全へもつながっている。必要時に警察より確認の問い合わせもある。

11 地域との協働について

養護学校等の実習生受入れ

月	人数	学校名
10	1名	長野養護
2	1名	長野養護（就労アセスメント）
3	1名	長野養護須坂分教室（就労アセスメント）

- ・養護学校の実習生受入れでは、複数名の実習生がいるときには一定期間に集中しないよう各学校へ依頼し予定を組んで頂いている。実習期間はそれぞれの生徒に合わせている。

見学・体験者

月	見学者・日にち（人数）	体験者数
5	31日（3名）	
8	2日（3名）	
9	26日（1名）	

- ・見学は、各関係機関や養護学校等からの見学者を含み、随時行っている。
- ・体験は、見学後に体験希望の方、体験日数は各々によって変更がある。

その他

- ・長野市障害ふくしネット（かつどう部会執行部）

1 2 職員研修について

- ・朝の職員ミーティング時において職員間の情報の周知、職員会議による学び
- ・職員会議での資料として、福祉情報や実践報告などの資料の読み合わせをした。

職員研修

月	日	曜日	内容	人数
8	3	木	関東地区知的障害関係施設種別代表者会議 長野大会 全体会	1
	4	金	” 分科会	1
	3 1	木	長野市ふくしネットやさしいお店プロジェクト	1
9	2 2	金	障がい者雇用フォーラム	1
1 0	2 6	木	ふくしネットフェスタ 2 0 2 3	1
1 1	2 1	火	長野市障害福祉ネット地域課題検討ワーキング「福祉避難所について」	1
1 1	2 8	火	セルフ研修	1
3	6	水	第 3 回障害者虐待防止・権利擁護研修会（ZOOM）	2
	2 2	金	長野市ふくしネット全体協議会	1

1 3 家族会について

・アトリエ CoCo、キッチン CoCo、アートカフェ CoCo と共に「CoCo 家族会ながの」として組織、事務局をアトリエ CoCo におく。

- ・CoCo 家族会ながの総会：令和 5 年 6 月 1 0 日（土）
- ・家族のつどい（ながの、ちくま合同）：令和 6 年 2 月 2 5 日（日）
- ・役員会：年 2 回

1 4 職員体制について

所長（サービス管理責任者）1 名 就労支援員 1 名 職業指導員 1 名
生活支援員 1 名 看護師（嘱託）1 名 医師（嘱託）1 名

就労継続 B 型支援事業

1 利用者の内訳（令和 6 年 3 月末）

- （1）現住所：長野市 3 0 名
- （2）性別：男性 1 4 名 / 女性 1 6 名
- （3）年齢層：2 3 歳～6 9 歳
- （4）障がい種別：知的障がい 1 9 名 精神障がい 1 0 名 身体障がい 1 名

2 通所方法（重複あり）

- （1）徒歩及び自転車（自動車）6 名
- （2）公共交通機関（バス・電車）1 4 名
- （3）家族の送迎 1 0 名

3 日課について

時間			内容
9 : 0 0	～	1 0 : 3 0	朝礼・ラジオ体操・作業
1 0 : 3 0	～	1 0 : 4 0	午前休憩
1 0 : 4 0	～	1 2 : 0 0	作業
1 2 : 0 0	～	1 3 : 0 0	昼食休憩
1 3 : 0 0	～	1 4 : 3 0	作業
1 4 : 3 0	～	1 4 : 5 0	午後休憩
1 4 : 5 0	～	1 5 : 3 0	作業
1 5 : 3 0	～	1 5 : 4 0	着替え・帰りの会

CoCoJAVJAV：月曜日から金曜日を開所とし、土・日曜日は休みとする。土・日曜日に行事等がある場合は開所とする。祝日は自由通所日。

BakeryCoCo：火曜日から土曜日を開所とし、日・月曜日は休みとする。日・月曜日に行事等がある場合は開所とする。祝日は自由通所日。

4 通所状況

通所実態（一日平均利用者数）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	年平均 19.1 人
21 人	19 人	21 人	20 人	19 人	19 人	
1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	
20 人	19 人	20 人	17 人	18 人	17 人	

5 個別支援計画

就労移行支援事業と同様

6 就労活動について

平均工賃

23,739 円（長野市へ報告した平均工賃月額）

【 クリーニング 】

就労移行支援事業と同様

【 パンの製造・販売 】

《 作業内容 》

- ・パンの製造では、フィリング作りやサンドイッチの厚焼き玉子を作る作業など利用者の出来る作業を日々増やしながら進めてきた。
- ・パンの袋詰めは、パンの大きさごとに袋のサイズを変える、やわらかいパンや形の崩れやすいパンなどはゆっくり丁寧に行うなど、気を配りながら行えた。
- ・焼菓子製造では、クッキーやラスクなどの製造を行い、焼菓子を一つずつラッピングしたり、ギフト用の箱折りでは一箱ずつ丁寧に行った。
- ・カフェ業務では、引き続き、感染症対策をしながら通常営業を行った。
- ・外販活動についても、感染症対策のため少人数での販売活動とした。

就労訓練

- ・営業活動は、県や保健所の指針をもとに感染症防止対策を講じた。
- ・外販活動は、医療警報に留意し短時間での販売や職員だけで行くなど、その都度対応した。コ

コロナ禍以前のように利用者さんも一緒に行けるようになり、外販活動を楽しみにしていた利用者さんにとっては待ちに待った機会となった。

- ・朝の健康チェックでは、感染症防止対策の継続、保健衛生と食品衛生を保てるように支援を行い、体調管理をすることで、何かあればすぐに対応できるよう継続している。

- ・様々な作業ができるようにチャレンジする機会を増やし、一人ひとりが活躍できる活動を模索し、取り組んでいただいている。

- ・カフェのドリンク提供では、簡単なドリンクから作り始め、難易度の高いドリンクを作ることができるように段階を踏みながらチャレンジしている。

- ・新型コロナが５類へ移行したことを受け、お客様への接客を以前のように積極的に取り組んでいただいている。

7 QOL 活動・カルチャーについて

就労移行支援事業と同様

8 保健衛生について

就労移行支援事業と同様

9 給食の提供

就労移行支援事業と同様

10 防災訓練・安全について

就労移行支援事業と同様

11 地域との協働について

就労移行支援事業と同様

12 職員研修について

就労移行支援事業と同様

13 家族会について

就労移行支援事業と同様

14 職員体制について

所長（サービス管理責任者）１名 職業指導員 ２名 生活支援員 ３名 就労支援員 １名
目標工賃達成指導員 ２名 看護師（嘱託） １名 医師（嘱託） １名

地域活動支援センター事業 型（「BakeryCoCo」併設型）

Café CoCo

1 登録利用者数

○登録者数： １８７名（令和６年３月末）

2 開所状況

○開所時間： ９：３０～１７：００

○開所日数：年間延べ ２５５日

火曜日から土曜日を開所とし、日・月曜日・休みとする。祝日は不定休にし、利用者がカフェスペースで過ごせる開放日とする。

3 日中活動について

カレンダー教室

・月1回開催し、四季に合わせたテーマで手作りのカレンダーを作成する。コロナ禍に飲食を伴うイベントは中止し、サンドイッチ教室の代替えとしてカレンダー教室を開催したが、以降、人気の企画となり継続して開催している。折り紙、画用紙の種類を自分で選択し、また自分の考えた言葉を入れるなど、立体的で面白味のあるオリジナル作品になっている。

同じ時間を共有することで、お互いの作ったものを見せ合ったりと、仲間意識がうまれている。

サンドイッチ教室

・季節の野菜を取り入れ、行事にちなんだサンドイッチを作った。コロナ禍は飲食を止め、作ったものを TAKEOUT という形に変更したが、昨年5月のコロナ5類以降は、作ってその場で食べるという形も再開した。

CoCo 健康部

・季節に流行る病気のこと、タイムリーなテーマを選び健康について講義や話し合いをした。クイズ形式にしたり、自分で考える時間を設けたり進行方法も変えて実施するなど、興味を持てるように工夫して開催することが出来た。

・コロナについての最新情報や予防の知識、また心が沈まないように「心の健康」を盛り込んだ。

・会の終わりには、毎回、ぬりえや名言を紹介して、皆で同じ作業や会話をしながら、交流を深める時間となっている。

・年始の会では、一年の健康に関する目標と具体的な行動を個々に考える時間を取り、健康増進の機会を持つことができた。

若里さんぽ

・3密を避けながら運動不足解消や気分転換ができることを目的に企画した。話をしながら、50分程度の散歩もでき、交流の場にもなっている。コロナ5類以降はコースを増やし、外のカフェでの飲食も入れ、落ち着いて顔を合わせながら話のできる機会となっている。

各手作り教室

・動くおもちゃ、キーホルダー、ひな祭りなどの季節飾り、折り紙のペン立てなどを手作りし、楽しむことができた。家庭に持ち帰り飾ることができ、ご家族からの感想も頂けた。

・外部講師をお呼びし、グラスサンドアートの教室も開催できた。

CoCo 運動部

・健康運動士による体操教室を開催。3ヶ月に1回のシリーズでできた。着座で、普段着で出来ることから、運動が苦手な方も気軽にできた。無理な運動ではなく、静的な動きで血行を促す体操を学ぶことが出来た。今年度は、ヨガインストラクターからのヨガ教室を3回行った。

忘年会・新年会・レクリエーション大会

・ゲームを中心に楽しく遊ぶことができた。笑いや動きがある企画となった。

ガーデニング教室

・春の花と秋の花で年2回開催。自宅での栽培も続くことから、日々の手入れや開花の様子を参加者から聞くことができた。

水曜カルチャー

・水曜日の午後に30分の短い時間で気分転換を図る集まりを企画した。折り紙、ぬりえ、簡単ストレッチなど、予約なしで気軽に立ち寄れるような形とした。

ピアカウンセリング【絵を描く同好会】

・絵を描く登録者に声を掛け、1ヶ月に1回、交流会と合わせ、テーマに沿って描いた作品を紹介する機会となった。個別相談では見られない笑顔や言葉数も増え、コミュニケーション力が発揮されている。当初からのメンバー変更はあるが、4名で継続している。

・現在【読書部】も募集中。

地活通信の作成と送付

・登録者には毎月お便りを作り、活動報告と活動スケジュールをお知らせして呼びかけをした。また通信の1ページは『保健師の健康メモ』とし、健康情報を発信した。

その他

・カフェの利用者が、情報収集ができるようにジャンル分けにしたファイルを設置している。
(他の地活パンフ・就労支援施設・グループホーム・健康情報・イベント情報・心の健康)

4 作業体験について

・見学→オリエンテーション→作業体験を通して自身の進路を決める機会を設けている。
・時間や日程の組み立ては、段階的に増やすようにする。
・作業体験による手ごたえや質問、感想など、声掛けをしながら検討して頂く。

5 相談支援について

相談内容

・求職や福祉事業所への通所希望の方もおり、相談することで本人の思いや希望を整理し、自身で考えをまとめ、一歩進めることができるよう支援している。
・その方の相談内容に応じて、関係機関と連携し状況確認等を行っている。
・就職したいのか、就職の際に障がいオープンで就活するのか、また就職後には、いかに上司や障がい担当者とコミュニケーションをとればいいのかなどの相談が多かった。
・継続して就職されている方は、節目や契約更新の際には、嬉しい報告として連絡がある。
・家族、友人についての人間関係の相談多い。
・新規にて相談に来所される方は、法人内の相談事業所、各関係機関、地活利用者からの紹介、地活通信を見て等により、来所されている。
・働いている障がいのある方への相談支援として、メンタルヘルスケアを行った。
・ご家族と連携することは多々あり、ご家族を含めた面談、ご家族のみの面談をすることで、ご本人、ご家族の課題の表出、また目標作りをすることができた。
・一般企業の障害枠での苦勞・退職への迷いなどに対しての傾聴支援をしている。また、上司やジョブコーチ、主治医への相談の仕方についても提案している。

6 保健衛生について

イベントの参加は、首都圏や感染の多い地域に行った方、ご家族に該当する方がいる場合、1週間は参加を控えていただくようお願いした。

7 家族との協働

ご家族の様々な想いに寄り添い、利用者さん自身をサポートできるように協力し合いながら支援を行っている。3者面談の実施もしている。

ご家族自身が理解することの難しい場面もあり、ご家族へのサポートも必要である。

8 地域との協働

見学や体験などは随時受け付けをしており、利用していただいている。

パンフレットやチラシの掲示や配布をし、地域の方への情報提供を行う。

9 その他

危機管理の面から、防犯カメラの設置をしており、利用者さんや職員の安心安全を守ることがもちろんのこと、ご近所の方にとっての安心へもつながっている。

10 職員体制について

管理者 1 名 支援員 2 名 看護師（嘱託） 1 名 医師（嘱託） 1 名

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型障がい福祉サービス事業所

スタジオC o C o

スタジオC o C oは平成27年4月に開所させていただき9年が経過し、従たる事業所のCoCoレストは令和2年12月に開所させていただき4年が経過いたしました。令和5年度の就労支援事業であるリネンサプライ事業を取り巻く環境は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり、行動制限がなくなりましたが、宿泊料金の割引等の政策がなくなったこと、宿泊料金が値上りしたこと等により日本人の旅行は減少しました。反面、円安の影響により割安になった日本旅行を楽しむ外国人旅行客が増加しました。リネンサプライ事業の収入は年間4億1132万円（前年度比+7.6%）となりました。

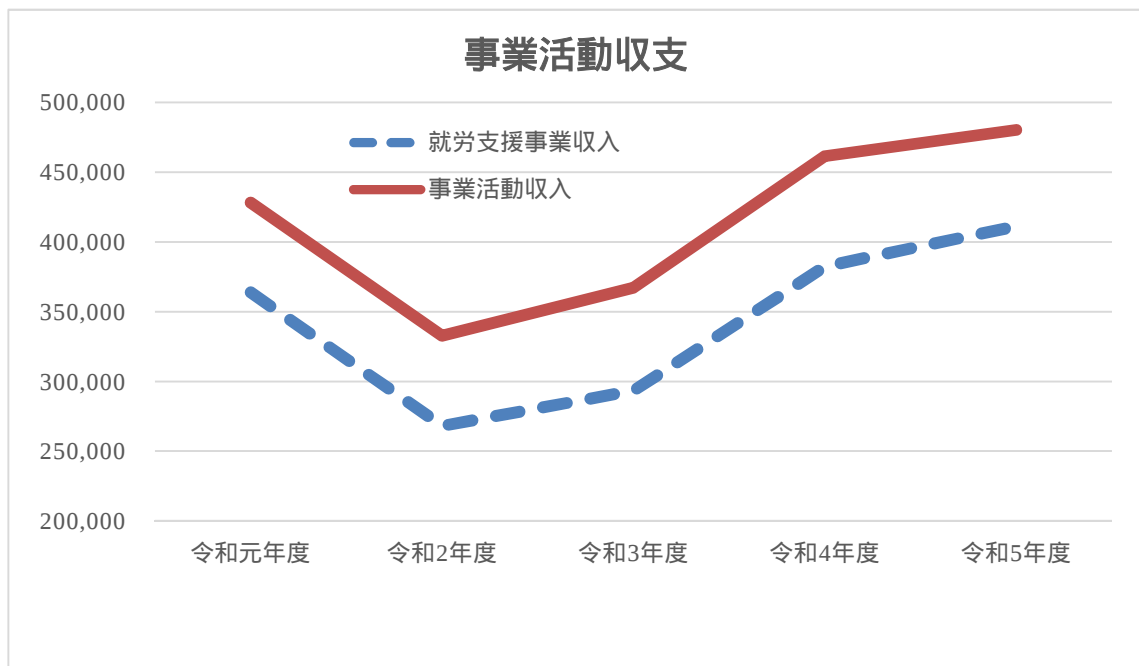
令和5年度末の就労継続支援A型12名・就労継続支援B型8名・就労移行支援1名・生活介護10名の計31名でした。前年度末から1名減少し、体調不良のため通所日数が減っている利用者さんも2名いて福祉サービス事業収入は5.1%の減となりました。実習の受け入れや見学者は増えましたが、利用者数の増加にはつながりませんでした。

健康・衛生面では令和4年度までは事業所内であまり見られなかった新型コロナウイルス感染症陽性者が7月と9月に複数人発生しました。幸い重症となる人はいませんでしたが、マスコミ等ではあまりとりあげられませんでした。地域的に感染が広がっていたため、警戒を続けました。10月以降は単発で陽性者が出ることはありましたが、平穏に過ごせました。

収入・費用の年度間比較

	就労支援事業 収入	福祉サービス事業 収入	事業活動収入計	事業活動費用計
元年度	363,946	53,948	428,228	406,091
増減率	+8.3%	+10.1%	+9.2%	+8.8%
令和2年度	268,173	57,298	332,654	307,763
増減率	-26.3%	+6.2%	-22.3%	-24.2%
令和3年度	293,502	64,800	367,070	338,747
増減率	+9.4%	+13.1%	+10.3%	+10.1%
令和4年度	382,383	63,464	461,385	435,210
増減率	+34.8%	-2%	+25.7%	+28.5%
令和5年度	411,318	60,412	480,155	452,041
増減率	+7.6%	-5.1%	+3.9%	+3.9%

単位：千円 増減率は前年度比



■事業の開始

平成 27 年 4 月 1 日 開所

平成 27 年 6 月 1 日 リネンサプライ・工場の本格稼働開始

■利用者の推移

就労継続支援 A 型事業

定員 12 名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和 5 年 4 月 1 日	1 名 入所	14 名
8 月 31 日	1 名 自己都合により退所	13 名
9 月 30 日	1 名 自己都合により退所	12 名
令和 6 年 3 月 31 日		12 名

* 平成 27 年 (2015) 4 月 定員 14 名

令和 2 年 (2020) 12 月 定員を 12 名に変更

就労継続支援 B 型事業

定員 10 名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和 5 年 4 月 1 日		9 名
8 月 31 日	1 名 自己都合により退所	8 名
令和 6 年 3 月 31 日		8 名

就労移行支援事業

定員 6 名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和 5 年 4 月 1 日	1 名 入所	1 名
令和 6 年 3 月 31 日		1 名

* 平成 27 年 (2015) 4 月 定員 10 名

令和 2 年 (2020) 12 月 定員を 6 名に変更

生活介護事業

定員 12 名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和 5 年 4 月 1 日		11 名
4 月 30 日	1 名 CoCo レスト自己都合により退所	10 名
8 月 31 日	1 名 CoCo レスト自己都合により退所	9 名
令和 6 年 2 月 1 日	1 名 スタジオ CoCo 入所	10 名
3 月 31 日		10 名

* 平成 27 年 (2015) 4 月 定員 6 名

令和 2 年 (2020) 12 月 従たる事業所 CoCo レスト開所 定員を 12 名に変更

就労継続支援 A 型事業

1 利用者の内訳

出身市町別 長野市 2 名 千曲市 7 名 上田市 2 名 坂城町 1 名
 性 別 男性 10 名 女性 2 名
 平均年齢 31.7 歳 (24 ~ 43 歳 / 20 代...4 名 30 代...7 名 40 代...1 名)
 障がい種別 知的障がい 療育手帳 A1...1 名 B1...2 名 B2...8 名
 精神障がい 精神障がい者保健福祉手帳 3 級...1 名

2 通勤方法

- (1) スタジオ CoCo の送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 5 名
- (2) 徒歩及び自転車 1 名 (うち 1 名は CoCo ホーム三本木より通勤)
- (3) 自家用車 (本人運転による) 4 名
- (4) 自家用車 (家族の運転による) 1 名
- (5) 50CC バイク 1 名

3 勤務体制

始業時刻 8:40 終業時刻 17:10

休 憩 昼休み (50 分) 15 時休み (20 分)

実労働時間 7 時間 20 分

年間休日 90 日以上

- ・繁忙期及び納期の変更等のため、1 年単位の変形労働時間制で運営をしている。原則として木曜日・日曜日は休みとした。希望者は残業も行っている。
- ・「就労継続支援 A 型労働者 就業規則」に準じた運営を行っている。

4 通所状況

通所率

R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9
98.0%	94.3%	98.3%	86.0%	89.2%	91.3%

R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	平均
98.9%	95.6%	93.8%	94.6%	92.5%	97.0%	94.1%

月によりバラつきがみられるが安定した通所状況ではある。

例年 7 月、8 月はクリーニングの最繁忙期となり年間で最も多い開所日数となっている。その中で今年は 7 月に新型コロナウイルスの罹患者が 4 名、8 月には 1 名いたため通所率が低くなったものとする。感染の場合、自宅での療養は 5 日間で良いとされていたが、それぞれ重症化はしないものの喉の痛みや咳の症状が長引き休みも多くなっている。8 月に感染した利用者は本人だけではなく子どもも家族もと感染拡大のため 1 カ月ほどの休みとなった。平均通所率は昨年より 1.3% 低く 94.1% となった。

5 利用者の給与

給与は、労働実態に合わせ労働基準監督署の承認を得て決定している。今年度 2 名が最低賃金の確保となった。現在減額最低賃金の減額特例を受けている方は 7 名いる。通勤費は全額支給、有給休暇付与、社会保険・労働保険加入。

○ 年収の状況

800,000 以下	2 名
800,000 円～1,000,000 円	0 名
1,000,001 円～1,200,000 円	1 名
1,200,001 円～1,300,000 円	2 名
1,300,001 円～1,400,000 円	1 名
1,400,001 円～1,500,000 円	1 名
1,500,001 円～1,600,000 円	2 名
1,600,001 円～1,700,000 円	1 名
1,700,001 円～1,800,000 円	2 名
1,800,001 円～1,900,000 円	2 名
1,900,001 円～2,000,000 円	0 名

計 14 名（令和 4 年 1 月入所 令和 5 年 8 月末退所 1 名
令和 5 年 4 月入所 9 月末退所 1 名 含む）

平均年収 1,520,922 円

月額平均 126,357 円

障害基礎年金受給状況	2 級	9 名	年間 795,000 円
	1 級	1 名	年間 993,750 円

6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労継続支援 A 型計画」を立てる。また 6 ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 利用者の作業内容

洗い場	2 名	ホーフロール	4 名	シーツロール	4 名
浴衣ロール	1 名	タオルたたみ	1 名		

A 型利用者は洗い場、仕上げロールでの作業を主としている。中には精神面等の支援の必要性からタオルたたみ・タオルフォルダーでの仕事を担う者もいる。適性を見ながら作業種や配置を決めている。経験年数を重ねた利用者も多い。1 部署だけではなく、多部署で、複数の

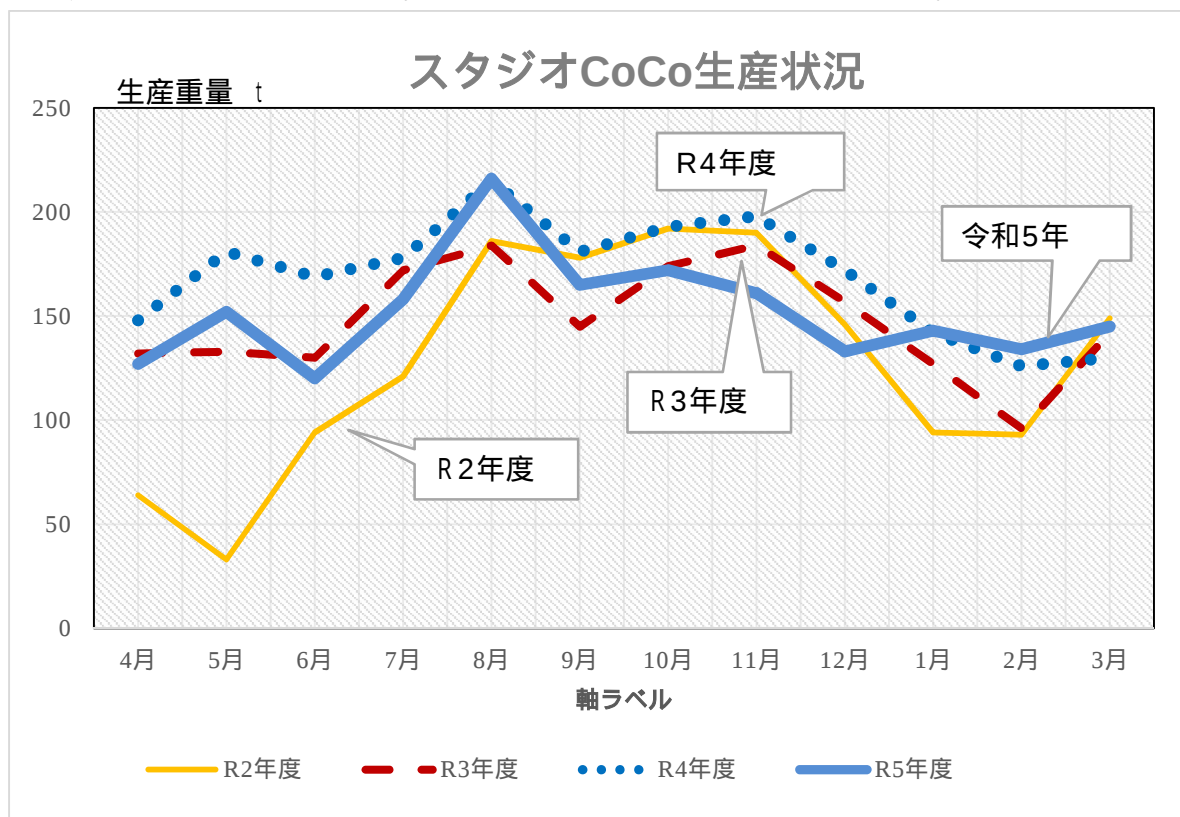
作業種の習得ができるように挑戦している。

8 生産活動

取り扱い業務 ホテル・旅館寝具等のクリーニング
シーツ 掛けカバー 枕カバー クロス・ナプキン類
浴衣 ガウン タオル類 一般クリーニングの取次ぎ
布団リース

生産状況

前年の令和4年は長野県内で御開帳と御柱が行われ、宿泊料金の割引等も実施されたため観光客が多かった。令和5年は、前年の反動、宿泊料金の値上がり、割引がなくなった等の理由で日本人観光客が減少し稼働が下がった。また、円安基調が続いてきたが割安感が強まり、外国人の宿泊者がふえた。年度後半にかけて稼働は回復に向かった。



〇月別生産重量

(単位：t)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R1 年度	189	206	175	213	264	208	200	208	170	174	157	144	2,308
R2 年度	64	33	94	121	186	178	192	190	146	94	93	149	1,540
R3 年度	132	133	130	172	184	145	174	184	157	127	96	142	1,776
R4 年度	148	181	169	178	215	181	193	198	172	142	126	130	2,033
R5 年度	127	152	120	158	216	165	172	161	133	143	134	145	1,826

9 配送業務

- ・ 配送担当職員：4名 一部外注にて配送業務を行っている。
スタジオ CoCo で仕上げをしているリネン品の納品回収を主な業務としている。
- ・ 事業所所有車：6台 (4tトラック2台 2tトラック1台 ハイエース3台)

・担当エリア：

長野市内 2 名 千曲・篠ノ井方面 1 名 斑尾・上越方面 1 名 上田市内・業務委託

10 健康管理

(1) 日々の配慮

- ・朝会時の健康観察と声掛け
- ・作業時の巡回指導と担当職員からの直接指導
- ・特定指導・相談
- ・健康チェック表による日々の体調管理
- ・新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等感染症予防のための「手洗い・消毒・マスクの着用」の徹底。声掛けの常時実施
- ・熱中症、脱水症状の注意喚起と水分・塩分補給等の声掛け・保冷剤の支給を実施
- ・看護日誌の記入（生活介護事業）

(2) 健康相談

日 時：月 1 回 基本的に第 2 火曜日 13:00～15:00

場 所：スタジオ：静養室もしくは食堂・和室 CoCo レスト：ホール

内 容：体重測定・血圧測定・面談による健康相談

状 況

日	人数及び実施状況
4 月 18 日（火）	11 名 新入所員 2 名。2 カ月入院、4 月通所再開所員 1 名、身体症状で通院中の 2 名の経過報告、他生活介護を中心に実施。
5 月 16 日（火）	10 名 新入所員 1 名他 体調の気になる利用者中心に実施
6 月 13 日（火）	10 名
7 月 28 日（火）	13 名 コロナ感染者後遺症確認の必要な利用者中心に実施。 数日前に蜂に刺された利用者の症状、低血糖症状の利用者の経過、水虫への対応等相談実施。
8 月	繁忙期のため実施なし
9 月 12 日（火）	13 人 部署移動をした利用者の体調を把握。血豆、口内炎の処置について相談。他、肥満、血圧、便秘の方等の相談実施。
10 月 10 日（火）	13 人 夏ばて気味の利用者や入院治療後の利用者に実施。
11 月 14 日（火）	8 名 10 月の健康診断の結果要精検者を中心に実施。自傷行為のある利用者の相談も実施。
11 月 1 日（水）	21 名 インフルエンザ予防接種の実施に合わせて健康観察
12 月	実施なし 繁忙期のため中止。
令和 6 年 1 月 15 日（火）	12 名 生活介護、A 型を中心に久しぶりの利用者に実施。
2 月 14 日（火）	27 名 利用者全員の体重測定・血圧測定等実施
3 月 16 日（土）	安里医師の健康診断に合わせて健康観察

* 健康相談では新型コロナウイルスの罹患者に関しては、通所再開後の経過観察とともに後遺

症等の指導を行った。

* 生活習慣病や持病者の服薬確認、体調確認等の指導を行った。

* CoCo レストの健康相談は実施人数や移動等の関係から、特別なことがない限りは常駐の宮崎看護師（職員）により CoCo レストにて実施をした。内容等については安里看護師に報告の形をとらせていただいた。

○ まとめ

・ 新型コロナウイルス感染者数

月	利用者	職員
R5. 7 月	4 名	3 名
8 月	2 名	0 名
9 月	2 名	2 名
11 月	1 名	0 名
12 月	0 名	1 名
R6. 1 月	2 名	0 名
2 月	1 名	0 名
3 月	0 名	3 名
計	12 名	9 名

・ インフルエンザウイルス感染者数

月	利用者	職員
R5.12 月	0 名	1 名
R6. 1 月	1 名	0 名
計	1 名	1 名

- ・ 新型コロナウイルス陽性者や濃厚接触者の方が昨年度よりも増加した。5 類に移行してからの感染者が多い。家庭内感染が主であるがそこから事業所内の数名に拡大したケースもある。感染経路が不明な方もいた。
- ・ インフルエンザウイルス感染症の方も若干名いた。利用者は肺炎と併発をした。
- ・ 体重の増加については、適度な運動、日頃の食生活などの見直しが必要との指導があった。改善が見られた方もいる。
- ・ 血圧の高い男性利用者 1 名は毎週月曜日、継続して支援者が個別に計測を行った。家庭で自分での測定や家族に測定してもらうことが困難な利用者である。記録を残し健康診断や健康相談の際にアドバイスをいただいた。頑固な性格も伴い受診になかなか繋がらなかったが、1 年以上経過してようやく令和 6 年 2 月地域の内科受診となった。以後定期的に通院をして血液検査等をしている。
- ・ 通院、服薬をしている利用者の必要な情報や健康診断の結果を医師、看護師に把握していただき必要な指導をいただいた。本人に伝えるときにもご自身での健康管理や対応だけでは不十分と思われる方には事業所からご家庭に連絡を行なった。

（ 3 ）健康診断

全日本労働福祉協会による健康診断 42 名（利用者 26 名 / 職員 16 名）

日 時：令和 5 年 1 0 月 6 日（金）13：45～16：15

実施機関：（財）全日本労働福祉協会

実施内容：身長・体重測定・血圧測定・尿検査・視力検査・聴力検査・

血液検査・胸部レントゲン、心電図・医師による問診

安里院長による健康診断 27 名（利用者 27 名）

日 時：令和6年3月16日（土）13：00～14：00

場 所：食堂・和室

○まとめ

- ・院長、看護師に診断結果を確認いただき、健康相談につなげた。合わせて、就業制限の部分について重労働可否のご教示をいただいた。
- ・結果に「要精検」と出た方には、通知を出し医療機関への通院をすすめた。
安里院長の健康診断の際、特に「減量」「血圧の定期測定」に関して直接利用者に指導を行った。体調や食事の管理は本人だけでは対応が難しく、ご家族の協力等が必要な方がいる。家庭通知などを活用し直接事業所から連絡をしているが、中にはご家庭での支援が得られにくい状況もあり受診などスムーズにいかないケースがある。
- ・利用者のなかでも40歳代以上の方の健康管理については特に慎重にみている。今年度は肺炎、蜂窩織炎疑いで同一利用者が2回入院をしている。また、化学療法の治療を行っている利用者が1名いる。

（4）インフルエンザ予防接種 36名（利用者21名／職員15名）

日 時：令和5年11月1日（水）13：15～14：00

○まとめ

- ・予防接種を行うことで、インフルエンザ、風邪に対する予防意識が高まった。
当日接種できなかった方は、安里医院やかかりつけ医で接種をした。今期、インフルエンザ感染者は職員、利用者合わせて2名ほどいた。
- ・事業所で予防接種を実施していただけるため、受けやすい。

（5）新型コロナウイルス感染症対策

- ・令和5年5月、新型コロナが5類感染症となり制限がなくなったが、5類になった以降に、職員、利用者がコロナに罹患したこともあるので、感染予防、蔓延防止、の観点から健康チェック表を継続して行っており、コロナに限らず自分の健康に関心を持つようにしている。
- ・事業所には「新型コロナウイルス抗原検査キット」を常備している。本人が無症状の場合であっても身近に濃厚接触になり得ると思われる方がいた場合等にも使用できるような体制にしている。
- ・「うつさない うつらない 自分の身は自分で守る」を合言葉にグループ組織・事業所全体で行動指針を遵守し感染防止に努めた。
- ・「手洗い・消毒・マスク」を基本に常に朝会にて予防を訴えた。トイレ、洗面所でのハンドソープによる手洗いと消毒の徹底。1日のうち2回手すり・作業台・台車等のアルコール消毒。会話をする時は距離を置くこと。朝会でのマスクの着用の徹底。
- ・食堂での食事は2交替制とし密の状態を回避した。座席はテーブルの並びを並列にして隣の人との間隔をあける。食事中は会話を慎む。
食後は塩素を含んだ台布巾でテーブルを拭く。食堂は常に窓を開け換気をしている。

（6）健康講話

まだ、集合型での講話は実施していない。月毎に安里医師から「産業医だより」をいただき、掲示等して健康に対する意識付けに努めた。

（7）その他

利用者の状況

○通所状況等

- ・昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の蔓延はあったが休業などではなく通常どおりの運営ができた。
- ・スタジオの男性利用者 1 名（50 代）が 1 カ月程度の入院治療後自宅療養を経て通所を再開した。化学療法も行うことから個人カレンダーを用いて治療を中心とした通所日、日課で通所を行っている。
- ・市外から電車で通所するスタジオの女性利用者 1 名（50 代）は一昨年度末に心不全のため 2 カ月ほど入院。復帰後 4 月からは週に 3 日の通所で対応をしていた。6 月より B 型から生活介護にサービスを変更し緩やかな過ごし方で様子をみた。11 月、12 月と肺炎等で 2 回ほど入院をしている。生活面でもグループホームでの生活を始めたことから通所方法や回数の検討を重ね R6 年に入ってからには週に 1 回の通所とし、併用利用をされている地元の生活介護事業所へあと 3 日通うようになった。
- ・CoCo レスト女性利用者 1 名（60 代）胆嚢炎による胆嚢摘出手術のため入院する。
1 か月ほど休養したが、経過良好のため通所再開した。
- ・レストでも宮崎看護師による毎月健康相談実施。また、個々の健診結果の基づき、栄養指導が必要な利用者に対しては、千曲市保健センター地区担当保健師、もしくは管理栄養士の指導を受けている。必要な場合は、保護者も同席している。
今年度、病院で栄養指導を受けている利用者を含め 3 名。
レストでは、食事改善や運動量を増やす必要な利用者に対して、決まったごはん量の提供、できるだけ散歩、ウォーキングなどを実施している。

○熱中症対策

- ・工場内はクールミスト発生装置ユニットを活用。表面温度を下げ暑さ対策を行なった。
- ・マスク着用が基本だが適宜マスクをはずして屋外での休息をうながした。

○安全衛生委員会の開催

定期的に委員会を行うとともに、従業員全体に安全衛生意識の向上を図っている。

11 安全・衛生管理

■スタジオ CoCo 安全衛生方針

当事業所は、従業員の安全を第一に考え運営をしています。また、従業員も安全衛生意識を向上させるため朝会・会議などで情報交換を行い OJT で危険箇所周知・不安全作業防止について確認をしています。労災事故が起こらないように安全衛生上の提案を積極的に行う風土を作り上げていきます。

■スタジオ CoCo 令和 5 年度安全衛生目標

労働災害 0

決まった作業手順を必ず守る。

相互の安全確保のため、大きな声での掛け声と合図を徹底する。

(1) 安全衛生委員会の開催

令和 5 年は 6 回の開催となった。労働災害に関する知識を深めるとともに、危険予知トレーニング「KYT」をしながら安全パトロールを行った。交通事故防止・火災防止・地震時の

注意等も検討した。

日時	内容
7月4日(火)	ロール火災、不具合がある台車
9月12日(火)	交通安全
12月12日(火)	工場パトロール
1月30日(火)	中島課長研修報告
2月6日(火)	電子タバコによるボヤに関して
3月19日(火)	工場パトロール

(2) 安全管理

《事業所・工場》

- ・労働安全衛生手帳(日本リネンサプライ協会発行、全49ページ)の読み合せを平成27年12月11日以降毎日朝礼の中で行っている。気を付けなければならない事を説明し、注意を喚起し、安全意識の向上に努めている。
- ・停止スイッチの作動確認を現場作業者が毎朝行っている。(平成27年12月より)異常があった場合には工場長または洗い場担当者に報告し安全確認を実施している。その他の異常(異音・異臭・蒸気漏れ・エアー漏れ)も部署ごとで確認をしている。
- ・朝礼にてヒヤリハットの情報を発表してもらい、対策につなげている。
- ・毎月スタジオ CoCo における安全衛生の重点項目を決めて「今月の安全作業宣言」を掲示している。朝礼で趣旨を理解してもらい事故防止を呼び掛けている。
- ・毎日12:00~12:10の時間で部署ごとに清掃を行っている。当番でトイレ・玄関・廊下・食堂、職場の清掃また事業所周辺のごみ拾いや草取りなども行っている。
- ・玄関・トイレ・事務所・食堂・工場の出入り口ドア等の取手、ノブ、電気のスイッチ等をエタノール系消毒液で拭いて感染症の対策をしている。工場内の洗濯後の清潔物を扱う台車、作業台等も消毒液を用いて拭いている。

《交通・車両》

危険運転があった場合ドライブレコーダーで確認。注意を促している。

(3) 防災訓練

■スタジオ CoCo

令和5年度は防災訓練を2回実施した。

令和5年9月26日(水) ・火災避難誘導訓練 ・通報訓練

厨房からの出火を想定して訓練を行った。避難・誘導、火災通報専用電話通報、水消火器による消火訓練を行った。

令和6年3月15日(火)

- ・第3ロールゴミ箱より出火を想定して訓練を行った。初期消火 消火係の連絡 放送により支援員の指示通り避難を行うことができた。

12 委託給食

常時利用者 8名 (1食280円令和5年11月からは300円に改定)

昼食数 令和5年4月~令和6年3月 272日

利用数 2,253食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集（都度確認）

利用者の食物アレルギーの調査

お誕生日メニューの実施

給食検討会の実施（キッチン CoCo・栄養士・調理師・スタジオ CoCo 管理者・給食担当）

13 QOL活動の実施状況

○諸行事の実施及び参加

事業所全体で行うものと A 型以外のサービス利用者で行う「スタ レク」という形態が定着している。

- ・千曲・坂城自立支援協議会さんさんネット主催「さんきゅーあーと展」に個別での出品、共同作品に参加
- ・北レクあおぞら企画 クリスマスコンサート（ZOOM）に参加
- ・サンスポートながのレク・体操教室に参加
- ・季節の行事「鏡開き」「節分」「お花見」等
- ・千曲川の堤防沿いや近隣地域を散歩、CoCo レストでの交流会を実施。
- ・スタ レクではコロナウイルスの感染防止対策をし、調理実習を実施。マレットゴルフ場、図書館、体育館などの公共施設も利用した。

月	日	曜日	内容	備考	利用者	他
4	26	水	カフェに行こう	喫茶チューリップ	8 名	3 名
6	6	火	マレットゴルフを楽しもう！	萬葉グラウンド	12 名	7 名
6	20	火	ポッチャ体験交流会	千曲市ふれあい福祉センター	8 名	2 名
9	27	水	図書館で読書の秋を満喫しよう	千曲市戸倉創造館	8 名	3 名
10	25	水	秋のプチ旅行にいてみよう！	姨捨駅・日本遺産センター・長楽寺	9 名	4 名
11	22	火	みんなでホットケーキを作ろう	スタジオ食堂	9 名	2 名
12	19	火	クリスマスお茶会	スタジオ食堂	8 名	5 名
1	24	水	さんきゅーアート展 & 足湯に行こう！	戸倉創造館 上山田温泉街足湯	6 名	3 名
2	21	火	お楽しみ外出	イオン上田、道の駅青木	5 名	4 名
3	19	火	坂城町のお雛様を見に行こう	坂木宿ふるさと歴史館	8 名	4 名

- ・スタ レクへの参加は自由選択とし参加をされない方は生産活動を行った。
- 5 類感染症に移行をしたが基礎疾患をもつ利用者やマスクを常時着用できない利用者がある等、懸念される状況もある。しばらくは感染防止のため「旅行」をはじめ通年実施している諸行事（クリスマス会など）は中止あるいは縮小する形で行い様子をみた。

14 CoCo 家族会ちくま

運営の補佐を行った。

- 総会 令和 5 年 6 月 24 日（土）クリーニング工房 CoCo 食堂
総会出席者 会員 10 名 職員 3 名
講演「感染症との共生」

講師 看護師・保健師 宮尾美砂 氏
 看護師・レスト課長 宮崎さほり 氏

- 家族レク 新型コロナウイルス感染症防止のため今年度はまだ様子見で実施なし
- 家族のつどい 令和 6 年 2 月 25 日（日） 長野ホテル犀北館（長野市）
 CoCo 家族会ながのと合同で、平成 31 年 2 月開催以来久しぶりの開催
- 役員会 年 2 回開催

15 地域への開放状況

千曲市及び周辺市町

- ・地域の常会への会費納入
- ・千曲・坂城地域自立支援協議会

生活部会 はたらく部会 こころ部会 さん・さんネット部会に所属

事業所運営との日程調整がつかず欠席のことが多い。

現場実習の受入れ

- ・稲荷山養護学校（本校） 基幹相談支援センター、ハローワーク等の関係支援機関からの体験実習や、A 型での就職をめざしての実習の受け入れを行った。
- ・実習、見学に際しては隣接する地域生活支援センター CoCo ちくま / CoCo ホーム三本木の紹介も行い希望に応じて見学を合わせて行っている。

16 職員研修について

- ・毎朝の打ち合わせ会、職員会議（全体で月 1 回）生産会議（月 1 回）支援会議（おおそ月 1 回）を行い、ヒヤリハットをはじめ日常の気づきを共有し、より良い生産活動、事業運営が行えるよう努めた。
- ・毎朝全員で「安全衛生手帳」の読み合わせを行い工場内における危機管理・安全管理と工場運営について学び、確認を行った。
- ・安全衛生委員会においてリネンサプライのみではなく、感染症、防災等多岐にわたる話題や課題について学び合い、毎月の安全衛生宣言に反映させ事業所内で労働および活動をする全ての人に周知を行った。
- ・障がい者虐待防止・権利擁護について学んだ。

主催・実施主体	内容	出席者
長野県	障がい者虐待防止・権利擁護研修	3 名
長野県知的障がい福祉協会関係	県代表者会	1 名
	北信支部代表者会	1 名
	2023 年関東地区知的障害関係施設種別代表者会議長野大会	1 名
	2023 年長野県知的障がい福祉大会	
	施設長研修	1 名
	なんでもおしゃべりカフェ拡大版	1 名
全国障害者雇用事業所協会 長野県支部	総会・研修会 「障がい者雇用はどうあるべきか - 福祉の向かうべき道 - 「認知機能障害（精神・発達）の方への支援のポイント」	2 名

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 長野支部	令和5年度障害者職業生活相談員資格認定講習	1名
千曲坂城自立支援協議会	・こころ部会・はたらく部会 ・BCP策定勉強会	2名
その他名	安全衛生推進者養成講習	1名

17 職員体制について

管理者 1名（工場長兼務） サービス管理責任者 1名
職業指導員 1名 生活支援員 1名 賃金向上達成指導員 1名
事務員 医師（嘱託） 看護師（非常勤）

就労移行支援

1 利用者の内訳

出身市町別 千曲市 1名
性 別 男性 1名
平均年齢 19歳(10代...1名)
障がい種別 療育手帳 B2...1名

2 作業訓練内容

事業運営日数 270日（基本的には木・日の週休2日制 他開所日は希望通所）
日 課 8:40～17:10 昼休み 50分 15時休み 20分
（基本的には本人希望と体調・体力等状況を見ながら、ご本人にとって無理のない状況で行っている。）

作業訓練内容 タオルのたたみ作業 タオル・ガウンの袋詰め作業
洗い場での洗濯機投入前補助作業
就職に向けて職場実習・求職活動を行う

状 況

・工場内で就職に向けて作業をした。

本人の障がい受容の難しさがある。「働く」とは「社会人」とは。体調管理のために服薬が重要であることや人間関係の構築の必要性等、基本的なことから伝えている。自立をしたいと強く希望するが就労も含め課題が多い。

3 利用者の通所方法

・徒歩 1名

4 通所状況

通所率

R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9
100%	100%	100%	100%	95.5%	95.5%

R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	平均
-------	-------	-------	------	------	------	----

77.3%	100%	87.5%	89.4%	90.0%	100%	94.4%
-------	------	-------	-------	-------	------	-------

- ・ほぼ毎日通所ができているが、精神的な安定を図るため10月には1週間の休みの申し出があった。単日で休むことが時折あった。身体的な不調よりは家族を含む対人関係でのトラブルで気持ちの整理がつかず精神的に引きずる場合に休む傾向がある。

5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
R5.4	12,600円	R5.10	10,200円
R5.5	13,800円	R5.11	12,600円
R5.6	12,600円	R5.12	17,600円
R5.7	18,200円	R6.1	12,000円
R5.8	12,600円	R6.2	13,500円
R5.9	12,600円	R6.3	28,900円
月額平均		14,767円	

6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労移行支援計画」を立てる。また3ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 健康管理

就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業及び生活介護事業と同様

8 安全衛生管理

就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業及び生活介護事業と同様

9 委託給食

希望者には給食を提供（1食280円令和5年1月からは300円に改定）

常時利用者 1名

昼食数 令和5年4月～令和6年3月 263日

合計 248食

他 就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業及び生活介護事業と同様

10 QOL活動・スタレクの実施状況

就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業及び生活介護事業と同様

11 CoCo家族会ちくま

就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業及び生活介護事業と同様

12 地域への開放状況

就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業及び生活介護事業と同様

令和5年度は養護学校からの就労アセスメントの要望が2件あり応じた。

13 職員研修について

就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業及び生活介護事業と同様

14 職員体制について

管理者 1名（工場長兼務） サービス管理責任者 1名

職業指導員 1名 生活支援員 1名 就労支援員 1名

事務員 医師（嘱託）看護師（非常勤）

支援員は一緒に作業を進め、一人ひとりにあった作業の見極めを行うことや、面談等利用者に寄り添う支援を行った。

就労継続支援B型

1 利用者の内訳

出身市町別 長野市 1 名 千曲市 6 名 坂城町 1 名

性 別 男性 4 名 女性 4 名

平均年齢 37.7 歳（23～60 歳/20 代...4 名 30 代...0 名 40 代...2 名 50 代...1 名
60 代...1 名）

障がい種別 知的障がい 療育手帳 B1...5 名 B2...2 名

精神障がい 精神障がい者保健福祉手帳 2 級...1 名

2 通所方法

（1）スタジオ CoCo の送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 6 名
（うち 2 名は路線バスと併用）マイクロバスを利用している。

（2）徒歩 2 名（うち 1 名は CoCo ホーム三本木より通所）
事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている。

3 作業訓練内容

事業運営日数 270 日（基本的には木・日の週休 2 日制 他開所日は希望通所）

日 課 8:40～17:10 昼休み 50 分 15 時休み 20 分

（精神面・体力面で継続しての作業が困難な方、既往症のある方等、体調管理や個別対応が必要な方が多い。相談をしてできるだけ本人の体力等に沿った日課を決めてご自分のペースで作業を行っている）

作業訓練内容 タオルたたみ ガウンたたみ作業 袋詰め作業 洗い場補助 他
状 況

- ・令和 4 年 11 月に入所をした男性利用者 名は最初の夏に「暑さが厳しい」との理由から 8 月で退所をした。入所から 9 カ月だった。
- ・男性利用者（50 代）1 名は入院等の病気治療をしながら通所のため年度の開所日数のうち 4 割程度の通所日数だった。
- ・作業能力には差がある。タオルたたみを中心に得意なこと、不得意なことを見極めながら個別に応じた作業内容で行っている。他人の行動が気になる利用者が多い。集中が持続せずよそ見をしたり、仕事に関わりのない話を頻繁にすることもある。品物の扱いが雑になる人や指示があるまで何もせず立ちすくんでいる状況もみられる。
- ・個々の体調に合せて、ご家族やご本人と話し合いながら、全体の休憩時間のほかにも休憩を設定する等して日課を作り作業を進めている。
- ・生活介護と就労移行支援の仲間と一緒に月 1 回のスタ レクを楽しみにして作業のモチベーションにしている利用者もいる。

4 通所状況

通所率

R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9
89.4%	86.6%	92.6%	87.4%	82.3%	85.8%

R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	平均
94.9%	96.4%	86.9%	89.4%	90.7%	93.5%	89.7%

- ・個々の精神面等から通所状況は大きく異なる。今年度は、年末年始の祝日を自由通所日とし他は木曜日もB型利用者の方は閉所日とした。
- ・コロナウイルスの罹患者は1名だった。通所率は良い。

5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
R5.4	22,025円	R5.10	25,089円
R5.5	25,822円	R5.11	24,627円
R5.6	23,769円	R5.12	37,816円
R5.7	35,325円	R6.1	25,043円
R5.8	21,333円	R6.2	21,971円
R5.9	22,819円	R6.3	45,014円
		月額平均	27,362円

6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労継続支援B型計画」を立てる。また6ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 健康管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

8 安全衛生管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

9 給食の提供

希望者には給食を提供（1食280円令和5年11月からは300円に改定）

常時利用者 5名

昼食数 令和5年4月～令和6年3月 264日

合計 1,416食

他 就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

10 QOL活動・スタレクの実施状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

11 CoCo家族会ちくま

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

12 地域への開放状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

13 職員研修について

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

14 職員体制について

管理者 1 名（工場長兼務） サービス管理責任者 1 名 職業指導員 1 名
生活支援員 1 名 目標工賃達成指導員 1 名 事務員 医師（嘱託）
看護師（非常勤）

生活介護事業

（主たる事業所スタジオ CoCo 従たる事業所 CoCo レスト）

1 利用者の内訳

出身市町別 千曲市 8 名 上田市 1 名 坂城町 1 名
性 別 男性 4 名 女性 6 名
平均年齢 37.5 歳
（22～67 歳/20 代 4 名 30 代 2 名 40 代 1 名 50 代 2 名 60 代 1 名）
障がい種別 知的障がい 療育手帳 A1...4 名 B1...4 名 B2...2 名
身体障がい 身体障がい者手帳 4 級...1 名（知的障がいと重複）

2 通所方法

- （1）スタジオ CoCo の送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 2 名
 - （2）家族の送迎 6 名
 - （3）公共交通機関 バス 1 名
 - （4）徒歩 1 名
- （グループホームからの通所 3 名）

3 日課

スタジオ CoCo/CoCo レスト 9：00～15：00
通所・朝会・ラジオ体操・気分調べ・生産活動（タオルたたみ・ウエス作り・カフェ清掃等）
QOL 活動（ウォーキング・創作活動等）

4 通所状況

スタジオ CoCo 通所率

R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9
98.9%	100%	100%	90.4%	73.1%	93.0%

R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	平均
91.6%	80.4%	83.2%	83.1%	80.0%	83.3%	88.1%

・週 5 回通所者 3 名、週 4 回通所者 1 名、週 3 回通所者 1 名（令和 6 年 2 月より週 1 回通所となる）

CoCo レスト通所率

R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9
62.7%	65.7%	64.8%	79.4%	75.0%	66.7%

R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	平均
81.0%	72.7%	71.7%	68.3%	65.0%	56.5%	69.1%

- ・おおよそ週5回通所者1名、週に4回通所者2名。他、3回程度となっている。
- 通院が頻回な利用者の通所日数は月によって異なる。

5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
R5.4	9,403円	R5.10	11,436円
R5.5	9,955円	R5.11	10,356円
R5.6	9,775円	R5.12	15,400円
R5.7	12,740円	R6.1	8,844円
R5.8	9,117円	R6.2	8,470円
R5.9	10,414円	R6.3	14,585円
		月額平均	10,872円

6 個別支援計画

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「生活介護計画」を立てる。また6ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 生産活動およびその他の活動状況

■スタジオ CoCo

○クリーニング作業

- ・タオル・ダスターのたたみ作業
- ・ガウン類のたたみ作業
- ・ウエス作り
- ・ピロケース作り
- ・商品の納品・配達業務補助

○その他

- ・食堂清掃（全体の清掃時間のほかに行う）
- ・昼食前のテーブル拭き、床の消毒
- ・事業所内のドアノブ等の消毒
- ・生活介護事業利用者の作業については作業室ときらきら棟にて実施。
作業室ではタオル・ダスターたたみとガウンのたたみ作業を主としている。丁寧できれいな製品作りをすることができる。また、仕上がり枚数も個々がスピードアップしており、より多くできるようになっている。
- また、これまで支援員が行っていた作業工程を支援者と共に挑戦し、ご本人ができる事を増やす取り組みを行っている。
- ・障がい特性や個性に応じタイマーや枚数を表示するカード、ボード、写真や支援カード等を活用している。
声掛けだけでは難しい場合には、工程および日課を視覚化し、日課を見える化し提示している。また、パーテーション等を使用しての構造化や、作業の効率化を図るため、集中できるように環境を整備及び調整を図っている。
- ・ウエスの販売については継続して受注のある企業に販売を行なった。

ウエス売上 1 kg 360 円

令和 5 年度売上 合計 55kg 21,600 円 (昨年比+5 kg 1,800 円増)

その他の活動 QOL 等

○主な内容

Q O L 活動 (散歩、体操、ダンス、園芸活動、創作活動など)

毎月スタ レク (室内活動、野外活動)

C o C o レストとのレクリエーション交流 (ボッチャ、しめ縄づくり)

ホクレク体操教室の参加 (Web)

千曲・坂城地域自立支援協議会主催 さんさんネット合同作品展への出品

- ・スタジオではタオルたたみやウエス作りの通常の作業に加え、園芸作業 (草取り、畑整備、石拾い、種まき、水やり、トマトの収穫など)、スタ レクでの新しい企画を充実。
今後も、利用者の希望も取りながら、楽しさと学びのあるレクリエーションを考えていきたい。また、コロナウイルスも五類に移行された中でも、今後感染対策等を継続していきながら様々な活動の機会を提供できるよう企画していく。

■CoCo レスト

●軽作業

・カフェ運営補助

店内掃除・消毒

カフェ注文表、カフェカードなど切り

手作りショッピング袋作り

環境整備：窓拭き、花苗の水くれ・手入れ、周囲のゴミ拾いなど

・自主製品をカフェ販売

手作りウッドピンチ、素鉢のリメイクし花苗、観葉植物をセットにして販売

<今年度より始めたこと>

- ・パンの配達開始 (11 月 ~) 市内介事業所 (1 カ所) に週 1 日パンの配達を行っている。

・イベントに出店

今年度より自立支援協議会全体会、千曲市社会福祉協議会福祉大会、千曲市精神障害者当事者会 (ひこばえの会) イベントに出店し販売経験をする。

●個人活動

天気の良い日は、できるだけ健康増進、ストレス解消を目的に散歩、ウォーキングに出かける。

その他に、動画鑑賞、音楽鑑賞、塗り絵、貼り絵、脳トレ、立体組み立てなど本人がやりたい、やってみたいと思う活動を提供。

●カフェの営業

- ・今年度カフェ来客数：1947 名 (カフェ利用客：992 名、パンのみ購入客：955 名)

カフェ売上額は前年度と比較して 2 倍増

- ・新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症移行後もお客様が安心してカフェを利用していただくために、感染予防対策を徹底し営業を続ける。また、お客様のニーズや季節に合わせ

て営業時間の変更、新メニューを提供、キャンペーンなどを実施しながら集客を増やす工夫をした。

- ・営業時間以外の時間帯にカフェ（もしくはフリースペース）をドリンク付きで関係機関や地域の方々に予約貸し出しをしている。

不定期ではあるが千曲社協上山田支部会議、市内サークル団体など
いなりやま福祉会生活介護事業所（はなたば）6日間で43名利用
千曲市認知症カフェ（オレンジカフェ「ちくま」）を定期開催場所として提供

○カフェ営業日

月・火・水曜日	9:30～11:00	（R6.4/1からは11:00～13:30）	カフェ営業のみ
木・金曜日	11:00～15:00	Bakery CoCo cafe	のパンを販売とカフェ営業

<活動状況>

- ・新型コロナウイルスの流行が落ち着いたところから、図書館や漫画館、市内他事業所の喫茶やイベントに外出する機会を増やした。その他に親子レクを企画し、他事業所見学＆ランチ、さんさんネット部会が開催したさんきゅ～あーと展鑑賞に出かけた。また、季節行事としてしめ縄作り、おもちつき大会、「梅切らぬバカ」DVD鑑賞などを通して楽しみながら親睦を図った。今後も余暇活動を通して楽しみや生活の質を高められるような企画をしていきたい。

- ・イベント等の出店やパンの配達など事業所外の活動の場を広げ新しいことを経験する機会をつくった。商品の搬入、お客様への挨拶、商品の受け渡し、お金のやりとりなど個々にできることを利用者に担当してもらった。最後までいられて少しでも経験できたことは評価したい。

パンの配達は週1日であるが利用者交代制で実施。パンの配達日は利用者も意識するようになり定着してきている。また、配達先よりパンが届くのを楽しみにしていると喜ばれている。

今後もチャンスがあれば出店、パンの配達などを通して、利用者が体験、経験できることを考えていきたい。

- ・5月より千曲市社会福祉協議会と連携して障がい者スポーツとして「ボッチャ交流会」をCoCoレストが中心となり毎月開催している。年齢、障がい等に関係なく一緒に楽しめる競技のため、当事業所利用者以外にスタジオCoCo、家族、地域のボランティア、長野大学学生にもボランティアとして参加していただき、試合形式で交流しながら楽しんでいる。

令和10年全国障がい者スポーツ大会ボッチャ競技が、千曲市ことぶきアリーナで開催予定である。今後もボッチャを通して、体を動かすことで気分転換、ストレス解消しながら、交流の機会・場として継続していきたい。

8 健康管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様

9 安全衛生管理

防災訓練

■スタジオCoCo

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様

■ CoCo レスト

通報連絡訓練・避難誘導訓練・消火訓練を2回実施。

万が一の事態に落ち着いて対応できるように、2回のうち1回は千曲坂城消防消防本部消防士立ち会いをお願いし相談、指導を受けている。

実施日：1回目 令和5年7月18日（火）

2回目 令和5年11月28日（火）

- ・拡声器を用いてサイレンを鳴らす為、事前に近隣宅へ訓練のお知らせをチラシの配布で周知してから実施をした。
- ・事前学習として、利用者・職員は、普段から気を付けること、避難方法や消火方法等について動画を観ながら学んだ。

10 委託給食

希望者には給食を提供（1食280円令和5年1月からは300円に改定）

常時利用者 10名

昼食数 令和4年4月～令和5年3月 254日

合計1,961食

* CoCo レストの給食提供

キッチン CoCo よりおかずはお弁当、みそ汁付き、白米は炊飯器で配達してもらい希望者に提供している。

他 就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様

11 QOL活動・スタ レク・レスト♥レクの実施状況

- ・スタジオは就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様
- ・レストでもトールペイント教室、お楽しみ外出、足湯、「アイスを食べに行こう」、ハンドマッサージ、図書館、ひこばえの会との交流会、体操教室、オレンジカフェとの交流会、映画鑑賞会、お菓子作り、折り紙教室などを行っている。

12 CoCo 家族会ちくま

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様

13 地域への開放状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様

14 職員研修について

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様

15 職員体制について

管理者1名（工場長兼務） サービス管理責任者1名 生活支援員6名

医師（嘱託） 看護師2名（1名常勤・1名非常勤） 事務員

心身障害児（者）タイムケア事業

心身障害児（者）が家庭において介護を受けることができず、一時的に介護を必要とする場合、依頼に応じて介護を行う。

利用者の心身機能、生活、人生を尊重した上で、利用者と家族の意向に基づき、そのおかれている環境に十分に配慮しながら、安心して自立した地域生活が営むことが出来るように支援している。

<登録者数

15 名 （新規 2 名・中止 1 名） 中止理由：退所

<利用実績>

	利用者数 (人)	延利用者数 (人)	総利用者時間数 (時間)
令和 5 年 4 月	7	27	38.5
5 月	4	33	40.5
6 月	5	25	48.0
7 月	5	11	26.0
8 月	5	12	17.0
9 月	3	14	19.0
10 月	3	9	28.0
11 月	5	11	13.0
12 月	4	10	15.0
令和 6 月 1 月	2	2	4.5
2 月	3	5	9.5
3 月	2	4	10.0
合 計	48	163	269

障害者等日中一時支援サービス事業

地域で生活する障がい者の自立した日常生活、社会生活をこの地域において営むことを目指し社会生活を実現するための相談や支援を行う。そして、その方の居場所として、自由な憩いの場として、創作活動及び余暇活動支援等の実施を通じ、社会との交流の機会を促し、利用者の要望に添った活動、自主性が確保されるサービスを提供する。また、利用者個人の尊厳の保持に努めこの地域における地域福祉の増進を図っていく。

< 登録者数 >

17 名（新 3 名・中止 4 名）

中止理由：転居、サービス変更

< 利用実績 >

	利用者数 (人)	延利用者数 (人)	総利用者時間数 (時間)
令和 5 年 4 月	11	51	134.5
5 月	12	45	117.0
6 月	14	56	151.5
7 月	13	56	138.5
8 月	11	50	120.5
9 月	12	60	133.0
10 月	13	63	154.0
11 月	13	65	168.0
12 月	10	48	99.0
令和 6 年 1 月	11	53	100.0
2 月	14	43	149.5
3 月	14	64	151.5
合 計	148	654	1617

< 日中一時・タイムケア利用者の電話対応及び相談件数 >

年度	件数
令和 4 年度	430
令和 5 年度	343

< 登録者以外の相談（電話・面談）件数 >

年度	件数
令和 4 年度	62
令和 5 年度	113

○ 実態状況

- ・登録者は全員精神障がい者である。平均年齢：44.2 歳

精神障がい者が地域の中で安心して暮らせるためには、居場所と心のよりどころが必要であ

ることはいうまでもない。CoCo レストでは、本人の特性とニーズに応じた個別対応と小集団による活動を提供することで定着率が高くなっている。しかし、年々、支援に多様性が求められ、生活のしずらさの相談のほかに、疾患を正しく理解してもらう段階の利用者もあり専門的な支援が必要とされる。

- ・登録利用者以外の電話相談件数が昨年度に比べ約2倍に増加。

当事者のほかに、件数は少ないがカフェに来られた家族や地域住人からの相談もあり、CoCo レストが相談窓口の機能も果たしていると言える。

相談内容は、自分の話を聞いてもらいたいということもあったが、日ごろの悩みや精神面を含めて身体面についての相談が多かった。

また、どこにも相談していないケースもあった。行政や千曲・坂城障がい者（児）相談支援センターなど関係機関に情報提供し調整するようなケースがあり、その都度柔軟に対応した。

- ・趣味の拡大や「できた」という成功体験を得ることで自信につなげるため、利用者が選べる活動を増やしてきた。脳トレ、卓球、麻雀、塗り絵、調理、おやつ作りなどのほかに、雑談会、クラフト教室、ビーズ・おりがみ教室、韓国家庭料理教室等に関しては、地域ボランティアが講師となっていていただき毎月開催し定着している。

今後も地域ボランティアの協力を得ながら活動の幅や交流の機会を増やしていきたい。

- ・今年度から、千曲市に精神障がい者の当事者会（ひこばえの会）が発足した。

レストに登録している利用者は精神障がい者であること、ひこばえの会に参加している利用者がいることから、千曲・坂城障がい者（児）基幹相談支援センターと連携し、CoCo レストはひこばえの会の活動の拠点となり活動を応援している。今後も継続していきたい。

- ・令和6年度4月より千曲市の委託事業として地域活動支援センターを開所することが決定している。それに伴い、今年度で日中一時・タイムケア事業は廃止となる。

地域活動支援センターになっても、CoCo レストが地域で暮らす当事者の居場所、心のよりどころになり、当事者が主体的に活動できるような活動を提供し必要とされる地域活動支援センターの運営を目指していきたい。

アートカフェ CoCo

障がいのある人たちの表現活動を行う場として、7年を終えることができました。当法人がこれまで実践してきた障がいのある人が地域の中で望むスタイルで自分らしく生活をおくことを支えてきた活動を、須坂市(須高地域)において行っております。障がいのある人の多様な生き方に貢献するために、求められている必要となる資源を整えて、質の高いサービスを提供することで障がいのある人及び家族の望みをかなえることができるように更に一層と応えていくための所存を冷ますことなく持ち続けています。

アートカフェ CoCoに通ってくる障がいのある利用者たちは、自分の考えや想いを上手く言葉にして表すことが苦手だったり、言葉を扱うことが全くできなかつたりとする方が多いです。最近では、自閉症スペクトラムによる独特の特性をもつ人たちの利用が増え始めています。いわゆる行動障害という自傷・他傷・他害等の行為があり、生きづらさを抱えている人たちもいます。こちら側の支援者側もその生きづらさに向き合い、適切な支援の提供により、解消及び改善を目指しています。自らの存在や価値を肯定して、自分を労り、自らの望む生活をおくっていてもらいたいと心より願って、日々の関わりを行っています。彼ら彼女たちの意思や想いは社会の中では見逃されやすいですが、私たちは日々彼ら彼女たちに真摯に向き合って、声なき声や思いを丁寧に探り、感じ取ることに努めています。

利用者たちは、自らが好きである表現活動を通して日自分らしく表現しています。個性的な色気をたっぷりと感じられる素敵な作品もたくさん生まれています。

令和4年度に開設したアートギャラリーを拠点にして、社会とつながっていく展開をし始めております。NLSグループコーポレーションに協力をいただいて、作品のレンタル事業を行っております。NLSグループコーポレーションのお力添えいただいたおかげで、レンタルしていただける顧客もおります。そして、作品展として、作品展「感覚をノックする展」を2回開催しました。そしてまた、カレンダー・クリアファイル・缶バッジ・はがきなど、利用者の作品をデザインとして使用して製作を行い、この作品展にて販売を行いました。販売方法等などの課題が残り、今後この課題の解決にあたっていきたいです。以上のような取り組みを通して、利用者の方たちに工賃を提供することができました。

また、このような機会は利用者にとって自信や意欲を一層と持てることにつながりましたし、スタッフにとっても、より多くの人たちに当事業所の運営や活動をより広く知ってもらい、より理解を深めてもらえることになったので、自らの普段の取り組みを振り返るよい機会になったと思います。利用者及びスタッフ共に、今後の運営や活動に、更なる望みをより一層と抱けることができましたので、素晴らしい場であり取り組みであったと思います。今後もこのような取り組みを続けたいです。

カフェの運営は、スタッフ体制の確保やカフェのスペースが利用者の活動等の場として利用しており、休止しております。

また、障がいのある人たちの表現活動を行う場と併設する形で同時にフリースペース事業を行っており、不登校や引きこもりの状態にいる人たちの居場所づくりを行っています。自らのこと

を肯定できなかったり自信を持てなかったりする人たちが当事業所にて行っている活動（表現活動や社会体験活動等）に個々で自らに合った形で参加して取り組むことで、安心して活動できる居場所として過ごすことができる、社会や地域の中で自分らしく活躍していくことを成し遂げることができる、そのようなフリースペースの運営を目指しています。

令和３年度に購入した隣接地の土地は現在は駐車場等に利用しておりますが、いずれは行動面で課題のある障がいのある人の活動等の場所として、建物を建てて利用してまいりたいと思います。

令和５年度は、年度当初に新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことにより、以前のようない動きに帰ってきました。この期間に、感染症対策の重要性を認識しましたが、この期間に学んだことを継続して今後に対応していきたいと思います。

今後の事業所運営において、まだまだ向き合わなければならない課題が多くありますが、積極的に誠実に謙虚に対応していきたいと思います。

生活介護事業

（利用者の推移）

定員 20 名	令和 5 年度末在籍者数 20 名	（令和 4 年度末 在籍者数 19 名）
令和 5 年 4 月	1 名入所 (すざか分教室より)	・・・ 在籍者数 20 名
7 月	1 名退所（他市へ引っ越し）	
	1 名入所（他事業所より）	在籍者数 20 名

1 利用者の内訳

（６）利用者総数 21 名

（７）出身(支給決定)市町村別 長野市 11 名 須坂市 9 名 小布施町 1 名

（８）性別 男 13 名 女 8 名（総数）

（９）年齢 30.8 歳(令和 5 年度末)

（１０）障がい種別 知的障がい者 21 名

身体障がい者 2 名

発達障がい者 7 名 重複者数名あり

（６）障害支援程度区分 <3>2 名 <4>5 名 <5>8 名 <6>4 名

2 通所方法

（６）徒歩または自転車 0 名

（７）バイクまたは車（本人運転による） 0 名

（８）公共交通機関利用 3 名

（９）事業所送迎 14 名

（１０）家族または他事業所等による送迎 15 名

（ア）重複者あり

3 日課について

9：30 ～ 10：00 まで	着替え 朝会 ラジオ体操等
10：00 ～ 12：00 まで	午前の活動

12:00 ~ 13:00まで	昼食 休憩
13:00 ~ 15:00まで	午後の活動
15:00 ~ 15:30まで	掃除 おやつ 着替え 帰りの会等

- ・利用者の事情または活動内容等によっては、このとおりの日課ではない。
- ・8時30分～9時30分及び15時30分～17時の間もタイムケア事業で利用して方もいる。
- ・土または日曜日は活動内容によって様々に設定した。

4 通所状況

通所実態（月平均利用者数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
9	9	10	9	9	10

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
9	9	9	9	9	8	9.1%

5 個別支援計画

本人や家族との面談や、関わりのある関係者等を含めた会議を開くなどして、本人のそれまでの歩みや、好きなことや得意なこと、苦手なこと、行動面や日常生活上の行為等で配慮すること等々に関して、情報収集や確認を行い、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成した。

何よりもまずは、本人中心というスタンスを重視して、願いやニーズ等を把握するように努めた。言葉にして相手に自分の意見や考えを伝えることが難しい利用者が多いので、日常の行動等を観察して分析したり、家族等の周りの関係者等からのアドバイス等をもらったりして、本人の意思や思いを探り、個別支援計画に反映した。当事業所外での、生活の場面などの困り感や希望があった時には、他の機関と連絡をとって情報を共有して、そのうえで当事業所として担うべき課題に関しては、個別支援計画の目標として取り入れ対応にあたった。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行った。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的また必要に応じて面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたい。

6 活動について

【表現活動(絵画、造形、書道等の創作的活動他)等】

(1) 表現活動(絵画、造形、書道等の創作的活動他)

日々の日課の中で、活動内容に関しては、基本的に利用者個々が気に入っている活動に個別に取り組んだ。絵を描いたり、書道を行ったり、ウォーキングをしたり、音楽を聴いたり歌ったり、ペーパーで工作をしたり、話をしたり等々。毎週月・木曜日にはプロの講師の方である関孝之氏および佐々木良太氏に来ていただいてアートワークショップを行った。プロの講師の方によるワークショップはより深みのある活動を行うことができ、より興味を持ち楽しんで活動に参加することができた。

(2) 作品展の開催及びグッズの製作販売

冒頭で述べたとおり、利用者の人たちが製作している作品の展示会の開催を、そして作品を使用してグッズの製作販売を行った。令和4年度においては、1回の作品展を実施した。

(3) その他

県内外で開催されたアート展に参加して、美術館等での作品の展示や作者紹介の機会をいただくこともできた。令和４年度においては、「日本財団 DIVERSITY IN ARTS 公募展」に応募したりもした。

7 QOL 活動について

QOL 活動については日々の活動の中で取り入れ、実施した。季節ごとの行事を企画して行い楽しんだ。新型コロナウイルスの感染症への対策もあり、例年通りの内容を実施することはできなかった。

8 保健衛生について

(1) 健康相談について

- ・日時 : 毎月 第 3 金曜日午後 13:30 ~ 15:30
- ・実施者 : 斎藤恵子看護師
- ・実施内容 : 体重測定、血圧測定、検温、健康相談
- ・相談者数 : 毎回 9 名程度

○血圧測定

- ・去年よりエラーが出てしまう利用者さんがかなり減り、しっかり測ることができてきている。
 - ・血圧が高めの方が数名おり、いずれも定期通院しかかりつけ医に相談しながら生活している。
- 他にも突発的に高い血圧の出る利用者がいるが、前後の出来事を踏まえつつ家庭と連絡を取って様子を見ている。

○体重測定

- ・落ち着いて測ることができている。
- ・体重計に乗って結果が出るまでの間じっと出来ない利用者もいたが、時間をずらして再度乗ってもらいしっかり測ることができた。
- ・全体的に体重が増えている利用者が多い。

	令和 4 年 2 月	令和 5 年 2 月	令和 6 年 2 月
4 0 k g 台	1 名	2 名	1 名
6 0 k g 台	5 名	2 名	1 名
7 0 k g 台	2 名	3 名	2 名
8 0 k g 台	2 名	1 名	1 名
9 0 k g 台	0 名	1 名	1 名

○相談内容

- ・今日あった出来事など
- ・生活の中で困っていること、心配なこと
- ・体重や血圧数値について

(2) 健康診断について

- ・日時 令和 5 年 6 月 1 5 日 (木) 1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0 (女性中心)
6 月 2 9 日 (木) 1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0 (男性中心)

○実施にあたっての配慮

- ・聴覚過敏や場所見知りなど個別対応が必要な利用者さんのため、事前に情報を伝え個別対応をしながら各検査を受けることができた。
- ・絵カード、写真等を使いながら、どこでどんな順番で検査を受ける等の事前説明を丁寧に行ったが、アトリエ CoCo につくとパニックを起こしてしまう利用者さんがいたため、より細かく伝える必要があった。
- ・当日、健康診断は受けずにアートカフェに残る利用者さんもいたため、スタッフや利用者さんの動きがわかるタイムスケジュールを用意し、一日の見通しを持てるようにした。
- ・6月15日、6月29日とも同じ木曜日だったため、利用者さんには当日の活動や昼食の時間変更にご協力をいただいた。

○結果について

- ＜体重測定＞
 - ・しっかり測ることができた。
 - ・全体的に増えている。
- ＜視力検査＞
 - ・事前に練習していったメンバーさんもいたが、当日の検査内容が難しかったため判定不能になってしまうメンバーさんが多かった。

（３）インフルエンザワクチンについて

日時及び人数 令和5年11月7日（火）：利用者5名、スタッフ5名

場所 アトリエ CoCo

実施にあたっての配慮

- ・不安やパニックにならないよう行く利用者の方にはご飯の時間、どこに行って何をするのか、出発の時間や到着の時間、帰る時間などイラストのカードや文に起こしながら事前に説明を行った。

（４）新型コロナウイルス対策

- ・手洗いうがい、マスク着用、距離の確保のお願い
- ・体調チェック
- ・館内、床、車両の消毒
- ・加湿器の設置
- ・対面にならない食事の席の配置
- ・アクリル板の設置

（５）救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止め並びに体温計を整えている。自傷行為があったり、肌が荒れやすい体質等のため、手指等に傷ができやすい利用者が数名いて、絆創膏が使われることが多かった。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もあった。

（６）服薬支援について

服薬支援を行っている利用者は4名である。管理を行っており、行為は自身でできる。

（７）個別の健康情報について

自身の体調不良等の訴えを行えない利用者が多いので、日常的に利用者の様子をしっかりと観察することで体調を把握している。また休むときも電話や訪問等を行って連絡を取り、状態の確認等を行っている。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも利

利用者個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっている。

(8) 清掃、整理整頓等について

清掃については、利用者によってそれぞれができる箇所を行っている。清掃を行っていない利用者もいる。従って、利用者が来所する前の朝に、週一回職員が一斉に清掃を行う日を設けている。整理整頓にも心掛け、5S が保たれた事業所を維持できるように努めている。

9 給食について

- ・給食を楽しみに通所する利用者が多い。楽しい時間でもあった。
- ・キッチン CoCo より弁当を提供してもらっており、栄養士に作成したメニューで提供されており、適切であったと思われる。
- ・日頃よりキッチン CoCo とは給食に関する情報交換及び共有を行い、課題検討を行った。また、嗜好調査も行い好き嫌いやアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をした。アレルギーによる配慮は行い、弁当の変更をお願いすることもあった。
- ・体重など考慮して、職員が調節してごはんを盛ったり、また、調味料もかけすぎないように職員が行うなどして、健康面での配慮を行った。

10 旅行について

家族会と共催して、2 回に分けて、日帰り旅行を実施した

(1) 実施内容等

第 1 回目

(ア) 実施年月日

令和 5 年 9 月 1 日 (金)

(イ) 参加人数

計 2 名 (利用者 1 名、家族 1 名)

(ウ) 旅行会社

東部トップツアーズ (株)

(エ) 行先他

『白樺リゾートの旅』

・見学場所

白樺リゾート池の平ファミリーランド

(オ) その他

アトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催した。

第 2 回目

(ア) 実施年月日

令和 5 年 9 月 8 日 (金)

(イ) 参加人数

計 3 名 (利用者 2 名、職員 1 名)

(ウ) 旅行会社

東部トップツアーズ (株)

(エ) 行先他

『のんびり日本海の旅』

・見学場所

道の駅マリンドーム能生 上越市立水族博物館「うみがたり」

(オ)その他

アトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催した。

評価及び課題

9 月の上旬の 2 週にわたって 2 グループに分けてアトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催して実施しました。利用者総数に対して参加者はかなり少なかった。参加された方はのんびりとゆっくりとできて存分に満喫できたようであり、また事業所内外の人たちの交流を楽しめたようである。

集団での行動を苦手とする方たちが多いので、数名の少人数での企画を希望する声がある。

11 防災訓練について

(1) 防災訓練

第 1 回目

- ・実施日：令和 5 年 9 月 21 日(木) 13 時 15 分～13 時 45 分
- ・参加者：利用者 12 名 職員 10 名 計 22 名
- ・内容：避難訓練。事業所内の食堂キッチンの IH の不具合により、火災が発生したと想定して避難訓練を行った。
- ・課題及び反省点：

前回までの経験を参考に、職員と利用者双方を対象として、「通報・消火・避難訓練実施マニュアル」にのっとり一連の動きを確認した。今回は建物内部北側に位置する食堂配膳室の IH の不具合による出火という事態を想定して、発見、通報、初期消火、避難（誘導）における、それぞれの対処方法等を順番どおりに 1 つ 1 つ確認した。火災感知警報機による感知(サイレンが鳴った)から避難完了までの時間は、2 分 25 秒で前回より 45 秒ほど短縮できた。参加者全員の協力により大きな混乱もなく、無事に訓練を終了する事ができた。口頭での説明で理解が難しい利用者さんにはイラストを使用し視覚的に説明する事で一定の理解が得られたと思われる。

実際の避難時にも考えられる事なので、今後も職員会議等で検討していきたい。

以上、今回の経験をもとにそれぞれの状況に合わせた相応な判断と行動及び誘導ができることを目指して、状況に合わせた訓練を次回以降も続けていきたい。

第 2 回目

- ・実施日：令和 5 年 3 月 21 日(木) 13 時 15 分～13 時 45 分
- ・参加者：利用者 9 名 職員 12 名 計 21 名
- ・内容：避難訓練。事業所内の食堂キッチン内の IH の不具合により、火災が発生したと想定して避難訓練を行った。
- ・課題及び反省点：

前回までの経験を参考に、職員と利用者双方を対象として、「通報・消火・避難訓練実施マニュアル」にのっとり一連の動きを確認した。今回は建物内部北側に位置する食堂配膳室の IH の不具合による出火という事態を想定して、発見、通報、初期消火、避難（誘導）、安全確認等

における、それぞれの対処方法等を順番どおりに1つ1つ確認した。火災感知警報機による感知(サイレンが鳴る)から避難完了までの時間は、2分30秒で前回より5秒ほど遅くなった。参加者全員の協力により大きな混乱もなく、無事に訓練を終了する事ができた。ただし、事前の担当役割業務の確認不足により、連携がとれなかった場面もあり、避難にもたついた箇所もあり、それが前回に比べて1分長くなった理由である。避難訓練の実施について、口頭での説明で理解が難しい利用者さんにはイラストを使用し視覚的に説明する事で一定の理解が得られたと思われる。実際の避難時にも考えられる事なので、今後も職員会議等で検討していきたい。

以上、今回の経験をもとにそれぞれの状況に合わせた相応な判断と行動及び誘導ができることを目指して、状況に合わせた訓練を次回以降も続けていきたい。

(2)消防設備点検

総合点検として年に2回(令和3年5月及び11月)に業者に委託して実施した。

(3)その他

- ・自衛消防団の編成及び調整。職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置。

12 地域との協働について

- ・見学や研修を受け入れた。
(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、他事業所利用者等)
- ・ボランティアの受け入れを行った。
- ・地域の諸団体等との連携を行い、様々な地域ネットワーク等に積極的に参加した(須高地域自立支援協議会等)

13 職員研修について

- ・個別支援に関するサービス担当者会議等の支援会議、利用者支援に関する知識及び技術の獲得及び向上等の研修、職員会議、表現活動等に関する研修等を定期的実施して、支援や活動等に関する知識及び技術の向上や研鑽等に努めた。
- ・虐待防止研修、強度行動障害研修等の外部の機関が行う研修に積極的に参加し、知識や技術の向上に努めた。

14 職員体制について

所長兼サービス管理責任者	1名
生活支援員	7名
ギャラリースタッフ	1名
アートディレクター	2名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

フリースペース事業

事業及び活動等の内容・課題・評価等について

普段より、障害福祉サービス事業生活事業を運営しており、障害のある人のエンパワーメントを最大限引き出し活かした活動(表現活動(アート活動等))を行っております。その自由であた

たかな空間として、不登校やひきこもりの子どもや大人たちが自分らしく過ごすことのできる癒しの場として利用していただくことを目指しております。

個別にゆったりとのんびりと自分の思うように時間を過ごしたり、スタッフや利用する仲間たちとの会話を楽しんだり、相談をしたり、そしてアート関係の表現活動や調理実習等の社会体験活動等の、自らが楽しめて取り組むことのできる活動に参加したりして、居心地のよい安心できる居場所として、そして他者及び地域や社会とつながりを得ることで、自分らしく生きていくことのできるきっかけやパワーの源を得ることのできる場として、今後において運営を目指していきたいと思います。

1 活動内容等について

(1)アート関係の表現活動について

年間をとおして、毎週月・木曜日に外部講師である関孝之氏及び佐々木良太氏に来ていただいて、生活介護事業の障がいのある利用者を対象としてアートワークショップを行っている。絵を描いたり、書を書いたりして、好きな表現活動を行うことで楽しく時間を過ごし、自らのことを表現していくことの面白さを味わうことのできる場面であるが、フリースペースの利用者も気軽に参加してもらいたいと思っています。

CoCo 金沢

開所から半年、CoCo 金沢は「無理なく、楽しく、長く働く」をモットーに進んできました。春には特別支援学校卒業生4名が加わり、令和5年度は就労継続支援A型は利用者10名での船出となりました。その後、秋に2名の退所がありましたが、新たに1名が加わり令和5年度3月現在9名の利用者が就労継続支援A型の労働者として働いています。また、就労継続支援B型も1月に1名、3月に1名の利用者が加わりました。現在は2名の方が作業に取り組んでいます。1名は今後の就労継続支援A型への移行を目指し、もう1名は「身体障害がある自分でも、少しでも世の中のためになりたい」という想いで頑張っています。

CoCo 金沢は日本海リネンサプライ（株）への施設外就労という形をとっています。コロナが第5類相当となり、観光地・金沢は、5月以降、夏・秋・冬と観光客の足も大きく減少することなく、仕事量も十分な量がありました。しかし、元日に発生した能登半島地震を境に観光客は急激に減少。1月は仕事が早く終わる時期が2週間ほどありました。それでも2月には持ち直し、3月16日からの北陸新幹線敦賀延伸の効果もあり、今は観光客もすっかり戻り、忙しい日々を過ごしております。利用者の皆さんの中には今回の地震で被災した方もいましたが、誰一人かけることなく日々一生懸命、自分に与えられた作業を真剣に取り組んでいます。その成果もあり、今では日本海リネンサプライ（株）の皆さんからも貴重な戦力として、共に働くひとりの仲間として認めて頂いております。利用者の皆さんもひとりの社会人として、「遊ぶときは遊ぶ。働くときは働く。」と逞しく成長し始めています。

行事については、月に1回は「ほっとする時間、楽しい時間を」という想いから、季節の行事や金沢独自の行事、誕生会等を積極的に取り入れ親睦を深めています。七夕には短冊を日本海リネンサプライ（株）の従業員の皆さんにも書いてもらい笹に飾りました。ハロウィンやクリスマスには従業員さんも巻き込んでお化けやサンタのカチューシャを作業帽につけて作業をしてもらったりもしました。1月の書初めは残念ながら能登半島地震の影響で今回は中止となりましたが、今後も CoCo 金沢の利用者さんだけでなく、日本海リネンサプライ（株）の従業員さんも一緒になって親睦を深めていきたいと考えております。尚、2月には念願の日帰り旅行を実施し、ユニバーサルスタジオジャパンに行きました。職場とは違う利用者の皆さんの姿も見られ、とても楽しい時間となりました。

次年度は新たに2名が就労継続支援A型の仲間に加わります。「無理なく、楽しく、長く働く」をモットーに、各々が楽しく豊かな人生を送れるように、CoCo 金沢がその一端を担えるような事業所となるように、支援員一同、頑張っていきたいと考えています。

最後に、次年度は CoCo 金沢のストレングスである「B型 A型 一般雇用」という流れを実績として残したいと考えています。CoCo 金沢の就労継続支援A型は開所から1年半経った今も多くニーズがあります。しかし、この夏までには所属利用者が12名となる予定です。そのため、就労継続支援A型を卒業して一般雇用に移行する流れ、就労継続支援B型を卒業して就労継続支援A型に移行する流れを確立することが急務となります。計画的にかつ利用者やご家族と相談し

ながら、利用者の人生設計の手助けになっていきたいと考えています。

一日一日が勉強の毎日で苦労も絶えませんが、仕事を終えて戻ってくる利用者さんとの何気ない会話や笑顔が支援員の癒しとなっています。「CoCo 金沢が今までの職場で一番楽しい!」「CoCo 金沢でなければ休まないで働くなんてできなかったと思います。」そんな言葉も利用者さんから聞かれます。令和 6 年度も新たな素敵な出会いを求めて、CoCo 金沢は前だけを向いて進んでいく次第です。

就労継続支援 A 型

1 事業の開始と利用者の推移

令和 4 年	8 月	1 日	多機能型障がい福祉サービス事業所 CoCo 金沢開所
		4 日	利用者 4 名入所
	9 月	1 日	利用者 2 名入所
	11 月	1 日	利用者 1 名入所
		30 日	利用者 2 名退所（業務内容が本人と合わなかったため）
	12 月	12 日	利用者 1 名入所
令和 5 年	4 月	1 日	利用者 4 名入所
	9 月	9 日	利用者 1 名入所
		9 月 30 日	利用者 1 名退所（業務内容が本人と合わなかったため）
	11 月	15 日	利用者 1 名退所（家族の都合）
			総在籍者数 9 名（令和 6 年 3 月末）

2 利用者の内訳

- 出身市町村 金沢市 9 名
- 性別 女性 4 名 男性 5 名
- 年齢（平均年齢... 32.4 歳）
10 代... 2 名 20 代... 3 名 30 代... 2 名 40 代... 0 名 50 代... 2 名
- 障害種別
知的... 5 名（内療育手帳 B... 4 名 不所持 1 名）
精神... 4 名（内精神手帳 2 級... 3 名 3 級... 1 名）
身体... 1 名（内身体手帳 1 級・心臓機能障害（療育手帳 B も兼ねる）... 1 名）
- 通所方法
自家用車等... 2 名 自転車... 3 名
送迎... 4 名（内金沢駅まで北鉄バス利用 2 名、最寄りのランドマーク（金沢駅含む）まで徒歩 2 名）
利用者個人の状況に応じて、手厚い送迎を行っている。

3 勤務体制

- 始業時刻... 8 時 30 分 終業時刻... 17 時
休憩時間... 12 時～12 時 50 分 15 時～15 時 10 分
- ・日曜日が固定の公休。もう 1 日は利用者の希望の曜日に振り分けている。
 - ・希望者は 30 分～1 時間の勤務時間延長を行っている。

上記勤務を目標に、一人ひとりの状態に合わせた短時間勤務や時差出勤希望の受け入れをした。

4 通所状況

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
97.53%	98.69%	98.62%	94.42%	95.12%	95.23%	92.56%

11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年平均
89.79%	92.91%	91.84%	90.29%	93.36%	94.20%

勤務実態（出勤率）

・10 月、11 月は家族都合で退所した利用者が 1 週間欠勤したり、有休消化を行ったため一時的に出勤率が下がった。

・在籍 9 名中 8 名は 99%～95% 程度の出勤率を維持しているが、1 名のみ 70% 前後の出勤率となっており全体の平均は下がっている。その 1 名は現在も勤務時間は 8 時 30 分～15 時と短縮時間である。

5 利用者の作業内容

全員、日本海リネンサプライ株式会社への施設外就労（ホテルリネンサプライ・クリーニング業）を行った。

洗い場...1 名 タオル... 3 名（年度中途退所者 1 名含む）

シーツ・枕カバー... 6 名（年度中途退所者 1 名含む） 包布・浴衣...1 名

6 利用者の給与

給与は最低賃金を確保するように努力しているが、労働形態に合わせて労働基準監督署の承認を得て、最低賃金減額特例を受けている方が 4 名いる。通勤費は全額支給、有給休暇（時間単位）付与、社会保険・労働保険全員加入。

○年収の状況

～ 600,000 円	2 名（年度中途退所者含む）
600,001 円～1,000,000 円	1 名（年度中途退所者含む）
1,000,001 円～1,300,000 円	3 名
1,300,001 円～1,600,000 円	1 名
1,600,001 円～1,700,001 円	0 名
1,700,001 円～1,800,000 円	1 名
1,800,001 円～1,900,001 円	3 名

平均年収 1,281,057 円

月額平均 121,514 円

7 個別支援計画

プロフィールアンケートを事前に記入してもらい、フェイスシート、アセスメントシート等を個人ごとに作成。本人、家族、担当職員等との個別面談を行い「就労継続 A 型支援計画（案）」

を作成。本人及び家族に確認後に、「就労継続 A 型支援計画」として、その計画に沿って日々の支援を行っている。また、6 か月ごとのモニタリングを実施し、アセスメント、支援計画の見直しも行っている。

職員会議にてケース検討を行い、計画に反映している。

8 利用者のスキルアップ研修

○就労前研修

雇用契約・利用契約を結んだ利用者に対して、社会人としてのマナー研修を必ず実施し「挨拶の仕方」「言葉遣い」「話を聞くときの態度」等について説明している。また、就業規則の確認も行っている。

研修後も、出勤退勤時、朝礼のときなど、必要に応じて支援していくことで、挨拶が苦手だった利用者が元気に挨拶できるようになるなど効果が見られている。

○労働安全衛生手帳の読み合わせ（一部就労継続支援 B 型も同様）

労働安全衛生手帳を全利用者に配布し、手帳の読み合わせを毎朝、朝礼時に行っている。

○労働安全衛生講習（一部就労継続支援 B 型も同様）

日本海リネンサプライ（株）の工場長に講師を依頼し、5 月末に毎年、労働安全衛生講習を実施している。身近な作業場所、使用している機械の危険な箇所等を確認している。

○個人面談（就労継続支援 B 型も同様）

毎月 2 回（第 2 週及び第 4 週）すべての利用者と個人面談を実施している。作業目標達成度評価や、日々の仕事での困りごと、家庭での悩みごと、勤務時間などを聞く貴重な時間となっている。

利用者も「面談の時に話します。」「今日は面談ですね。」など浸透している。

○連絡ノート（就労継続支援 B 型も同様）

すべての利用者に連絡ノートを渡し、家庭との連絡や本人の悩みや想いを書いて、毎朝、提出してもらっている。本人や家族との連絡が主たる目的になっているが、言葉で上手に表現できない利用者が悩みや想いを書いてきたり、家族に説明をしなければいけない事象があったときの、コミュニケーションアイテムとして利用する利用者もいる。

9 職員の指導体制 総員 4 名（令和 6 年 3 月末）

所長（サービス管理責任者兼務） 1 名

生活支援員 1 名

職業指導員 1 名

賃金向上達成指導員 1 名

10 職員の処遇（就労継続支援 B 型も同様）

服務規程及び賃金規定により処遇している。

職員研修については、令和 5 年度の実績は下記の通り。

【研修実績】

施設内研修	虐待防止研修会（4 月及び職員会議内で実施） 障がい者との関わり方（日本海リネンサプライ（株）従業員対象）
施設外研修	就労継続支援・就労移行支援事業所との意見交換会 サービス管理責任者更新研修

金沢市障害者基幹相談支援センター虐待防止伝達研修
 就業支援基礎研修
 地域生活拠点事業所連絡会
 障害のある人の就労スキルアップセミナー

【職員会議の実施】

毎月第3週または第4週の金曜日に実施

ケース検討・虐待防止・研修なども含む

1.1 QOL 活動について（就労継続支援B型も同様）

下記の通り実施

月	日	内容
4	3	お花見 3日・4日に分けて実施
	15	誕生会
5	2	端午の節句
	3	誕生会
	6	誕生会
6	10	誕生会
	30	氷室開き
7	7	七夕
	18	誕生会
9	28	お月見
10	14	誕生会
	30	ハロウィン（カチューシャで仮装）
11	9	誕生会
12	19	クリスマス会
	25	クリスマス（カチューシャで仮装）
1	9	誕生会
	16	鏡開き
	21	誕生会
2	2	節分
	14	バレンタインデー
	18	日帰り旅行
3	1	ひな祭り
	9	誕生会
	14	ホワイトデー

- ・七夕は短冊を日本海リネンサプライ（株）の従業員の皆さんにも書いてもらう。
- ・ハロウィン、クリスマスは日本海リネンサプライ（株）の従業員も含め希望者にカチューシャを配り仮装してもらう。

- ・クリスマス会は事務所に全利用者が集まりケーキを食べながらビンゴ大会を開催。
- ・節分は事務所に全利用者が集まり、福掴みと題しておかし掴みを行う。
- ・その他、誕生会、鏡開き、ひな祭りは食事の時間に食堂で開催。

1 2 保健衛生について（就労継続支援 B 型も同様）

○健康チェック表

毎日、出勤前に体温、身体状況などを自己チェックし提出している。

○健康診断

協力医療機関である公益財団法人石川県勤労者協会 城北病院による健康診断を年 1 回実施。令和 5 年度は 8 月 3 0 日に実施。

○静養等

家庭環境や生活環境によって、作業中に疲労による静養を行う方が数名いた。特に夏場は近年に稀に見る異常な高温で、静養する方が多く見られた。今は、静養を行う方はほとんどいない。

1 3 防災訓練・安全について（就労継続支援 B 型も同様）

- ・消防計画は作成したが、消防署には日本海リネンサプライ（株）から提出した。
- ・避難訓練は令和 5 年 2 月 2 日に日本海リネンサプライ（株）と合同で実施。水消火器を用いた消火訓練も実施した。

1 4 地域との連携・協働

○特別支援学校の実習生受け入れ

月	人数	学校名等
9	1	石川県立明和特別支援学校（高等部 3 年生 1 名）
1 2	1	石川県立明和特別支援学校（高等部 3 年生 1 名）

・実習期間は高等部 3 年生は 1 0 日間。3 年生についてはその後の進路先候補となっていることから、9 月後半の 5 日間及び 1 2 月の実習は 8 時 3 0 分～ 1 7 時までの実習時間を体験してもらっている。その後の雇用契約・利用契約に繋がった。

○委託訓練実習生受け入れ

月	人数	学校名等
7	1	石川障害者職業能力開発校（7 月～ 8 月）
1	1	石川障害者職業能力開発校（1 月中旬～ 3 月中旬）

・3 0 代と 4 0 代の男性の実習を実施。その後の雇用契約・利用契約に 2 名とも繋がった。

○見学者受け入れ（就労継続支援 B 型も同様）

月	人数	所属等
9	4 4	石川県立明和特別支援学校（高等部 1 年生 3 6 名及び教諭 8 名）
1 1	6	ヴィストカレッジ金沢駅前（利用者 4 名及び職員 2 名、家族 4 名）

・石川県立明和特別支援学校の見学は、進路見学学習として行われた。

・ヴィストカレッジ金沢駅前の見学は、放課後デイサービスの仕事体験の行事として行われた。

・その他、ハローワーク金沢、各相談支援事業所、金沢障害者就業・生活支援センター、野々市市社会福祉供養議会等の紹介で、見学者を随時受け入れている。令和 5 年度は 2 名

の利用者が雇用契約・利用契約に繋がった。

1 5 関係機関各所との連携・協働

○金沢障害者就業・生活支援センターとの連携

支援を受けている利用者1名について、雇用契約・利用契約を結んだ後も、必要に応じて課題解決に向けての面談を行うなど、密な関係性をもっている

○各相談支援事業所と連携（就労継続支援B型も同様）

仕事や家庭で悩みを抱えている利用者に対して、状況に応じて相談支援専門員にも入ってもらい、一緒に相談しながら課題解決を行うなど、密な関係性をもっている。

○石川障害者職業能力開発校との連携

就業前の実習として、委託訓練実習を取り入れている。令和5年度は2名の実習を行い、両名とも雇用契約・利用契約に至った。また、実習前や実習中のみならず、実習後にも密に連絡を取り合い情報収集と情報共有を行っている。

就労継続支援B型

1 事業の開始と利用者の推移

令和 4 年 8 月 1 日 多機能型障がい福祉サービス事業所 CoCo 金沢開所

令和 4 年 10 月 1 日 利用者1名入所

令和 5 年 2 月 17 日 利用者1名退所

（他法人就労継続支援A型事業所へ就職のため）

令和 6 年 1 月 9 日 利用者1名入所

令和 6 年 3 月 1 日 利用者1名入所

総在籍者数 2名（令和6年3月末）

2 利用者の内訳

○出身市町村 金沢市2名

○性別 女性1名 男性1名

○年齢（平均年齢...50歳）

20代...0名 30代...0名 40代...1名 50代...1名

○障害種別

知的...0名

精神...1名（不所持...1名）

身体...1名（内身体手帳1級...1名）

○通所方法

自家用車等...0名 自転車...0名

送迎...2名（最寄りのバス停まで徒歩2名）

利用者個人の状況に応じて、手厚い送迎を行っている。

3 日課等

○日課

8時30分～17時

休憩時間 12時～12時50分 15時～15時10分

本人の希望、体調、体力、家庭環境等を考慮し、無理のない時間帯での実施となっている。

土曜日・日曜日の週休2日制。他開所日は希望通所。

○作業訓練内容

タオル、ガウンたたみ等

○状況

令和6年3月末現在、B型利用者は2名。次年度は更に計画的に利用者を増やしていく。

4 通所状況

1月	2月	3月	年平均
100%	95.2%	88.1%	94.4%

利用実態（通所率）

- ・3月は、転倒事故で1名が右肩脱臼となり1週間休んだため通所率が下がった。
- ・通所時間は本人と相談を行い、身体状況等を考慮し柔軟に対応している。1名は8時30分～15時、1名は10時～12時（週2回）の通所となっている。

5 利用者の工賃支給

平均工賃1月	平均工賃2月	平均工賃3月	平均月額工賃
19,834円	28,334円	13,063円	20,411円

6 個別支援計画

プロフィールアンケートを事前に記入してもらい、フェイスシート、アセスメントシート等を個人ごとに作成。本人、家族、担当職員等との個別面談を行い「就労継続B型支援計画(案)」を作成。本人及び家族に確認後に、「就労継続B型支援計画」として、その計画に沿って日々の支援を行っている。

7 職員の指導体制 総員3名（令和6年3月末）

所長（サービス管理責任者兼務） 1名

生活支援員 1名

職業指導員 1名

8 地域との連携・協働

○特別支援学校の実習生受け入れ

月	人数	学校名等
11	1	石川県立明和特別支援学校（高等部2年生1名）

- ・実習期間は高等部2年生は5日間。

○見学者受け入れ（就労継続支援A型も同様）

月	人数	所属等
9	44	石川県立明和特別支援学校（高等部1年生36名及び教諭8名）

1 1	6	ヴィストカレッジ金沢駅前（利用者 4 名及び職員 2 名、家族 4 名）
-----	---	--------------------------------------

- ・石川県立明和特別支援学校の見学は、進路見学学習として行われた。
- ・ヴィストカレッジ金沢駅前の見学は、放課後デイサービスの仕事体験の行事として行われた。
- ・その他、ハローワーク金沢、各相談支援事業所、金沢障害者就業・生活支援センター、野々市市社会福祉供養議会等の紹介で、見学者を随時受け入れている。令和 5 年度は 2 名の利用者が利用契約に繋がった。

令和5年度事業報告

第2種障害福祉サービス事業

(共同生活援助事業・居宅介護事業・短期入所(ショートステイ)事業・相談支援事業)

地域生活支援センターCoCo ながの・ちくま

令和5年度、5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類へと移行され、感染対策を続けながらですが、コロナ禍前の日常を取り戻し始めました。自粛していた外出もホームごとの外出を再開したホームもあり、入居者さんの希望に沿う形で支援を広げてきました。逆に、感染対策としてホーム内でクラスターを起こさないために、食事は各自の部屋での食事のまま過ごしてきたりと、新しい生活様式の日常も垣間見れます。

ホームの支援以外のショートステイ、行動援護、居宅介護といったサービスは、以前と同じ状況でサービス提供を始めていますが、支援者の人材不足が大きな課題となっています。

【共同生活援助事業】グループホーム

1. 事業の開始

平成16年 1月15日 CoCo ホーム千 曲 (女性4名)
→平成21年4月～(女性5名男性2名)
→平成28年3月～(女性6名男性4名)

平成17年 7月1日 CoCo ホーム白塚102 (女性4名)
CoCo ホーム白塚103 (男性4名)

平成18年 8月7日 CoCo ホーム表参道 (男性6名・女性1名)
→平成22年6月～(男性7名)

平成20年12月1日 CoCo ホーム蔵 町 (男性7名)
→平成21年11月～(男性9名)

平成22年 6月1日 CoCo ホームぼたんの里(女性4名)

平成25年 2月10日 CoCo ホーム山 王 (男性5名)

平成29年 6月1日 地域生活支援センターCoCo ちくま 開所

長野・須坂市内のホームを地域生活支援センターCoCo ながのの事業とし、千曲市内のホームを地域生活支援センターCoCo ちくまの事業とする

平成29年 6月1日 CoCo ホーム三本木 (男性8名)

入居者定員総数 51名

・令和5年度の入居者数の変動

令和5年7月 CoCo ホーム千曲	男性1名入居ご自宅より
令和5年10月 CoCo ホーム千曲	女性1名入居ご自宅より
令和5年11月 CoCo ホーム三本木	男性1名退去→他グループホームへ
令和6年2月 CoCo ホーム三本木	男性1名入居ご自宅より

令和5年3月時

入居者実数 CoCo ながの 31名(男性25名・女性6名)

CoCo ちくま 17名(男性11名・女性6名)

合計 48名(男性36名・女性12名)

2. 入居者の状況

< CoCo ホーム白塚 102 > 女性 4 名

- ・出身市町村 (長野市 2 名)(千曲市 1 名)(高山村 1 名)
- ・年齢 44 歳 ~ 65 歳
- ・日中の場 キッチン CoCo1 名(就労継続 B 型)/アトリエ CoCo3 名(就労継続 B 型)
- ・ホームの様子

女性 4 名のホームだが、ホーム内での人間関係によるトラブルが多く支援者も対応に苦労している。支援者を巻き込んでのトラブルになりやすいため、支援者は常に状況を正しく把握できるよう世話人、生活支援員が情報共有を密にとると共に、日中事業所との統一された支援を心がけ支援を組み立てている。入居者の話を丁寧に聞き取り、気持ちよく過ごせるアドバイスを心がけている。

身体的に障がいのある方は、外部のマッサージ治療を受け入れるなど、障がい福祉サービス以外の社会資源の活用を積極的にしている。また、高齢化に伴い、医療との連携、環境の調整、が今後大切になってくる。

< CoCo ホーム白塚 103 > 男性 4 名

- ・出身市町村 (長野市 1 名)(飯山市 1 名)(小川村 1 名)(筑北村 1 名)
- ・年齢 62 歳 ~ 79 歳
- ・日中の場 アトリエ CoCo3 名(就労継続 B 型)/キッチン CoCo1 名(就労継続 B 型)
- ・ホームの様子

高齢期の男性のメンバーが暮らすホーム。体調の変化に対応して、通院や服薬を含めた健康管理の支援も必要。3 名は人間ドックを受診し、必要な治療に結びつけてきている。定期的な通院が増え、付き添っての受診ができるように支援している。

また、高齢化により物忘れや部屋の整理整頓といった日常的な部分の支援が今まで以上に必要になってきている。居室の整理整頓や衣服の管理が難しくなっており、個別に居室の整理を行なっている。また、ご本人の希望に合わせた外出・買い物や余暇の充実等の支援を広げ楽しみのある生活を組み立てている。

< CoCo ホーム表参道 > 男性 7 名

- ・出身市町村 (長野市 7 名)
- ・年齢 20 歳 ~ 67 歳
- ・日中の場 アトリエ CoCo1 名(就労継続 B 型)
アートカフェ CoCo1 名(生活介護)
CoCo JAVJAV2 名(就労継続 B 型 2 名)
ななせ仲まち園 1 名(就労継続 B 型)
ふれあいの森 1 名(就労継続 B 型)
企業就労 1 名(長野リネン本社工場)
- ・ホームの様子

365 日ホームを利用する方、週末には実家へ帰省をする方、一般就労している方、生活介護に通所している方等々、様々な生活スタイルを持つ方たちが同居している。日中通所場についても、生活介護の方と一般就労の方、年齢も障がいの特性も幅広い方々が利用をされている。

普段は、健康管理や金銭管理、余暇の過ごし方など、個々の課題に目を向け取り組んでいる。

< CoCo ホーム蔵町 > 男性 9 名

- ・出身市町村 (須坂市 7 名)(長野市 1 名)(木島平村 1 名)
- ・年齢 49 歳 ~ 64 歳
- ・日中の場 企業就労 9 名(長野リネン須坂工場 6 名・本社工場 1 名)
アトリエ CoCo 1 名(就労継続 B 型)
須坂市地域活動支援センター 1 名
- ・ホームの様子

60 歳を超え一般就労から次の生活スタイルを模索し始めて方が増えてきている。今までできずに来たことを、その方の夢プランとしてスペシャルな支援を提供できればと考えている。日中の過ごし方について、就労から余暇の支援を必要とする方向に変わってきている。ご本人の希望を探りながら、一緒に今後の生活スタイルを築いていきたい。

また、加齢に伴う体力の低下や、疾病も現れるようになってきた。働き続けるための健康管理とともに、日常生活や余暇の経験の幅を広げる支援を心がけている。ご家族の高齢化や他界による、親から兄弟への代替わりで、身内との関係性に変化があり、ご本人を取り巻くご家族との関係調整の支援を始めていきたい。

< CoCo ホームぼたんの里 > 女性 2 名

- ・出身市町村 (長野市 2 名)
- ・年齢 31 歳 ~ 35 歳
- ・日中の場 アトリエ CoCo 2 名(生活介護 2 名)
- ・ホームの様子

住み込世話人の支援を受けながら、細かい部分まで支援をし、その方の暮らしを支えている。また、ショートステイの利用者さんも受け入れながらの生活環境となっている。

今年度は、新型コロナ感染防止により、ホーム等お楽しみ企画が実施できずにできてしまっている。週末は帰省する人・余暇支援を受けて楽しむなど、思い思いの過ごし方をしている。

< CoCo ホーム山王 > 男性 5 名

- ・出身市町村 (長野市 4 名)
- ・年齢 29 歳 ~ 60 歳
- ・日中の場 企業就労 1 名(轟電化工業)
アトリエ CoCo2 名(生活介護 1 名・就労継続 B 型 1 名)
CoCo JAVJAV 1 名(就労継続 B 型)
長野市地域活動支援センター 1 名
- ・ホームの様子

長野駅前ホームということもあり、企業就労されている 1 名は、自分の時間を有効に活用している。また、定年を迎え退職した方もマイペースに日常を過ごされている。新型コロナの 5 類への移行に伴いホームレクを再開している。ホーム内はそれぞれの個性を尊重し合いながら、また、助け合いながら暮らしている。その中で、若い入居者さんたちも生活の中でできることを増やしながら生活している。

< CoCo ホーム千曲 > 女性 6 名 男性 3 名

・出身市町村（長野市 3 名）（千曲市 1 名）（坂城町 2 名）（上田市 1 名）（中野市 1 名）（筑北村 1 名）

・年齢 24 歳～58 歳

・日中の場 クリーニング工房 CoCo 6 名

（就労継続 A 型 4 名・就労継続 B 型 2 名）

SAKURA 1 名（就労移行）

企業就労 2 名（（株）ロビニア 1 名・（有）西部精密製作所 1 名）

・ホームの様子

CoCo ホームの中で 1 番歴史のあるホーム。今年度は 2 名の新しい入居者を迎えている。すぐに仲間になり、助け合う姿が見られている。

入居されている皆さん同士、挨拶を交わしたり、体調の悪い仲間に気遣いの言葉をかけたりと人間関係は良好。お互いに声を掛け合いホームの雰囲気は良い。仕事に余暇に思い思いの毎日を過ごしている。

< CoCo ホーム三本木 > 男性 8 名

・出身市町村（長野市 3 名）（千曲市 4 名）（坂城町 1 名）

・年齢 32 歳～59 歳

・日中の場 クリーニング工房 CoCo3 名（就労継続 A 型 3 名）

スタジオ CoCo 3 名（就労継続 A 型 1 名・就労継続 B 型 1 名・

生活介護 1 名）

チューリップの家 1 名（就労継続 B 型）

クロスロード寂蒔 1 名（就労継続 B 型）

・ホームの様子

平成 29 年度 6 月に新しく開所した CoCo ホーム。地域のニーズに応えるために、ショートステイ付ホームとして 8 名の入居者がホームでの暮らしをスタートしている。

コロナ禍の中、入居者同士や、支援者との会話を控えてきたが、5 類移行後ホーム内で楽し会話が増え始めている。今年度は、「自分にはこのホームが合わない」といった理由で 1 名退去され、代わりに自立に向け 1 名が入居されている。

入居されている方の多くが、社会の中でトラブルを抱えやすい障がい特性を持っているため、トラブルを未然に防ぐ、または初期の段階で対応できる環境にしておく必要がある。

3．生活状況 / QOL 等

「地域で暮らしている」ということを強く意識しながら、余暇の支援を対応してきている。新型コロナウイルスの 5 類移行も受け、個別の休日の過ごし方や、夕方以降の過ごし方には、強い制約はせず、ご本人の希望に合わせるよう支援してきている。一人で買い物を楽しむ方、お友達との外出を楽しむ方、等形はそれぞれではあるが、ホーム内だけで完結しない、日中活動場所だけで完結しない、そんな日常を送って頂けるように心がけている。

また、余暇に限らず、地域の行事も少しずつ以前と同じように開催され始めている。各ホームとも、地域の中で行事や清掃活動に声をかけていただき、世話人と共に地域の実情に合わせて積極的に参加させて頂いている。

4．職員体制

地域生活支援センターCoCo ながの

管理者 1名（ちくまと兼務） サービス管理責任者 2名 生活支援員 7名

世話人 18名 白塚 102・103：5名 / 表参道：4名（宿直1名）

蔵町：4名 / ぼたんの里：1名（宿直1名：住み込み）

山王：4名

地域生活支援センターCoCo ちくま

管理者 1名（ながのと兼務） サービス管理責任者 1名 生活支援員 2名

世話人 14名 千曲：5名 / 三本木：8名

5．食事

各ホーム、ヨシケイのサービスを利用しながら、手作りで栄養バランスのとれた食事の提供をこころがけている。ヨシケイのサービスを利用することで、世話人の負担も軽減させることができ、人材の確保につながっている。季節の行事メニューや誕生日メニュー、外食の企画等、入居者にアンケートをとりながら嗜好を取り入れた献立も作っている。入居者やショートステイの利用者からは「食事が美味しい」と良い評価を頂いている。

6．健康管理

日常の健康チェックに加えて、通院・服薬の支援を行ってきた。加齢とともに体調の変化が現れてきている入居者が多く通院の種類や回数が増えてきている。必要な人にはホームで血圧や体重測定を続けている。通院先は、地域の内科をはじめとして、歯科・眼科・耳鼻科・精神科・皮膚科・胃腸科・婦人科・整形外科・総合病院と多岐にわたり、定期通院の付き添いが必要なところを複数持っている入居者もいる。医療機関と連携しながら情報を共有して支援してきた。連携は病院に限らず、地域の訪問看護ステーション、インフォーマルなマッサージ等地域の社会資源を活用しながら、ご本人の健康管理を継続させている。

ホームの入居者の通院については、通院等介助のサービスを利用できる方は、そのサービスを利用し通院するが、対象とならない通院についてはホーム対応となり、年々ホーム生活支援員の負担が増えてきている。通院に対しての加算等、制度の見直しを呼びかけていくことも必要。

また、40歳以上で人間ドックの受診を希望する方には、申込み手続から当日の付添いまでを支援しており、今年度は2ホーム、6名の入居者が受診した。疾患の早期発見に努めている。

新型コロナウイルスの感染防止については、5類への移行後も、マスク着用・手指消毒・手洗い等の予防に係る準備品をそろえ、入居者への呼びかけを続けている。その上で発生時には、今までのマニュアルに沿って対応を進めてきた。感染対策としては、帰宅時の手洗い、手指消毒、ホーム内の換気、毎日の検温、食事時間の変更、部屋から出る時にはマスクを使用、入居者、職員ともに感染予防に取り組んでいる。

7．防災体制

各ホームとも、前期後期2回の避難訓練を実施。新たに水害時の災害想定にて訓練を実施している。新型コロナウイルス感染防止のため、1回しか実施できなかったホームもある。

避難訓練の際には防災用品の期限切れや不足の物の点検、補充を行っている。

また、感染症のBCP、災害時におけるBCPの作成を行った。完成したものは訓練等を実施しながら、実際に活用できることを目標に更新していきたい。

8．研修等

年間の研修スタイルを示し、それに沿って実施してきている。

6 月には各自に人権チェックリストを実施して頂き、自分の現状把握を呼びかけ、人権意識を高めて頂いた。また、月 1 回を目標にホーム毎の支援会議を行い、世話人と生活支援員で支援の振り返りと情報の共有及び支援の方向性の確認に努めた。

長野市・千曲市・須坂市の自立支援協議会の各部会に参加して情報共有を行った。

世話人研修は集合研修を実施し、現場で日々苦勞している精神科領域の基礎知識や対応方法を学ぶ研修会を実施することができた。

また、各種の外部の研修会には積極的に参加をし、学んだことを現場で活かすことができるよう、スタッフ会議等で報告伝達している。

9．地域への開放

長野清泉女学院の心理学科の実習生を受け入れ、地域で暮らす障がい者の生活について学ぶ機会を提供してきた。今後も続けていく予定。特別支援学校を始めとするグループホームの見学の要望には都度対応をしながら、大切な社会資源としての役割が果たせるよう取り組んできている。

10．評価及び課題（実践を通して）

新型コロナが 5 類に移行され、グループホームの生活も新しい生活様式を取り入れながら、以前の生活に戻ってきている。新しい生活様式でもあり、社会の流れでもある、「個別支援」がホームでの支援でも大切なキーワードとなっている。その方の希望に沿って、適切な個別支援を提供していくことが望まれてはいるものの、現状はスタッフの人材不足といった大きな課題により、思ったようには進んでいない。

また、当法人のグループホームも入居者全体の 3 割が 60 歳以上となり、高齢化が進んできている。先にも書いたように高齢化に伴っての通院の頻度が増え、人材不足と相まって、こちらも大きな課題となっている。

T さん（女性） 御年 64 歳、身体障害の手帳を所持し、年々歩行も衰えてきている。外を歩くときにはストック型の杖を活用したり、長距離は車いすが必要となっている。そんな彼女は両足のむくみがひどく、膝から下はいつでもむくみがあり、開口一番「足が痛い」と言っている。足のむくみについては、繰り返し病院でも検査等を行い、内科的には問題がなく、病院からも足を高くして休むことやマッサージを進められていた。そして彼女のコミュニケーションは、自分の体の悪いところを聞いてもらいたい、対人関係でうまくいっていないことを聞いてもらいたい等々、自分にとってネガティブな話を繰り返し話したい、聞いてもらいたい、といった特徴がある。話を聞いてもらったり、体を労わってもらうことが、彼女にとっては常に必要な状況となっている。

そんな彼女の支援に対して、定期的に個別での対応は現在の職員体制では限界がある。そんな中、今年度取り入れたのが、地域の出張マッサージのサービスである。自己負担金の問題もあり、毎週サービスを利用することは難しいが、隔週でご本人の部屋へマッサージ師が出張してくれる。足のマッサージはもちろんのこと、マッサージをしながら彼女の日ごろの愚痴なども聞いてくれるのだ。

このサービスを始めてから足のむくみは劇的に良くなっている。施術を受けた後は膝下はすっきりしているし、「足が痛い」の決まり文句も減っている。気分の浮き沈みは以前から大きく変わらないものの、ひどい落ち込みも減っているのだ。定期的な愚痴の発散も影響していることが伺

える。

Yさん（男性）知的障がい、精神障がい、それに加え持病として1型糖尿病も患っている。彼は長い間ご自宅で一人暮らしを続けてきたものの、令和4年12月に限界となり当法人のグループホーム入居となっている。入居して1年、服薬でもうまく安定しない精神症状、インスリンを使ってもうまくコントロールできない血糖値、ご本人はもちろん現場のスタッフも困惑を続けてきた。

精神症状については、幻聴がひどく生活もそれによって振り回されてしまう。例えば、「お風呂には入るな」と幻聴に言われると入ることができなくなってしまう。そんな状況をホームの中だけで何とかしようとしてもうまくいくはずもなく、最終的には、現在は地域の温泉に週2回行く、ということで折り合いが付いて行く。片方で幻聴がひどくなる原因を研究しながらも、もう片方では日常の生活をどう組み立てて行くのかホーム以外の社会資源の活用が必要となる。

また、糖尿病への対応にも苦慮してきた経過がある。例えば、食事に来たYさん食べ始めても座ったままうつらうつらし始める。当初は寝不足で食べながら眠っているのかな？と見ていたけれど、実は低血糖による不調状態だったことがわかる。血糖値は外見からは全く判断ができず、現場のスタッフも日々心配をしながらの対応となった。

そんなYさんの支援に今年度取り入れたのは、血糖値がすぐにわかるリブレという装置の導入。ご本人からドクターに相談をして頂き、腕に設置して頂く。そのお陰で、常に本人以外の者が血糖値を測ることができ、早い対応が可能となっている。そしてないよりも、必要以上の心配をせずにご本人の支援ができていることが、現場スタッフの安心にもつながっている。そして、精神科症状に対しては、地域の訪問看護ステーションの看護師による定期的な訪問。こちらは入居する時からの訪問が続いている状況ではあるが、ご本人の状況が悪くなった時には、病院とやり取りする前に相談ができ、かつ日頃から一緒にご本人の精神状況について話ができるのは、現場スタッフにとっては力強い味方となっている。

Tさん、Yさんの実践を振り返ってみても、グループホームの中だけで支援を考えるのではなく、地域の社会資源を活用しながらご本人の個別支援を組み立てていく必要性を感じている。現場は人材不足であっても、地域のサービス、またはインフォーマルなサービスを活用することで十分に入居者の生活を支えて行くことができるのだ。大切なのは、アンテナを高く張り、いつでも活用で来そうな社会資源を見つける感度と、それらを上手に活用する力なのだと思う。自分たちだけではどうしようもない状況も連携をすることで適切な支援ができることを実感した出来事であった。

「答えは現場が教えてくれる」、常に現場の支援を通して学び、地域で暮らす方々の生活、夢の実現を支えて行きたい。

【短期入所事業】ショートステイ

「自立生活をしたい！」「グループホームで生活してみたい！」「将来的には自立した生活をしてほしい」「親元を離れての暮らしがイメージできる体験をさせたい」「緊急時に対応してもらえう場があると安心」という本人・保護者の願いに沿うべく、当法人の共同生活援助住宅の一室を活用して短期入所（ショートステイ）の事業を開始した。

利用のきっかけや目的は様々で、グループホームで生活リズムを作りたい人、家を離れる体験をしてみたい人、グループホーム入居に向けて練習したい人のほかに、家庭の都合や事情で緊急に利用したい人などであった。

1．事業の開始

平成 22 年 7 月 1 日 CoCo ホーム表参道 / CoCo ホームぼたんの里

平成 29 年 6 月 1 日 地域生活支援センターCoCo ちくま (CoCo ホーム三本木)

2．事業提供の場所と定員

CoCo ホーム表参道 定員 1 名

CoCo ホームぼたんの里 定員 1 名

CoCo ホーム三本木 定員 2 名

3．利用状況 (月別のべ利用人数)

	R5 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R6 1 月	2 月	3 月
表 参 道	10	10	13	15	16	14	15	17	15	12	8	8
ぼ た ん の 里	8	6	10	8	6	5	7	6	7	7	8	10
三 本 木	29	28	32	24	16	31	30	28	27	25	21	16

4．評価及び課題

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5 類に移行されたため、当事業所においては、コロナ禍前と同様に利用者の受け入れを再開している。もちろん、感染対策をし、利用される方にも感染予防をして頂きながらの再開となっている。

以前は自分の自立を目標に利用されている方が多くいたが、コロナ禍の期間を経て、再び自立を目指しての利用を始めた方の人数は少ない。ご家族のレスパイトとして短期入所を利用されることが増えているように感じる。しかし、ご家族のレスパイトとして活用して頂くことも大切なニーズにお応えすることに繋がっている。

今後も感染防止対策を行いながら、以前利用されていた方たちの定期利用、新規の方の利用を進めていきたい。

ホーム三本木についても、5 類移行後利用者の頻度は増えつつある。また、今まで利用していた方が、ホーム入居につながっていることもあり、利用率は減っているが、多くの方の自立のきっかけになっていると言える。R4 年度からは地域生活支援拠点として緊急時の受け入れを担っており、今年度も緊急の受け入れを実施している。2 床の利用が可能であるメリットを活かし、かつ緊急時には定員を超過しながらでも受け入れをしてきている。今後も緊急時の受け入れができるよう態勢を整えていきたい。

【居宅介護等事業】 - 地域生活支援センターCoCo ながの -

○事業開始年月日 平成 18 年 7 月 1 日

平成 22 年 5 月より、長野市基準該当事業所として登録

○事業内容

- ・居宅介護事業（身体介護中心・家事援助中心・通院等介助） ・行動援護事業
- ・移動支援事業 ・長野市障害児自立サポート事業 ・市町村障害児（者）タイムケア事業

○職員体制

管理者 1 名 / サービス提供責任者 1 名 / 居宅介護等従事者 6 名

行動援護従事者 5 名 / 移動支援従事者 7 名 / タイムケア等従事者 8 名

○利用者

日中の通所事業利用者 / グループホーム入居者

在宅単身生活者 / 在宅の障がい者・児（日中を他法人事業所利用）

（長野養護学校児童・生徒 / 稲荷山養護学校児童・生徒）

（特別支援学級及び情緒学級在籍児童・生徒）現在児童の利用は 1 名のみ

○評価及び課題

<居宅介護事業>

通院等介助のサービスについては、障がいのある方にとって、通院に関する支援はとても重要な部分であり、地域で暮らす方達にとっては、なくてはならないものとなっている。本人一人では通院が困難な方にとっては必要なサービスとなっている。また、ホームに暮らす高齢の利用者の通院頻度も増えている。

今後も居宅介護事業を維持することができるようヘルパー人材の確保・育成が大きな課題となる。

<移動支援事業・行動援護事業>

今年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行されたため、以前と同じように支援の受け入れを再開している。ただ、ヘルパーが年齢等の理由により退職が続き、実際に移動支援を担えるスタッフが不足している。そのため、以前と同様の受け入れは困難な状況にある。

行動援護については、地域で暮らす重い障がいのある方の社会参加を支え、余暇支援、外出支援を積極的に提供することが出来ている。しかし、対応が困難な場合もあり、今後も行動援護従事者の育成、確保が必要となっている。行動援護に従事することのできるヘルパーの確保が急務であり、ヘルパーやスタッフの専門的スキルの獲得も必要となっていく。

<障害児自立サポート事業・タイムケア事業>

障害児支援においては、利用されている児童が学童期を過ぎたため、年々利用時間は減り、今年度は利用が 1 名のみであった。

タイムケアについては、日中事業所終了後の時間や土曜日といった利用がメインとなり、ご家族のレスパイトとしての利用となっている。また、タイムケアの利用者については、ケア会議を通して各事業所間の情報共有を計ると共に、統一した支援につなげることができている。タイムケア事業としてお預かりするだけでなく、相談にのる、今後について一緒に考えるといった地域の社会資源としての役割を果たすことにつながっている。また、個別の相談を受ける中で、当法人に計画相談を依頼される方が増えている。

○利用実績

R5年度	居宅介護 (身体介護・家事援助・通院等介助)			行動援護			移動支援			タイムケア			長野市障害児 自立サポート		
	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用P
令和5年 4月	6	7	7.0	4	22	45.5	12	13	70.0	12	47	166.25	0	0	0.00
5月	6	6	6.0	6	24	50.0	7	7	41.0	13	44	138.25	0	0	0.00
6月	5	6	6.0	3	20	37.0	11	11	52.5	14	58	170	0	0	0.00
7月	6	6	6.5	3	16	30.5	11	11	67.0	16	57	167.25	0	0	0.00
8月	4	4	5.0	5	17	39.5	8	8	41.5	12	51	160	0	0	0.00
9月	6	6	6.5	4	15	34.0	11	11	61.0	15	50	177.5	0	0	0.00
10月	5	5	5.0	4	16	27.0	11	11	61.5	16	65	188.25	0	0	0.00
11月	4	5	5.0	5	18	36.0	10	10	59	13	59	186.75	0	0	0.00
12月	4	4	4.0	5	16	32.0	10	10	57.0	14	54	182.25	0	0	0.00
令和6年 1月	6	6	7.0	4	18	33.5	6	6	29	16	51	159.25	0	0	0.00
2月	6	7	7.5	4	21	36.5	9	10	53.5	14	46	144.00	0	0	0.00
3月	4	4	4.0	4	22	35.5	8	8	42.5	13	50	168.50	1	1	7.50
合計	62	66	69.5	51	225	437.0	114	116	635.5	168	632	2008.3	1	1	7.50

【相談支援事業】

（指定特定相談・指定障害児相談・指定一般相談・長野市区分認定調査）

専任 4 名、兼務 1 名の相談支援専門員が、障害福祉サービス等利用計画の作成に取り組むことができた。そのため、機能強化型サービス利用支援費（ ）の加算基準を満たした状態で運営することができた。しかし、12 月には専任の相談員がご家庭の事情により退職し、その後の人員の補充ができずにいる、事業所として受けている相談件数は変わらないため、それぞれの相談員への負担は大きい。

新規相談については、日中支援事業所からの依頼であったり、相談支援センターからの依頼、及び行政からの依頼で障害福祉サービス等利用計画の作成を行ってきている。相談支援を継続して行く上で、

長野市、千曲市の委託相談員とは連携を密にし、相談員から依頼が上がってくる新規の相談ケースについても積極的にお受けしてきた。

また、サービス更新、ご本人・ご家族・事業所からの相談（サービス追加・変更等）などに合わせて支援会議を実施してきた。ご本人・ご家族と市町村ケースワーカー、各事業所の担当者、サービス管理責任者、相談支援専門員が顔を合わせて生活の様子を参加者で共有すると同時に障害福祉サービス利用の状況把握や意向確認を行う事が出来る良い機会となった。各種サービスの利用方法の相談等、ご本人やご家族に寄り添い身近な存在として相談支援専門員がいたことは、安心につながったように感じる。

相談支援専門員や障害福祉サービス等利用計画の質を向上させるために、指定相談支援事業所連絡会に出席し情報収集、情報共有や各種研修への参加を重ねてきた。各研修会に参加することで、行動障害支援体制・精神障害者支援体制・要医療児者体制の加算基準を満たすことができている。また、今年度は主任相談支援専門員を 2 名配置し、事業所内の相談支援の質を高めるとともに、地域の社会資源として活躍できるようにしている。千曲市においては基幹相談支援センターが中心となり、地域の相談支援事業所の質の向上のため、事例検討会や相談会を実施している。その会に主任相談支援専門員として参加することで地域の相談支援体制向上のための役割を果たしてきた。また、長野市南部相談支援センターへ出向している相談員とは定期的に連絡会を開催し、長野市地域の相談支援体制の情報共有やケースごとの事例検討を重ねてきている。

専任の相談支援専門員の配置であったり、千曲市・長野市の委託の相談員の配置をすることで、チームとして相談支援に取り組むことができている。連絡会や小まめな連絡を取ることで、情報の共有、支え合いながらの実践をすることに繋がり、相談支援専門員が今まで以上に連携をし、チームとして相談支援が進められる環境となっている。

事務手続きとして、利用される方の障害福祉サービス支給決定受給者証の確認が必要とされている。その受給者証の確認が取れないケースがあり、請求業務に支障が出ている。特に日中サービスを利用されない方の受給者証の確認が遅れるため、意識して声をかけていきたい。

相談支援専門員が抱えるケースの件数が増えるにつれ、事務的な手続きが増えケースの管理に多くの時間を費やすこととなっている。事務処理については、最低限を守りながら、できるだけ簡素化し取り組めるよう、管理表を作成し直したりして対応を進めている。

令和 5 年度相談支援事業実績

計画相談件数	モニタリング 件数	障害児相談件数	障害児モニタリング 件数	地域移行相談件数
2 8 1 件	5 6 3 件	3 4 件	3 8 件	3 件

【長野市障害児（者）ケアプラン作成事業】

長野市ケアプラン作成事業については、指定計画相談支援事業の補助的な役割となっている。当法人の持つ長野市障害児ケアプランは、すべて指定障害児相談支援事業に移行することができているため、令和 5 年度には長野市ケアプランは作成されなかった。

【千曲市障害者等基幹相談支援センター事業】

○ 障害者等相談支援事業

・ 千曲・坂城障がい者（児）基幹相談支援センター 7 名

（センター長 1 名・相談員 2 名・事務員 1 名 計 4 名が地域センター CoCo ながのの所属）

< 1 年を振り返って >

令和 5 年 5 月、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行されました。約 4 年にわたる感染拡大に伴う様々な制限から解放され徐々に世の中が動き始めた 1 年でした。とはいえ、すぐにコロナ前の生活に戻ることは難しいです。5 類移行後も感染症の脅威は続き第 10 波が到来するなど、難しい対応が求められています。コロナ禍で経験したことを踏まえて体制を整えていけると良いと思いました。また、今年は元旦から能登半島地震が起こり大変な幕開けとなりました。2 か月が経過した現在も、未だライフラインの復旧が実現せず厳しい避難生活を送られていらっしゃる方が大勢います。障がいのある方の避難に関する課題も明らかになりました。災害はいつ起こるのわからず、起こってからでは間に合いません。我が事として災害対応について考える機会なのではないかと感じています。さて、令和 5 年度の全体会は、新型コロナ 5 類移行後の最初ということで、新型コロナに絡めた内容で 11 月 22 日信州の幸（あんずホール）にて開催いたしました。第 1 部では、長野市保健所の小林良清所長をお招きして、コロナ禍で何が起こっていたのか、そして今後の対応についてご講演いただきました。第 1 波からの感染者数の推移や長野市保健所の取り組み、感染者などへの誹謗中傷についてなど、具体的にお話いただき、コロナ禍の日々を思い起こしました。第 2 部は、「アフターコロナの今笑顔で暮らし続ける地域づくりについて考える」というテーマで千曲・坂城地域の当事者、家族、民生児童委員、訪問看護、福祉事業所の方々にご登壇いただいて、それぞれの立場での想いを語るトークセッションを行いました。登壇された皆さんに共通していたのは「コロナというものが何なのかわからずに怖かった」「人と会って話をするのが出来ず何が起きているのかわからずに不安だった」という想いでした。一方、新型コロナに関する不安は、情報や知識を得て少しづつ理解することで軽減されたという意見が出されました。すると、『わからないから怖いし不安』... それは障がいにも共通して言えることだという意見が出され、第 1 部での感染者への誹謗中傷の事例も含め、感染症と障がいという一見異なるテーマの中に共通する課題があるという発見がありました。その他、会って話すことができない中でも繋がりのある人同士では、電話やメールなどを使って情報交換をすることで安心できたという話があり、改めて人と人の繋がり、地域の絆の大切さを実感する機会となりました。コロナ禍で過ごした約 4 年間、不安で苦しい想いをしましたが、社会の仕組みが変わったり、学ぶことも沢山あったと思います。今回の経験を今後活かしていくことが大切だと感じています。自立支援協議会は、各部会で新たな取り組みがあり、ますます活動が活発になっています。相談部会では、主任相談支援専門員と連携し「相談員による相談員のための相談エイド」を実施しました。はたらく部会では、高校卒業後の進路について早い段階から知っていただけるようにとオープンキャンパス形式の事業所見学会を開催。生活部会では、地域課題とした挙げた福祉現場の人材不足に対する取り組みとして「福祉の仕事の魅力発信動画」を制作。こども部会では、放デイ事業所説明会の開催や放デイサービス連絡会の開催に医療的ケア児等委員会を 2 回開催しました。こころ部会では、Nimo 包括と連動しながら当事者の方に参加していただいて意見交換を行うことが出来ました。また、こころ部会の研修会参加を機に精神障がい当事者「ひこばえの会」が誕生し、定例会の他に 2 回の交流イベントを実施しました。2 月 28 日に開催した交流イベ

ント「みんなで和気あいあい」には支援者も含め 41 名の参加 がありました。ひこばえの会は、さん・さんネット部会にも参加し当事者参加型の「さんきゅーあーと展」の大きな力に なりました。このように、自立支援協議会の運営は『誰もが安心して暮らせる地域』を実現するため、さまざまな取り組み、新たな試みが求められています。事務局の役割が大きくなるなか、基幹としての相談支援の部分とのバランスを考えながら業務にあたっていければと考えています。

最後になりますが、令和 4 年に成立した障害者総合支援法の改正が令和 6 年 4 月 1 日より施行されます。今回の改正の中で、基幹相談支援センターが果たすべき役割が明確化され「地域の相談支援の強化の取組」と「地域づくり」が追加されています。地域における相談支援の中核的な役割を担う基幹センターのコア機能として「相談支援体制の強化の取組」「地域づくり」が明記され、従来の「総合的な相談支援」については地域の相談支援体制全体で様々な形が 考え得るとされています。千曲・坂城地域においても、主任相談支援専門員の役割も含めて、相談支援体制について検討していければと思います

【相談支援に関して】

年間相談件数 3604件 < R6.3.5 時点 >

年間件数	電話	2088	来所	456	同行	192	訪問	373
合計 3788件	メール	160	支援会議	172	関係機関	114	その他	49
対象者（実人員）	身体	28	知的	87	精神	155	発達	70
417人	高次脳	1	重症心身	1	その他	83		
支援内容	福祉サービス利用	1680	不安の解消	822	人間関係	625	健康・医療	537
(相談件数の多いものから抜粋)	就労	505	家計・経済	962	保育・教育	122	生活技術	729
	障がいの理解	712	社会参加	234	地域移行・定着	39	権利擁護	36
※ 家計・経済に関する相談のうち、年金に関する相談は 270 件 ※ 福祉サービスに関する相談のうち、児童に関する相談は 375 件 ※ 新規相談件数 125件（本人/16 家族/41 行政/19 保健センター/4 教育/3 医療/6 まいさぼ/10 ナカボツ/2 包括/1 その他/23）								

【長野市障害者相談支援センター事業】

令和 5 年度 長野市北部・南部障害者相談支援センター活動報告

1．長野市北部・南部障害者相談支援センターとは

障害者相談支援センターは、長野市から委託を受けた 6 つの社会福祉法人（絆の会、廣望会、信濃の星、長野市社会事業協会、長野県社会福祉事業団、長野南福祉会）から、相談員を派遣して運営しています。南と北に 1 ヶ所ずつセンターがあり、市内にお住まいの障害のある方やご家族、関係機関等からの相談窓口、相談支援に関わる人材の育成、地域づくりの 3 つを主な業務としています。具体的な役割は、次のとおりです。

2．長野市北部・南部障害者相談支援センターの役割

1) 総合相談窓口

主に障害のある方やご家族からの総合的な相談を受け、一緒に考えています。

計画相談支援が必要な方には、相談支援事業所の相談支援専門員に引き継ぎます。その人らしい生活を支えるため、相談支援専門員と一緒に関わりを続けることもあります。サービスにつながっていない方には、必要に応じて継続的な相談も行っています。

2) 人材育成

主に相談支援専門員を対象とした研修の企画・運営・講師等を担い、相談支援従事者の更なるスキルアップと相談支援体制の充実を目指します。

3) 相談支援事業所との連携・バックアップ

地域全体で相談支援を行うために指定相談支援事業所（計画相談など）と連携を強化しています。

4) ふくしネットへの参画

個別の相談から見えてきた地域課題について部会に参画し、解決に向けて取り組んでいます。

5) 関係機関との連携

地域生活での多様なニーズに応えるために地域の関係機関と連携を強化しています。

3. R5 年度相談件数（令和 5 年 4 月～ 12 月）

相談者内訳（延べ人数）

相談者別	本人	4,275
	家族	1,559
	その他	5,961
合 計		11,795

その他：行政、保健センター、保健所
医療関係、介護保険関係、相談支援事業所
就労支援機関、生活困窮支援機関、学校関係
地域支援者、相談支援センター等

相談内容（複数選択あり）

福祉サービスの利用等	7,418
障害や症状の理解	2,300
健康・医療	2,410
不安の解消・情緒安定	2,361
保育・教育	271
家族・人間関係	2,093
家計・経済	1,712
生活技術	2,203
就労関係	1,871
社会参加・余暇活動	979
権利擁護	134
その他	696
合 計	24,448

4. R5 年度長野市北部・南部障害者相談支援センターの取り組み

1) 人材育成

長野県障がい者相談支援従事者研修（初任者・現任）演習講師・実地実習、相談支援専門員等スキルアップ研修の企画・実施（3 回）だれでも研修会への出席。

2) 相談支援事業所との連携・バックアップ

巡回訪問、メーリングリストによる情報提供、相談支援事業所の集まりを開催（北部初、南部 2 回目）。

3) ふくしネットへの参画

相談支援センター専門員が部会等に参加し、ふくしネットへの関わりを意識している。

ケアマネ連絡会参照

4) 関係機関との連携（例）

地域福祉連携の会 松代若穂地区（南部 2 回）第 3・4・5 地区（北部 2 回）。

自殺対策推進ネットワーク会議参加。

県リハビリテーションセンター「高次脳機能障害 当事者・家族のつどい」参加。

その他地域包括支援センターや民生児童委員会、住民自治協議会の会議に出席。

5) センター間の情報交換

毎月 2 回センター連絡会を行い、各センターの動きや取組、社会資源・事業所の動向、障害者相談支援センターの相談の流れや書類整理のルール、について共有した。また毎月 1 回事例検討を行い、相談員の役割や継続ケースについて共有した。また委託期間の区切りとなる 3 年目の総括として、障害者相談支援センターの業務内容の確認と整理を行った。

５．今年度を振り返って

複雑な背景や経過の相談ケースが増加しており、障害福祉サービスだけでは解決できず、様々な関係機関との連携が必要となっており、幅広い知識が求められる。（例えば、未受診、長い期間のひきこもり、８０５０、相続、債務整理、触法行為等などの複数の課題を合わせ持つケースなど）

障害者相談支援センターの業務や役割がわかりにくいという声がある。相談者や関係機関にわかりやすく周知していく必要性を感じる。

R6年度より基幹相談支援センターの設置を目指していたが、叶わなかった。基幹相談支援センターで担う業務を、相談支援センターで引き続き担っていくことを期待されているが、相談支援、人材育成、地域づくりの３本柱の業務を、現在の人員で十分に行うことが難しい。